

FD Review vol. 1

FD REVIEW

vol. 1

佛教大学教授法開苑室

目 次

FD Reviewの創刊を祝して	学長 福原隆善	
FD Review 発刊にあたって	教授法開発室長 松本真治	
教授法の開発をめぐる現状と課題	教学部長 榎本福寿	1
FD活動雑感	教授法開発室員 清水 稔	3
2004年度および2005年度 英語基礎力調査 データと分析	教授法開発室長 松本真治	6
基礎学力調査の経緯と結果	教授法開発室員 近藤敏夫	30
2005年度佛教大学授業評価アンケート報告書		46
〔授業公開〕		
「環境学A」		118
「近・現代文学講読Kc」		120
「アメリカの社会と福祉A」		120
第1回FD座談会 佛教大学における外国語教育について（前編）		122
第1回FD座談会 佛教大学における外国語教育について（後編）		125
第2回FD座談会 国語教育について（前編）		129
第2回FD座談会 国語教育について（後編）		133
「e-learningの導入経過について」	教学部担当部長 樹下隆興	139
2005年度 活動記録		141
2005・2006年度教授法開発室		142

FD Reviewの創刊を祝して

学長 福原隆善

佛教大学は、浄土宗の宗祖、法然上人の遺志を受け継ぎ、人格識見高邁にして、活動力ある人材の養成を目的とし、世界文化の向上、人類福祉の増進に貢献することを使命としている。法然上人の大学であるという大学設立の基本理念に立ち、大学のありかたや将来を展望し、特色ある大学像をめざさなければならない。基本方針としては、建学の精神に基づき高度な教育研究の推進、そして学生への充実した教育研究の提供があげられよう。

教育改革が叫ばれて久しいが、その成果は十分とは言えず、大学教育に対する社会からの評価は極めて厳しい。また、大学としての自己点検・評価は進んできているものの、必ずしも教員の教育改革への意識は高いとは言えない。

本学では、学生への充実した教育の提供を支え、積極的かつ組織的に授業改善を推進してゆくための部署として教授法開発室を平成12年に開設した。教授法開発室では、英語基礎力調査、基礎学力調査、授業評価アンケート、教員が授業を参観する授業公開、e-learningによる授業の実施、そしてメディア教材開発等の活動を行うことにより、よりいっそうの授業改善を推し進めるべく努力している。

従来、教授法開発室では、その成果を公開する手段の一つとして『教授法開発室だより』を年2回発行していたが、開設以来6年を経た今、新たな試みとして、教授法開発室の活動の総括的な刊行物である『FD Review』を発行するに至った。これは、まことに喜ばしいことであり、また、この『FD Review』が、本学の取り組む教育改善の推進役の一端を担うであろうことを信じてやまない。

FD Review 発刊にあたって

教授法開発室長 松本真治

教授法開発室では、2000年度の設立当初より『教授法開発室だより』を刊行してきた。この『教授法開発室だより』は、学内でのFD活動の啓蒙的役割と広報的役割を果たし、学外からも注目されてきた。また2005年度には、新しい情報をいち早く提供するために『学内報』誌上に「FD Bulletin」の掲載を開始している。さらに本年度より教授法開発室活動の総括として『FD Review』を発刊することにした。この『FD Review』は一つに「具体的に目に見える結果を出す」という教授法開発室の目標を具現するものである。

『FD Review』は、『教授法開発室だより』や「FD Bulletin」のような啓蒙的・広報的役割を果たすものではなく、その性格として次の3つの基本姿勢をあげておきたい。

Accountable（説明責任）：

設立より7年目を迎え、教授法開発室自体の活動は安定したものとなり、次の課題としてはFD活動の裾野を広げていくことが求められる。たとえば、授業評価アンケートの実施率を上げるといったような、本学教職員のFD活動への関与を高めることが必要となってこよう。しかし同時にFD活動がより全学的になるということは、FD活動の中心となっている教授法開発室が全学に対してより大きな説明責任（accountability）を負わなければならないことも意味している。もちろんこれは『教授法開発室だより』が説明責任を果たしてこなかったということではないが、『教授法開発室だより』で提供できる情報が限られたものであったということは認めざるをえない。実際、そのリーフレットスタイルという制約のために、様々な調査の詳細なデータや分析ではなく、その概要の紹介にとどまることが多い。また、当該年度の調査報告が中心となり、複数年にまたがる調査結果に基づいた大部な原稿を掲載できていないということもある。このような実情を鑑みて、『FD Review』は全学に対し本学におけるFD活動の意義を十分説明できうる情報を提供する場となるべきであろう。

Academic（学究的）：

『FD Review』は教授法開発室の説明責任を果たす場であるが、そこでは調査と研究に基づく実証的な情報が提供されなければならない。たとえば授業評価アンケートの結果の扱いに関しても、その結果をもって即「授業はこうあるべし」という短絡的な発想では、授業を行う側の教師に対する説得力は乏しいと言わざるをえないであろう。アンケート結果はあくまでも「学生の側から見たよい授業」であるという前提を明確にしておかなければならない。授業改善は教師と学生の両側からの働きかけによって成し遂げられるものであり、多角的な検討なくしては何が「よい授業」であるのかは定義できない。データの意図的な読み替えではアカデミックな論争へとつながらないであろうし、それは教員のFD活動に対する不信感へとつながりかねない。またe-learningシステムの

利用に関しても、システムの薔薇色の側面を強調するだけでなく、客観的な観点から功罪両面が論じられなければならないであろう。『FD Review』で提供される情報はプロパガンダではなく、学究的な観点からの批判にも耐えうるものでなければならず、FDという言葉が本来意味する「教員集団の資質開発」や、さらには教学をはじめとする様々な大学全体の政策決定の基礎資料となることを期待したい。

Aspiring（意欲的）：

教授法開発室はその立ち上げ時には、FD活動を本学に根づかせるために様々な試行錯誤を繰り返してきた。その結果として、今日、授業評価アンケート、前提学力調査（基礎学力調査、英語基礎力調査）、e-learningシステム等を中心に据えた安定した活動が行われるに至ったのであるが、実はこの安定期は、ともすれば停滞期に変化する危険性をはらんでいる。FD活動のマンネリ化を打破するためには、教授法開発室が自らの活動を総括し、まとまった成果を示すことによって、そこから新たな展開を生み出していくという意欲的な姿勢を示さなければならないであろう。もちろんFD活動に伴うすべての問題が教授法開発室内だけで解決できるということはありえないが、少なくとも問題先送り型の総括ではなく、外部への問題提起型の総括が必要であろう。教授法開発室自体が「次年度への課題」という一言で片づけてしまうという逃げ腰姿勢をとり続けるのであれば、全学レベルでの意欲的なFD活動を到底期待することはできない。『FD Review』が全学に向かって新たな課題を提起し、それが本学の教育の質的向上へと結びついていくというサイクルが構築されるのを期待したい。

現在では、全国のどの大学・短大でもFD活動の必要性はすでに認識されている。しかしながら、その必要性は理解されていても、具体的にどのようにしてFD活動を推進し、さらには活性化させていくのかが大きな問題として立ちはだかっている。本学におけるFD活動も、決して順風満帆ということでもないというのは周知の事実であろう。その問題解決の一助とすべく、今回『FD Review』を発刊するに至った。FD活動は教授法開発室だけのものではなく、全学的に取り組まなければならない活動である。本学のFD活動の活性化のためにも『FD Review』に対する諸氏の忌憚のないご意見ご批判を賜りたい。

教授法の開発をめぐる現状と課題

教学部長 榎 本 福 寿

本学は、平成12年に教授法開発室を開設している。現在では、各学部選りすぐりの教員12名がこの室員を務め、取り組む活動は多岐にわたる。その活動を、教授法開発室課長、主任、契約専門職員の事務スタッフ3名が支える。こうして整った組織の下に、これまでの活動実績を踏まえ、教授法開発室の年間活動、とりわけ部門制を敷いて室員が担当スタッフとして取り組む各部門の活動内容、その成果や検証結果などを中心に報告書としてまとめたのが本書である。「知識基盤社会」の時代という21世紀の大学にあっては、高等教育の質の保証が優先的な課題であり、その実現に向け、第三者評価機関による認証評価とFD活動との連携が重要な課題として提起されてもいる（中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像（答申）」平成17年1月28日）。本学が今後進める教授法開発の方向性を議論する上にも、本書の果たす役割は決して小さくはないであろう。

さて、本学の教授法開発を巡っては、上に述べた通り教授法開発室を中心に、各部門担当の教員スタッフの活動を事務スタッフが支えるというかたちをとる。この点が重要である。なぜなら、最近の資料、たとえば日本私立大学協会発行の『大学教務に関する実態調査—平成16年度調査—集計結果』（平成18年3月）によれば、専門事務部署に専従事務職員を置いて組織的に取り組んでいる大学はなお少数に留まるからである。この調査結果はFD活動に関するものだが、FDに限定してさえそれが実態である。

たしかに、大学審議会の答申「21世紀の大学像と今後の改革方策について」（平成10年10月）が「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称」と定義したFDの活動は、急速に広がっている。上記調査結果によれば、それを「組織的にやっている」大学は、平成12年度の36.9%から平成16年度になると64.3%に達する。その一方、組織的な活動の個々の内容となると、「学内でFDに関する研修活動を行っている」（68.8%）「委員会等の組織でFDに関する調査・研究を行っている」（61.9%）「参考文献等を教員に配布し、啓蒙活動を行っている」（17.3%）などが多くを占め、本学の体制に通じる「FDを専門に行う教学組織の設置」大学の割合は、平成16年度でも、たかだか23.3%を占めるに過ぎない。

現在では、もちろんこの程度にとどまるものではないであろうが、それにしても、本学がいちはやく教授法開発に取り組み、組織や体制の整備を含めそれを積極的に進めてきたことは特筆に値する。その反面、教授法開発室の設置が結果としてもたらず問題がないわけではない。事務部署としてルーチンの分掌業務を処理することは当然だが、授業のなかには、1・3回生対象の基礎学力調査や、1回生対象の英語基礎力調査、大学コンソーシアム京都の計画実施する高大連携事業への参画と支援等が入るほか、入学前教育もかかえる。教授法開発にこれらが必要ないし有機的に結びつけばともかく、現状は必ずしもそうした仕組みにはなっていない。専従の事務職員にそれらが重くのしかかってさえいる。

しかしながら、この問題は教員の側にいっそう深刻である。そもそもFD（Faculty

Development) は、「大学教授団の資質開発」(大学セミナーハウス編『大学力を創る：FDハンドブック』平成11年3月)と訳される教員の自発的かつ主体的な取り組みのはずなのだが、教授法開発室があり、専従の事務職員の支援体制が整っているだけに、逆に、それだけこの肝心要の自発や主体を削ぐ結果を招いているのではないか。授業評価アンケートの実施率は、本年度春学期ようやく79.3%に達したとはいえ、FD活動の柱ともいべき授業公開の件数がわずかに5件、参観者にいたっては平均2名にとどまる。

この現状は重い。前述の調査結果を参照してみると、授業評価アンケートはほとんどの大学が実施し、その結果について「学内・学外を問わず広く一般に公表している」が15.8%、「学内の教職員・学生にのみ公表している」が17.2%、「学内の教職員にのみ公表している」が27.5%というように積極的に公表する大学が多数を占める。本学でも、教授法開発室がアンケート結果を「全体」・「学部別」・「科目種別」・「男女別」・「回生別」に集計し報告書にまとめて公表しているが、現段階では、なお単純集計にとどまる。各授業ごとの結果にいたっては、「評価を受けた担当教員にのみ結果を報告している」(27.5%の大学)というのが実情であり、評価結果の活用も教員個々に任せているので、他大学に先駆けて設置した「FDを専門に行う教学組織」も、十分その役割を果たしているとはいえない。「授業評価結果を組織的に授業改善へフィードバックさせる有効な手法を確立することが、現在の各大学のFD活動に求められている最大の課題です。」(日本私立大学協会『多様化する学生に対応した教育改革』平成16年4月)という指摘、さらには「FD活動が目指す本質的な目標は、教職員の資質改善を通じた学生教育の改善です。」(同前)という提言を、教員一人一人が重くうけとめる必要がある。

※本文中に表示した数値(割合)は、本学関係のもの及び一部を除き、いずれも「複数回答可」による調査の結果です。

FD活動雑感

教授法開発室員 清水 稔

本学の大学改革は、1993（平成5）年度の Semester 制の導入と新カリキュラム（教育課程）への全面移行によって始まった。その背景には、1991（平成3）年に大学教育の枠組みを決めている大学設置基準が大改正され、教育内容の自由化いわゆる大学教育の規制緩和が打ち出されたことにある。そこでは、卒業所要単位数は変えないで、各分野の単位の割り振りを自由にし、特色のあるカリキュラムの編成と柔軟な教育組織の構築をはかると同時に、自己点検評価（この文言が最初に登場したのはおそらくこの時である）を行い、教育と研究のレベルの向上に努めることが求められた。本学は、これをいち早く積極的に受けとめて不断の改革を行い、大学の活性化と生き残りをはかってきた。それは、学生の現代的ニーズに応えうる特色あるカリキュラムの改定や学部・学科・コースの再編成、教授会や学内委員会等の審議・決定機関の機能の見直しと拡充、大学の総点検を行う大学評価委員会の設置等となって結実した。とりわけ大学改革のもう一つの柱ともいえる自己点検評価の活動に関しては、1995（平成7）年11月に『佛教大学白書』を、1999（平成11）年7月には大学基準協会の加盟判定審査にむけて『佛教大学の現状と展望』を、2006（平成18）年4月には第三者評価機関（大学基準協会）の認証評価にむけて『佛教大学自己点検・評価報告書』を、それぞれ公刊してきた。またこうした自己点検評価の活動のなかで教育・研究、とくに教育の質的向上をはかるために、2000（平成12）年4月に教授法開発室を設置した。それは、教員が取り組むべき教育（授業）の改革・改善にむけての全学的な拠点として、また教員のFD（教授法の開発・改善）活動の支援・発信・研究の場として今日に至っている。

以上教授法開発室・FD活動が、大学改革および大学点検評価の一環として位置づけられてきたことを確認した。このことと『教授法開発室だより』（2000/9-2006/4）における現状や提言をふまえて、本学のFD活動の今後のあり方についてその一端を思いつままま述べておきたい。

大学改革は、教育課程の改定とか学部・学科の再構築とか制度の改革等のいわゆる外面的な改革によって完結するわけではない。改革を生き生きとした内実のあるものにするには、大学に学ぶ学生を教育する教員の資質の向上（教員の情熱、授業の改善）に負うところが極めて大きい。この資質の向上をはかることこそが大学改革の終着点である。

今や大学は、全入の時代から定員割れの時代へと突入しようとしている。そこに学ぶ学生たちは、ややもすれば勉学意欲も、学ぶ目的意識も乏しい者が多数を占めつつある。その一方で大学を取り巻く環境の変化のなかで、学生も保護者も企業も、大学は授業料に見合う対価を付加価値として身につけて社会に送り出すことをつよく求めている。こうした現状の認識がないまま、教員が自由勝手な教育（授業）を続けていれば、大学の教室は無秩序状態となり、大学崩壊へとつながることになるであろう。

大衆化した大学の第一の社会的責任は、入学を許可した学生たちに、教育（授業）で可

能な限り満足を与えるように努力することであり、また付加価値をつけて社会に送り出すことである。その最大の責任を担っているのは教員ではないだろうか。大衆化時代の大学教員の責務は、専門科目の内容を教えるだけでは果たせない。幅広い教養を身につけた、より良き社会の中間層となりえる学生を育て、世に送り出すことであり、とりわけ課題追求型の人材を育てるために、教員の教育力・授業力の高さが求められている。

大学とは誰のものか。大学教員の主たる仕事は、学生に授業をすること（教育）、専門の研究を行うこと（研究）、学会活動を含む社会サービスである。大学教員の場合、研究については学生時代からその方法についてかなりの訓練をつんできているが、こと教育についてはまったくといっていいほど訓練されていない。大学進学率が15%にも満たないエリート教育の時代ならまだしも、大衆化した今日の大学の時代にあって、教員がもらう給料は、基本的には教育することに対する対価として支払われている。授業料を納める保護者も、それを子供の教育費として支払っているはずである。学生や保護者が授業料に見合う教育サービスを大学に要求するのは当然のことであり、この自覚が教師に求められている。言い換えれば教員の教育を最大限に重視し、教育業績をきちんと評価すること、これが大衆化した大学の使命である。

教授法開発室の業務の一つである授業評価、その一端としての学生による授業評価の実施は、以上の現状をふまえた、教員の資質の向上をはかるための第一歩として位置づけられる。あらためて授業評価とは何かを明確にしておく。授業評価は、教員を評価することではない。個々の教員の授業を評価することであり、個々の教員が自分の授業を改善するためのものである。その目的は教員の実力・能力をチェックするためのものではなく、高い授業料を払っている学生の授業満足度・到達度をチェックし、彼らの可能性を引き出す授業を実現するために、教員が努力するための指標とするものである。

ところで大学の教員は、自らの授業を学生がどの程度まで理解しているのか、また授業の方法を変更し改善する必要があるかどうか等について、どの程度知る努力をしているであろうか。授業評価とはあくまでも授業改善の一つである。学生の視点に立ってその満足度・到達度を知ることであり、けっして学生への迎合、質の低下を求めているものではない。現行の大学設置基準では、大学教育の自由化によって教室内の学修時間数の割合を最低とし、学外での学修（自主的に学ぶこと）に多くの時間を求めている。換言するならば学生が自らの意思で学ばなければ、大学教育の質と量は低下せざるをえないのが現状である。したがって授業のあり方を、上から知識を押しつける方法から、学生が自分の意欲で学ぶことを教える方法へと転換し、学問の面白さ、未知のものを自ら調べる醍醐味を体感させる、そのための授業テクニックが要求されているのである。

授業評価は、大学評価のすべてではない。授業評価を究極的には教員評価システムのなかに位置づけることである。教員評価システムとは、教員の研究、教育、その他の実績を昇進・研究費配分・賞与・サバティカル休暇等に反映させるシステムのことであり、これは大学全体の教育・研究の質の向上のみならず、教員の能力開発を実効あるものにするために不可欠である。あえていわせてもらえば勤務の評価につながる授業評価は改革のブレーキとなる。

大学改革の成功は、トップの強力なリーダーシップと決断力と、教職員間から改革に対するクリエイティブな活動が湧き出てくることの相乗によるが、まず民主的に下からの創

造的な活動を汲み上げて、最終的な意思決定にあたってはトップが独裁的に決断を下し、しかもトップが責任を負うことにある。教授法開発室およびFD活動の抱える諸問題の多くは、大学改革および大学点検評価活動の延長線上にあって、それと密接にリンクしている。実行にあたっては最終的にはトップの決断にすべてがかかっているといっても過言ではない。

2004年度および2005年度 英語基礎力調査 データと分析

教授法開発室長 松本真治

1. はじめに

コミュニケーション・ツールとしての英語の必要性については、国際化社会となった今日においては敢えて議論の必要はなかろう。この流れに対応すべく、教授法開発室ではカリキュラム改革が実施された2004年度より、全新入生を対象に入学時（4月初め）と1回生終了時（1月末もしくは2月初め）にTOEIC Bridge IPテストを利用した英語基礎力調査を実施している。英語基礎力調査は各学生の4年間の学修計画および卒業後の進路決定に寄与すると同時に、本学における英語教育プログラムの改善にも役立つものである。本稿では、英語基礎力調査の結果を分析し、1回生の英語力の実態を明らかにする。また、就職部キャリア開発室が全学を対象に実施しているTOEIC IPテストの結果を用いて、佛教大学全体の英語力を把握する。

2. 英語基礎力調査

2.1 TOEIC Bridge IPテスト

2.1.1 TOEIC Bridge IPテストとは

英語基礎力調査で利用したTOEIC Bridgeテストとは、初・中級レベルの英語コミュニケーション能力を測定するために開発されたテストであり、TOEICテストよりも平易で、日常的な身近な内容が出題されている。分量的にもTOEICテストの半分で、リスニングテスト（25分・50問）とリーディングテスト（35分・50問）の合計1時間・100問で行われ、スコアは2点刻みで、リスニング、リーディングの各セクションとも10点～90点、トータルスコア20点～180点という形で表される。また、TOEIC Bridgeテストには、5分野3段階評価のサブスコアというものがつけられる。

IP [=Institutional Program：団体特別受験制度] テストとは、財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会・TOEIC運営委員会が実施する公開テストではなく、実施団体が独自に運営・管理する試験である。公開テストとIPテストでは、試験問題やスコアの違いはないが、IPテストではOfficial Score Certificate（公式認定証）が発行されない。

2.1.2 TOEIC BridgeテストとTOEICテスト

当初、TOEICスコア450点以下がTOEIC Bridge受験の、そしてTOEIC Bridgeスコアが160点に達した場合がTOEIC受験の目安であるが、TOEICスコア450点とTOEIC Bridgeスコア160点には相関関係はないというのがTOEIC運営委員会の見解であった。しかしついに、2006年5月、TOEIC運営委員会は2000年11月から2005年9月までの間に、TOEIC

BridgeとTOEICテストの両方を6ヶ月以内に受験した15,569名の日本と韓国の受験者データを基に予測したTOEIC BridgeとTOEICテストのスコア比較表を公開した(表1)。

表1. TOEIC BridgeとTOEICテストのスコア比較表

TOEIC Bridge	90	100	110	120	130	140	150	160
TOEIC	230	260	280	310	345	395	470	570

TOEIC Bridge160点以上および90点未満のスコアレンジにおいては有効なデータが得られていないので、比較表には掲載されていないとのことである。なお、TOEIC Bridge 160点以上のレベルにおいては、TOEICテスト受験が奨励されている(TOEIC運営委員会2006b)。

2.2 実施データ

各回とも全新入生(1回生)を対象として実施しているが、受験者のうち、リスニングテスト未受験、つまりリーディングテストしか受験していない者は受験者総数から除外している。

●2004年度 第1回

実施日:2004年4月6日(火)

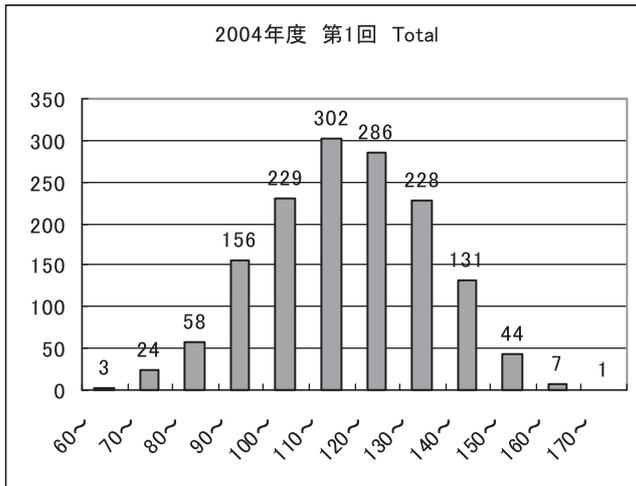
対象者:1回生(文学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部)

受験者数:1469人

表2. 2004年度 第1回(1469人)

	Total	Listening	Reading
平均点	117.6	56.8	60.7
標準偏差	18.2	9.8	10.7
最高点	170	86	88
最低点	62	28	30

図1. 2004年度 第1回 スコア分布 (1469人)



●2004年度 第2回

実施日：2005年1月29日（土）・2月7日（月）

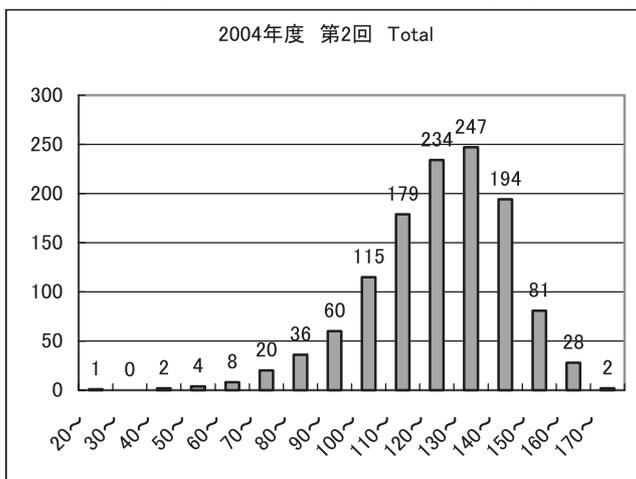
対象者：1回生（文学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部）

受験者数：1211人

表3. 2004年度 第2回 (1211人)

	Total	Listening	Reading
平均点	124.4	61.6	62.8
標準偏差	20.6	10.0	12.1
最高点	172	86	88
最低点	26	14	12

図2. 2004年度 第2回 スコア分布 (1211人)



●2005年度 第1回

実施日：2005年4月4日（月）

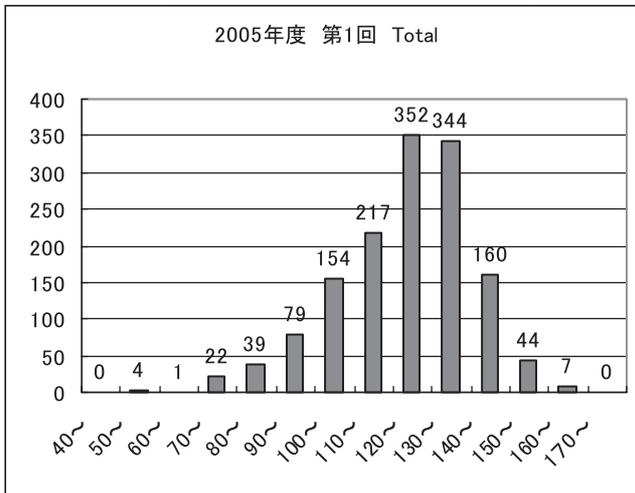
対象者：1回生（文学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部）

受験者数：1424人

表4. 2005年度 第1回（1424人）

	Total	Listening	Reading
平均点	122.4	58.6	63.8
標準偏差	17.5	8.4	11.0
最高点	168	88	86
最低点	38	20	12

図3. 2005年度 第1回 スコア分布（1424人）



●2005年度 第2回

実施日：2006年2月2日（木）

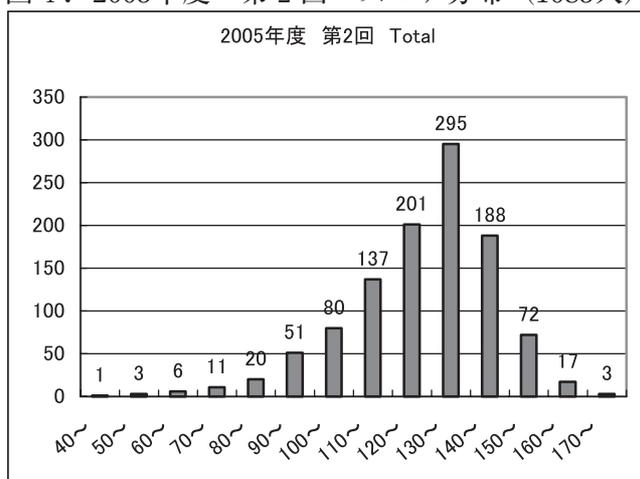
対象者：1回生（文学部・教育学部・社会学部・社会福祉学部）

受験者数：1085人

表5. 2005年度 第2回（1085人）

	Total	Listening	Reading
平均点	126.9	61.6	65.3
標準偏差	18.8	8.6	11.7
最高点	176	86	90
最低点	46	28	18

図4. 2005年度 第2回 スコア分布 (1085人)



3. データの分析 (1)

3.1 1回生の英語力 (母集団平均値) の推定

2004年度から2005年度にかけて実施した計4回の英語基礎力調査のデータを基に、入学年度単位ではなく、佛教大学1回生という大きな母集団の英語力の実態を捉えることにする。

3.1.1 入学時における英語力の推定

2004年度と2005年度の入学時 (第1回) のスコアを比較すると、2004年度入学生の成績が低い (表6)。

年度によって入学生の英語力の違いがあることは当然のことであるが、実は数字だけでは判断できない要因もある。2004年度第1回英語基礎力調査を実施した際に、社会福祉学部1回生 (302人) が受験した教室は音響設備が悪く、テープ音声聞き取りにくい状況であった。社会福祉学部1回生と文学部・教育学部・社会学部1回生の成績を比較すると、リーディングテストの平均点は60.6点 (福) / 60.8点 (文・教・社) というようにほぼ同じであるが、リスニングテストの平均点は47.0点 (福) / 59.3点 (文・教・社) と大きく差が開いている (松本 2005: 85)。しかしながら、教室環境の違いがどの程度までリスニングテストの点数に影響したのかは、再試験を実施していないので明らかではない。

表6. 第1回 平均点比較

	Total	Listening	Reading
2004年度	117.6	56.8	60.7
2005年度	122.4	58.6	63.8

2004年度と2005年度の第1回英語基礎力調査の結果を基にして、本学学生の入学時の英語力を統計的に推定 (t 推定) してみると、次のようになる。

◆入学時におけるTOEIC Bridgeテストスコアの平均

⇒ 信頼度95%で、119.3点から120.6点の間と推定される。

3.1.2 1回生終了時における英語力の推定

2004年度と2005年度の第2回調査結果から、1回生終了時（第2回）の英語力を比較すると、2005年度入学生の平均点が2004年度入学生よりもやや高く（表7）、スコア分布については2005年度入学生の方が130点台に位置する学生数が多い。

表7. 第2回 平均点比較

	Total	Listening	Reading
2004年度	124.4	61.6	62.8
2005年度	126.9	61.6	65.3

2004年度と2005年度の第2回英語基礎力調査の結果を基にして、本学学生の1回生終了時の英語力を統計的に推定（*t*推定）してみると、次のようになる。

◆1回生終了時におけるTOEIC Bridgeテストスコアの平均

⇒ 信頼度95%で、124.8点から126.4点の間と推定される。

3.2 1回生のTOEIC Bridge 150点以上の比率の推定

TOEIC運営委員会は次のようなProficiency Scale（TOEICスコアとコミュニケーション能力レベルとの相関表）を公表している（表8）。

表8. Proficiency Scale

レベル	TOEIC スコア	評価（ガイドライン）
A	860	Non-Nativeとして十分なコミュニケーションができる。
B		どんな状況でも適切なコミュニケーションができる素地を備えている。
C	730	日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる。
D	470	通常会話で最低限のコミュニケーションができる。
E	220	コミュニケーションができるまでに至っていない。

大卒新入社員の平均TOEICスコアが471点であり、企業が社員に期待するTOEICスコアは550点以上となっており、TOEICレベルC以上のスコアということになる（TOEIC運営委員会 2006a）。本学の英語プログラムの教学目標も2年間の学修でTOEIC 500点到達であり、レベルCのレンジに含まれる。TOEIC 470点はTOEIC Bridgeテストに換算すると150点ということになる（表1参照）。

3.2.1 入学時におけるTOEIC Bridge 150点以上の比率の推定

2004年から2005年度にかけて平均点が上がっているのに対して、TOEIC Bridge 150点以上の英語力を持つ入学生の比率は横ばい状態である（表9）。

表9. 第1回 スコア150点以上

	2004年度	2005年度
受験者数	1469	1424
150点以上	52 (3.5%)	51 (3.6%)
平均点	117.6	122.4

2004年度と2005年度の第1回英語基礎力調査の結果を基にして、本学入学時にTOEIC Bridge 150点以上の英語力を持つ学生の比率を統計的に推定してみると、次のようになる。

◆入学時におけるTOEIC Bridge 150点以上の学生の比率

⇒ 信頼度95%で、2.9%から4.2%の間と推定される。

3.2.2 1回生終了時におけるTOEIC Bridge 150点以上の比率の推定

1回生終了時点では、2005年度は2004年度よりもTOEIC Bridge 150点以上の英語力を持つ学生の比率が若干下がっている（表10）。

表10. 第2回 スコア150点以上

	2004年度	2005年度
受験者数	1211	1085
150点以上	111 (9.2%)	92 (8.5%)
平均点	124.4	126.9

2004年度と2005年度の第2回英語基礎力調査の結果を基にして、本学学生の1回生終了時にTOEIC Bridge 150点以上の英語力を持つ学生の比率を統計的に推定してみると、次のようになる。

◆ 1 回生終了時におけるTOEIC Bridge 150点以上の学生の比率

⇒ 信頼度95%で、7.7%から10.0%の間と推定される。

3.3 学年全体としての英語力の伸び

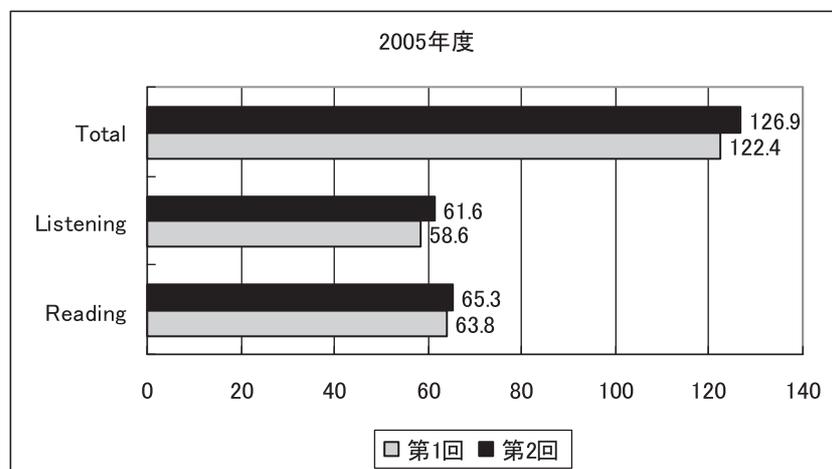
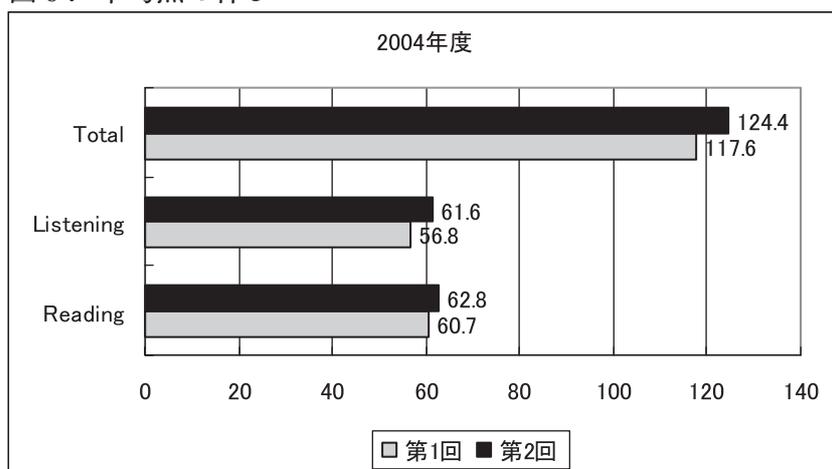
3.3.1 平均点の伸び

2004年度および2005年度のそれぞれの入学時（第1回）と1回生終了時（第2回）のスコアを比べると、全体としてトータル、リスニング、リーディングのいずれの平均点も上昇していることがわかる（表11、図5）。

表11. 平均点の伸び

	2004 年度			2005 年度		
	Total	Listening	Reading	Total	Listening	Reading
第1回	117.6	56.8	60.7	122.4	58.6	63.8
第2回	124.4	61.6	62.8	126.9	61.6	65.3
伸び	6.8	4.8	2.1	4.5	3.0	1.5

図5. 平均点の伸び



また、各年度のトータルスコア、リスニングスコア、リーディングスコアの伸びを統計的に検定（独立した2群の母平均の差の検定：Z検定）すると、いずれの場合もp値（上側確率）は0.01よりも小さく、信頼度99%でも有意の伸びと判断できる。

3.3.2 TOEIC Bridge 150点以上の人数・比率の伸び

TOEIC Bridge 150点以上の英語力を持つ学生の人数・比率に関して言えば、2004年度も2005年度も同じような傾向にあり、いずれもTOEIC Bridge 150点以上の比率は入学時から比べると1回生終了時には2倍以上になっている。第2回目調査の時には受験者数が減少するため、比率とは完全に比例しないが、それでも確実に2倍程度の人数が150点以上のレベルに到達している（表12）。

表12. TOEIC Bridge 150点以上の人数・比率

	2004年度			2005年度		
	受験者数	150点以上		受験者数	150点以上	
第1回	1469	52	3.5%	1424	51	3.6%
第2回	1211	111	9.2%	1085	92	8.5%

4. データの分析（2）

4.1 対応のあるデータの抽出とその分析

4.1.1 対応のあるデータ

1年間の英語力の伸び具合をさらに詳しく把握するために、第1回と第2回の英語基礎力調査を両方とも受験した学生のデータを抽出すると以下ようになる（表13、14）。

●2004年度 抽出数：1195人

表13. 2004年度 対応のあるサンプル (n=1195)

	第1回			第2回		
	Total	Listening	Reading	Total	Listening	Reading
平均点	118.5	56.8	61.6	124.6	61.7	62.9
標準偏差	17.5	9.7	10.1	20.5	10.0	12.0
最高点	170	86	88	172	86	88
最低点	62	28	30	26	14	12

●2005年度 抽出数：1073人

表14. 2005年度 対応のあるサンプル ($n=1073$)

	第 1 回			第 2 回		
	Total	Listening	Reading	Total	Listening	Reading
平均点	124.2	59.2	65.0	127.1	61.7	65.4
標準偏差	16.5	8.2	10.2	18.7	8.6	11.7
最高点	164	88	86	176	86	90
最低点	38	20	12	46	28	18

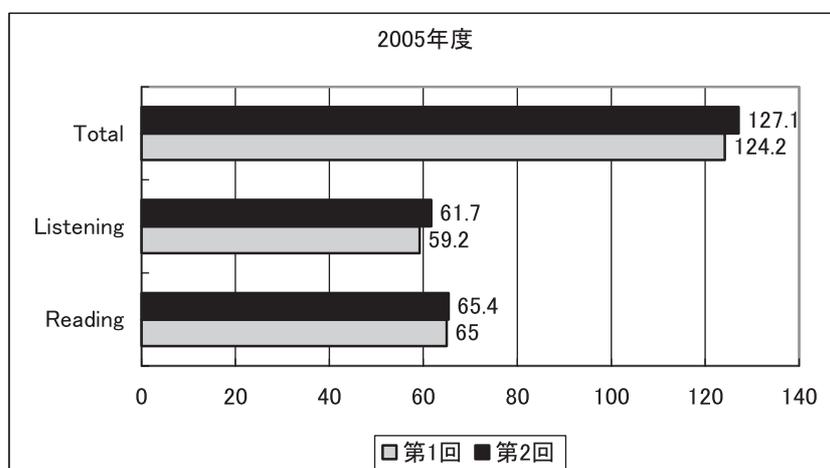
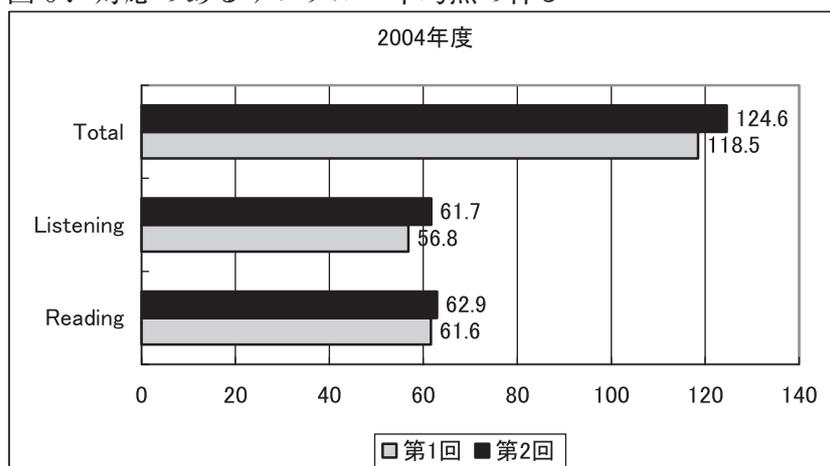
4.1.2 対応のあるサンプルの平均点の伸び

対応のあるデータを比較しても、トータル、リスニング、リーディングのいずれの平均点も上昇していることがわかる（表15、図6）。ただ、2005年度のリーディングの伸びが悪い。また、2005年度受験者全体の伸びと比べると、2回とも受験した学生の伸びは悪い（表11参照）。

表15. 対応のあるサンプル 平均点の伸び

	2004年度 ($n=1195$)			2005年度 ($n=1073$)		
	Total	Listening	Reading	Total	Listening	Reading
第1回	118.5	56.8	61.6	124.2	59.2	65.0
第2回	124.6	61.7	62.9	127.1	61.7	65.4
伸び	6.1	4.9	1.3	2.9	2.5	0.4

図6. 対応のあるサンプル 平均点の伸び



各年度のトータルスコア、リスニングスコア、リーディングスコアの伸びを統計的に検定（関連のある2群の平均値の差の検定：対応のある t 検定）すると、2005年度のリーディングを除き、 p 値（上側確率）は0.01よりも小さく、有意の伸びと判断できる。しかしながら、2005年度のリーディングスコアの伸びを検定した場合、 p 値（上側確率）は0.0563となり、信頼度95%レベルでも有意差はなく、有意の伸びとは言えない。

4.2 個々の学生の英語力の伸び（対応のあるデータの分析）

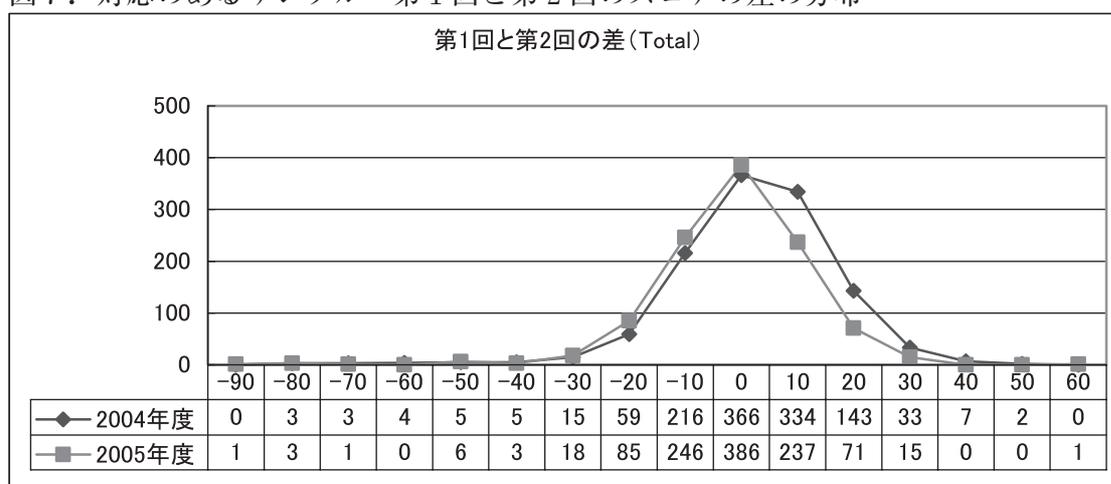
4.2.1 対応のあるサンプルのスコアの変化

1回生終了時での個々の学生の英語力の伸び具合であるが、全体としての伸びの平均と比べると個人差が激しい。トータルスコアで見れば、2004年度は50点の上昇から80点の下降まで、2005年度では60点の上昇から86点の下降までというように、わずかではあるが突出した数値が見られ、最高と最低の範囲が広がっている（表16、図7）。これはリスニングスコア、リーディングスコアにもあてはまることである。

表16. 対応のあるサンプル 第1回と第2回のスコアの差

	2004年度 (n = 1195)			2005年度 (n = 1073)		
	Total	Listening	Reading	Total	Listening	Reading
平均	6.12	4.84	1.29	2.92	2.50	0.42
標準偏差	14.4	9.2	8.3	13.2	7.5	8.7
最高	+50	+40	+32	+60	+26	+40
最低	-80	-44	-42	-86	-34	-52

図7. 対応のあるサンプル 第1回と第2回のスコアの差の分布



第1回と第2回のスコアを比較し、①2点以上のスコアの上昇、②スコア変化なし、③2点以上のスコア下降、という3群に分類すると、トータルスコアにおいて、2004年度はおよそ7割、2005年度は約6割の学生にスコアの上昇が見られる(表17)。

表17. 対応のあるサンプル スコアの変化

	2004年度 (n = 1195)			2005年度 (n = 1073)		
	Total	Listening	Reading	Total	Listening	Reading
上昇	824 (69.0%)	813 (68.0%)	653 (54.6%)	642 (59.8%)	628 (58.5%)	531 (49.5%)
変化なし	61 (5.1%)	108 (9.0%)	134 (11.2%)	68 (6.3%)	107 (10.0%)	127 (11.8%)
下降	310 (25.9%)	274 (22.9%)	408 (34.1%)	363 (33.8%)	338 (31.5%)	415 (38.7%)

TOEIC Bridgeテストの点数は2点刻みであり(2.1.1参照)、わずか2点のスコアアップでも英語力が伸びたと考えることができるかと言えばそうではない。大きな規模のサンプル平均値と個人の点数を同じ次元で扱うことはできない。個人レベルでの英語力の伸びを判断するにあたっては、リスニング、リーディングの各セクションで6点以上、ト

ータルスコアでは10点以上の伸びで有意差があるとされている（TOEIC運営委員会2006b）。そうすると、「英語力の伸び」ではなく、「英語力の伸びもしくは英語力の維持」が見られたと言う方が無難であろう。

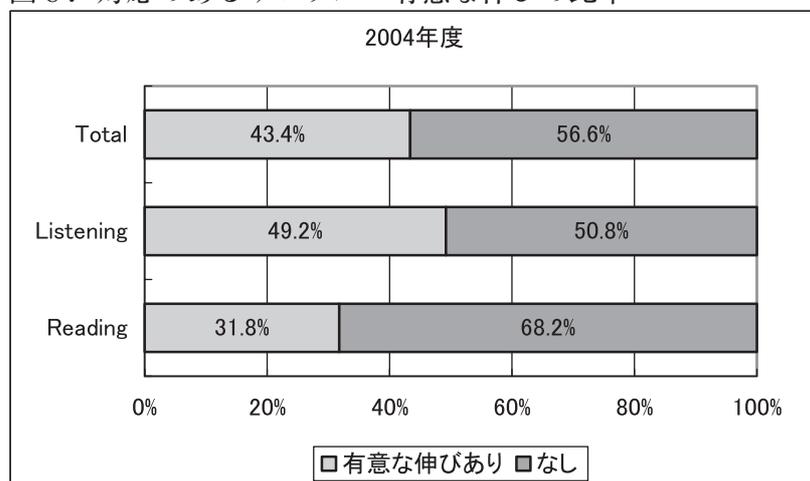
4.2.2 対応のあるサンプルのスコアの有意な伸び

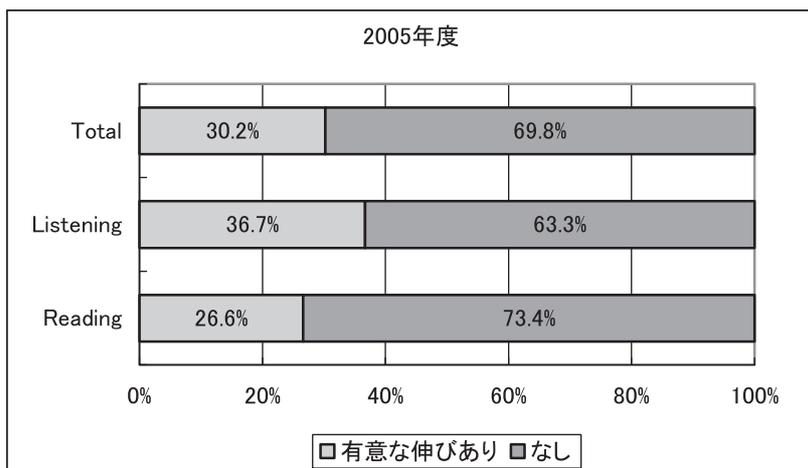
トータルスコアにおいて有意な伸び、つまり10点以上の伸びを示した学生の割合は、2004年度で約4割、2005年度では約3割となっている。リスニング、リーディングの各セクションで有意な伸び、つまり6点以上の伸びを示した学生も、大体約3割から4割という割合になる。なお、2004年度のリスニングにおける有意な伸びを示した学生が、ほぼ5割というやや高い数値を示している。2004年度社会福祉学部入学生が第1回目に受験した教室の音響設備の悪さが、1年後のリスニング力の高い伸びの数値という形で影響しているのかもしれないが、これはあくまでも憶測にしかすぎない（3.1.1参照）。また、2005年度のリリーディング力における有意な伸びを示した学生がやや少なくなっている（表18、図8）。

表18. 対応のあるサンプル 有意な伸び

	2004年度 (n = 1195)			2005年度 (n = 1073)		
	Total	Listening	Reading	Total	Listening	Reading
有意な伸びあり	519 (43.4%)	588 (49.2%)	380 (31.8%)	324 (30.2%)	394 (36.7%)	285 (26.6%)

図8. 対応のあるサンプル 有意な伸びの比率



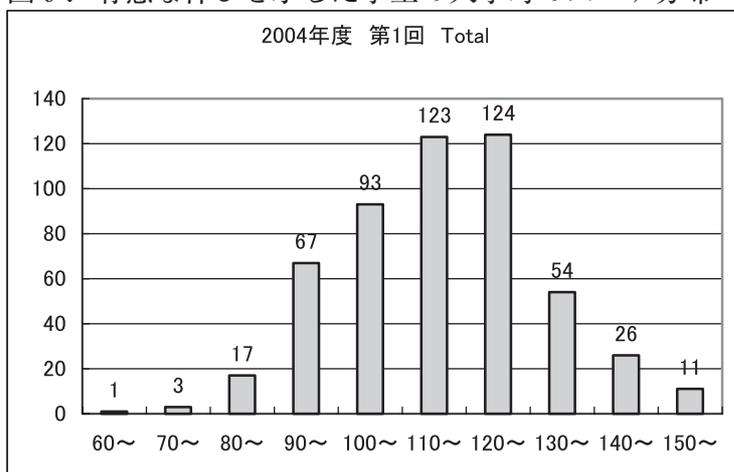


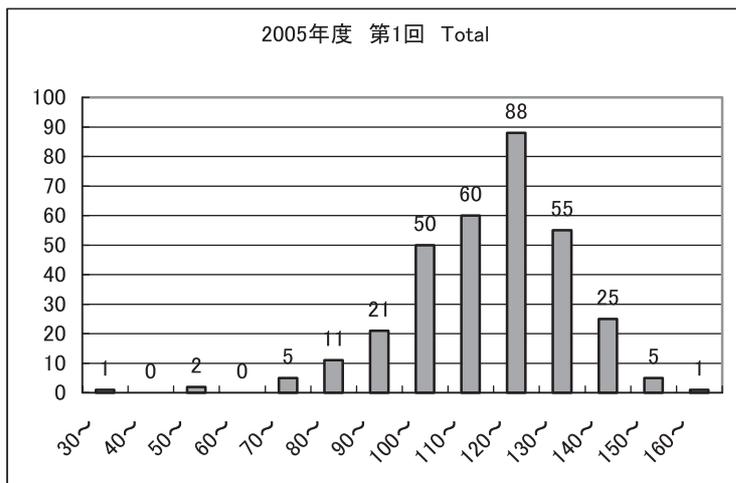
トータルスコアにおいて有意な伸びを示した学生の入学時におけるスコアの分布を見ると、その大半は2004年度は90点から130点台、2005年度は100点から130点台に含まれている（表19、図9）。

表19. 有意な伸びを示した学生の入学時のスコア

	人数	平均点	標準偏差	最高点	最低点
2004年度	519	115.0	15.9	156	62
2005年度	324	118.3	17.6	164	38

図9. 有意な伸びを示した学生の入学時のスコア分布





1回生終了時に英語力の有意な伸びを示す学生は、およそ学年全体の3割から4割ということのようであるが、その比率を統計的に推定してみると、次のようになる。

◆ 1回生終了時における英語力の優位な伸びを示す学生の比率

⇒ 信頼度95%で、35.2%から39.2%の間と推定される。

5. データの分析 (3)

5.1 リスニング/リーディング

2004年度から2005年度にかけて行った4回の英語基礎力調査のどの結果を見ても、リスニングよりもリーディングの方が平均点は高いが、伸びという点ではリスニングの方が高いという傾向が見て取れる(表11)。この傾向は第1回と第2回の両方を受験した学生のデータにもあてはまる(表15)。また、有意な伸びを示した学生の割合を見ても、リスニングの数値の方が高い(表18)。

リスニングとリーディングの相関関係をピアソンの相関係数を用いて検定すると、0.6~0.7の相関係数が得られる。両者の間には、強い相関があるとは言えないまでも、正の相関があるとは判断できる(表20)。

表20. リスニングとリーディングの相関関係

	2004年度		2005年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回
相関係数	0.5757	0.7385	0.6121	0.6999

5.2 サブスコアのデータ分析

5.2.1 サブスコアとは

TOEIC Bridgeテストでは、リスニング/リーディングの各セクションスコア以外に、

サブスコアがつけられており、さらに詳しく英語力の傾向や弱点を知ることができる。このサブスコアは、5つのカテゴリーに関して、それぞれの分野でどの程度できたかを1～3の3段階評価により評価し、数値が高いほど他の受験者に比べて評価が高いということになる（表21）。

表21. TOEIC Bridgeテストのサブスコア

カテゴリー	内 容
Functions (言葉のはたらき)	どのような目的と意図（例：何かの申し出・要求・時間を伝える・指示・情報収集など）で英語が使用されているのかを理解できる。
Listening Strategies (聞く技術)	英語を聞いて、必要な情報を聞き取る、話の要旨をつかむ、内容を推測する、アクセント・発音・時制などを正しく聞き分けることができる。
Reading Strategies (読む技術)	英語を読んで、必要な情報を読み取る、さっと読んで意味をつかむ、話の要旨を見極める、内容を推測する、文章内の構造が理解できる。
Vocabulary (語彙)	日常生活、嗜好、趣味、娯楽、旅行、健康、簡単な商取引などに関する単語や語句、及び文脈における意味を把握できる。
Grammar (文法)	文法を理解し、用法も把握している。

5.2.2 全体のサブスコア

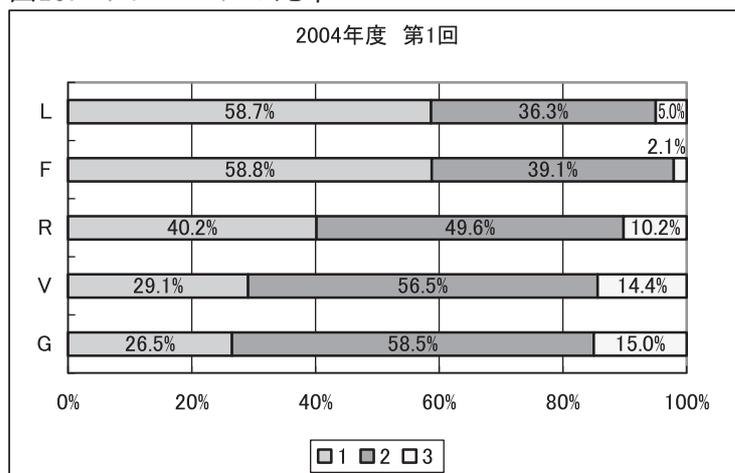
全体的な傾向としては、各回のサブスコアの平均を比較すると、リーディングセクションと関わりのある3項目（Reading Strategies / Vocabulary / Grammar）が、リスニングセクションと関わりのある2項目（Listening Strategies / Functions）よりも数値が高い。Reading Strategies、Vocabulary、Grammarの3項目のうちでは、Grammarが高いようである。Listening StrategiesとFunctionsでは、毎回Listening Strategiesの数値の方が高くなっている。また、このFunctionsは5つの項目のうち、常に数値が低い（表22）。サブスコアは絶対評価でなく相対評価であるが、相対的にリスニングの方が不得意な学生の割合が多いことがわかり、リスニングとリーディングスコアの平均点に差があることも結びつく。

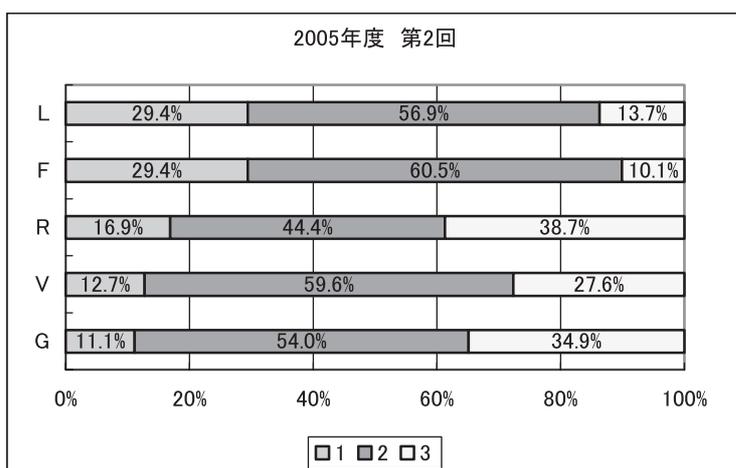
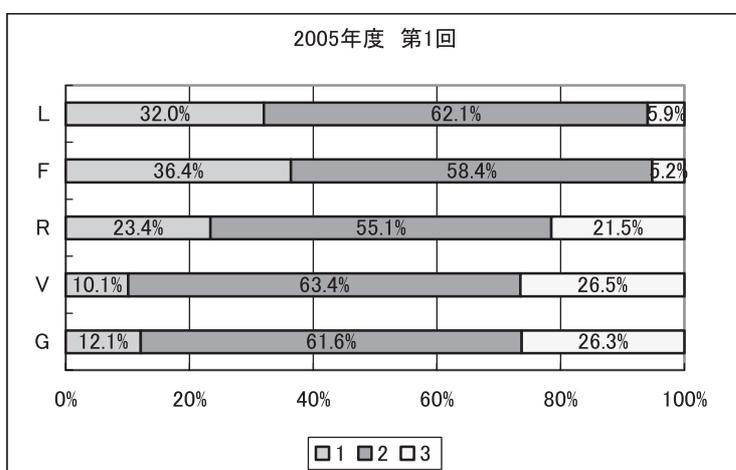
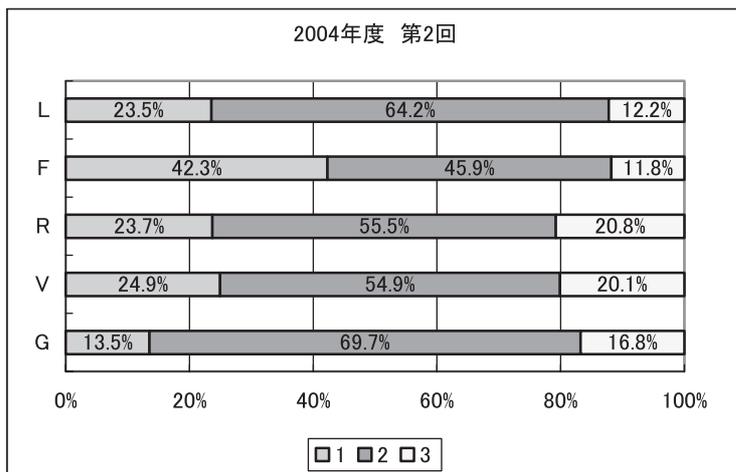
サブスコアの分布図をみてもわかるように、他の項目と比べてFunctionsの項目において評価1となっている学生の比率が高い（図10）。Functions（言葉のはたらき）は、どのような目的と意図で英語が使用されているのかを理解できる能力を評価しており、この点を弱点とする学生が多いということになる。英語の知識や音声を聞き分ける能力があるということではなく、実際の場面での英語の使用、文脈を踏まえた英語の使用ができるようになるような指導が、英語力の底上げには必要であろう。

表22. サブスコア

	Listening Strategies	Functions	Reading Strategies	Vocabulary	Grammar
2004年度 第1回 (1469人)					
1	863	864	591	428	389
2	533	574	728	830	859
3	73	31	150	211	221
平均	1.46	1.43	1.70	1.85	1.89
2004年度 第2回 (1211人)					
1	285	512	287	302	164
2	778	556	672	665	844
3	148	143	252	244	203
平均	1.89	1.70	1.97	1.95	2.03
2005年度 第1回 (1424人)					
1	455	519	333	144	173
2	885	831	785	903	877
3	84	74	306	377	374
平均	1.74	1.69	1.98	2.16	2.14
2005年度 第2回 (1085人)					
1	319	319	183	138	120
2	617	656	482	647	586
3	149	110	420	300	379
平均	1.84	1.81	2.22	2.15	2.24

図10. サブスコアの比率





5.2.3 対応のあるサンプルのサブスコア

サブスコアの変化を見るために、第1回と第2回の英語基礎力調査を両方とも受験した学生のサブスコアを抽出すると以下ようになる(表23)。大きな変化が見られる項目は、2004年度のListening StrategiesとFunctionsである。この年度には5割弱の学生がリスニ

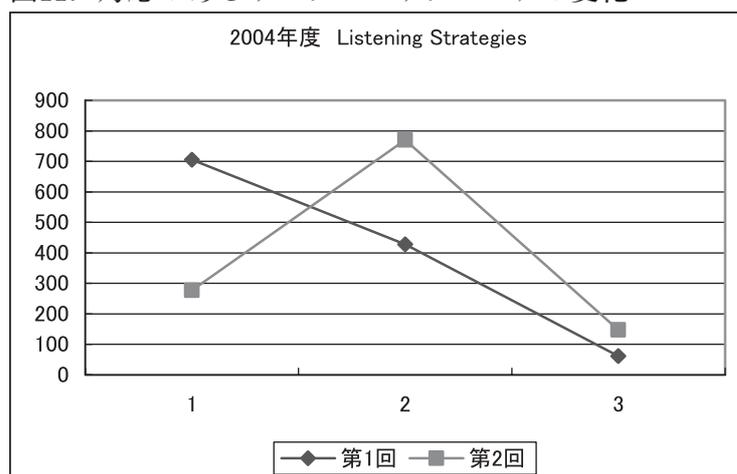
ングにおいて有意な伸びを示している（4.2.2参照）。

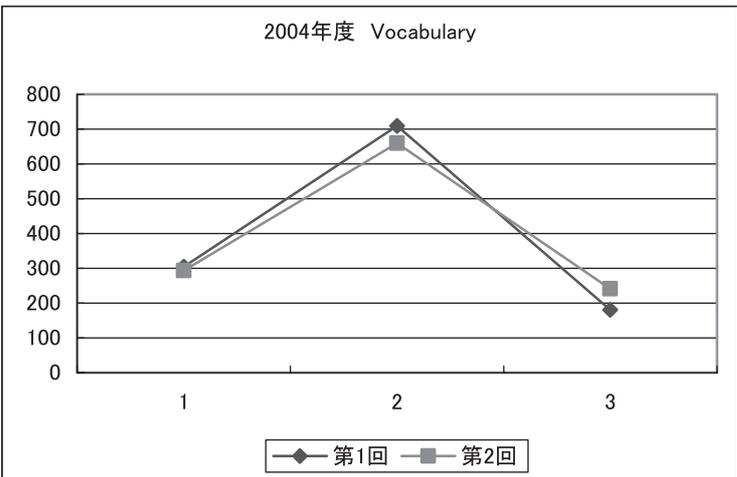
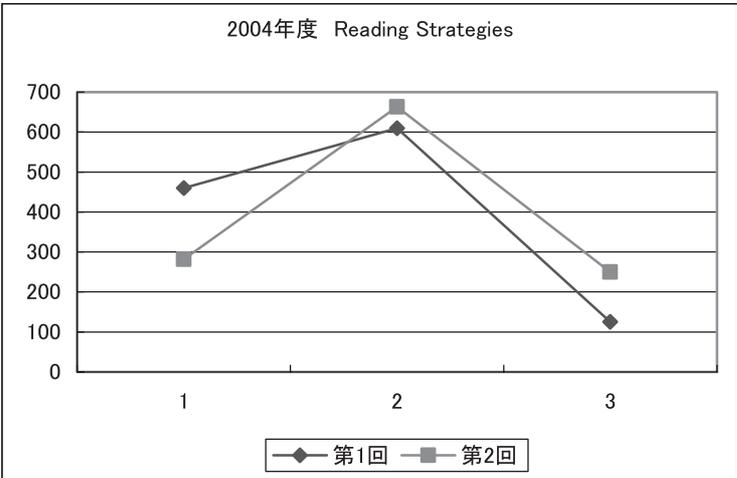
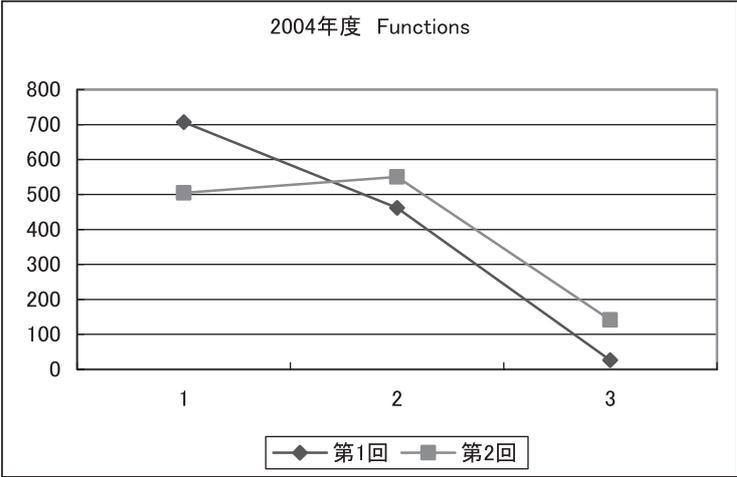
2004年度も2005年度のいずれも、Reading Strategiesにおいてやや変化が見られるが、VocabularyやGrammarの項目ではあまり変化が見られない。読む能力は聞く能力とは異なり、その能力を維持するためには継続的な学習が必要とされるものである。その意味では1年間の学修の成果が反映されているのかもしれない（図11）。

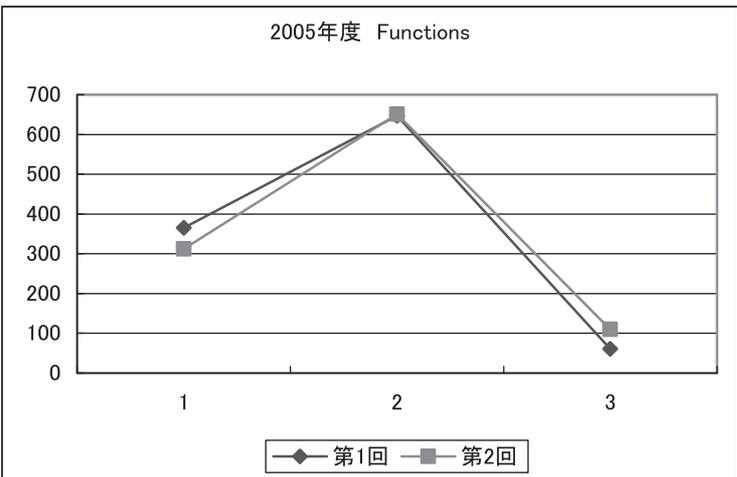
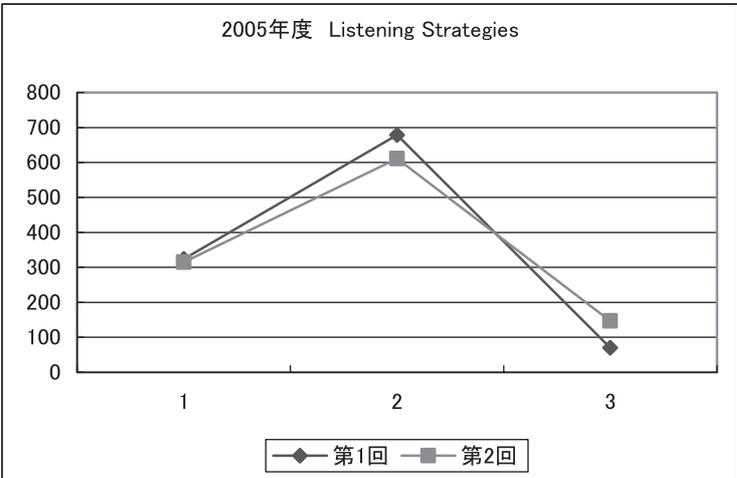
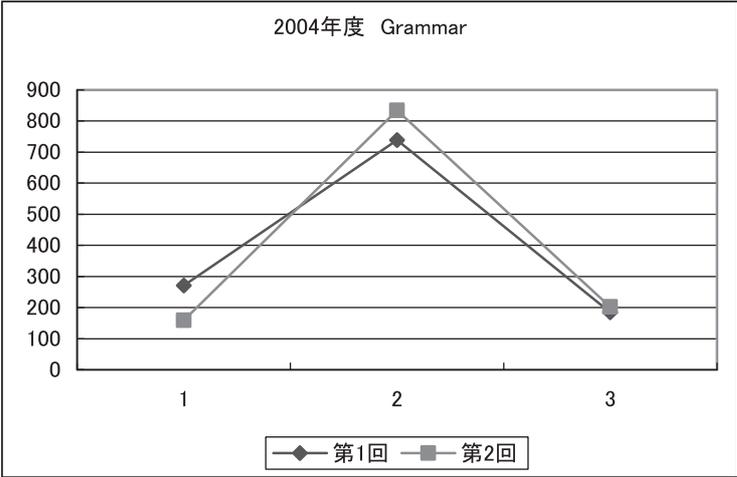
表23. 対応のあるサンプル サブスコア

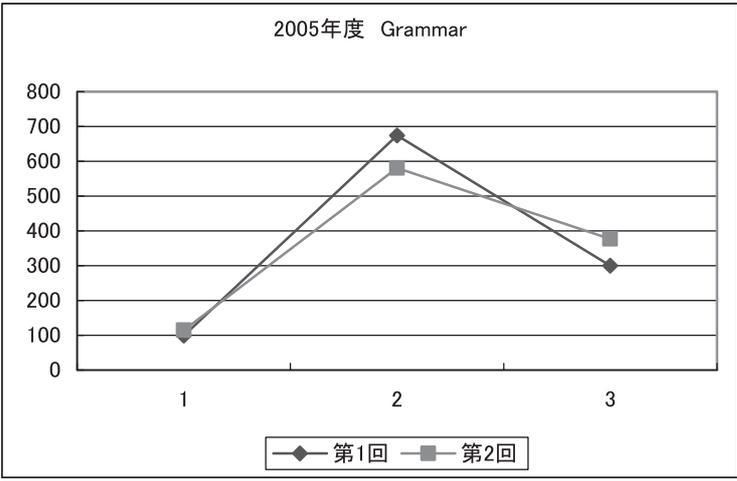
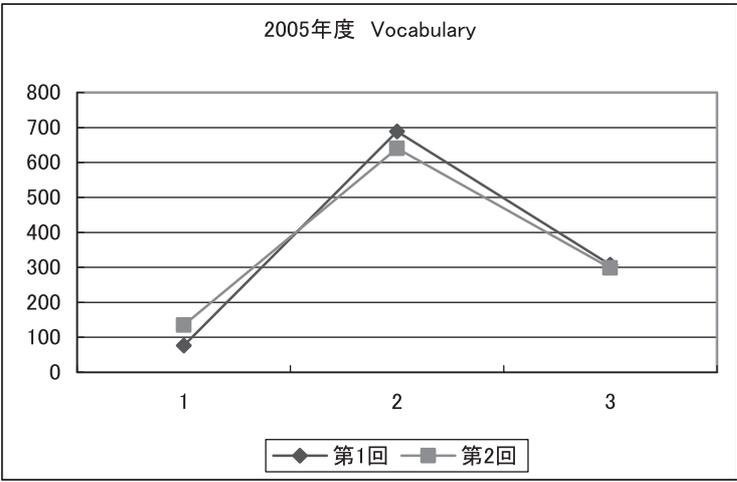
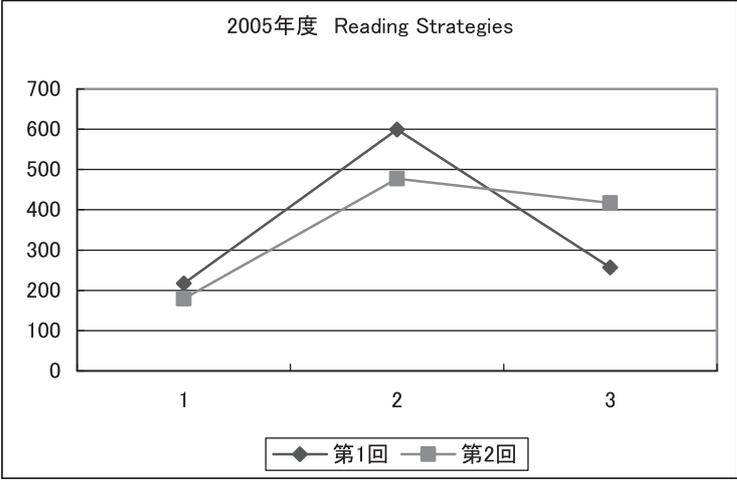
	Listening Strategies		Functions		Reading Strategies		Vocabulary		Grammar	
2004年度 (n = 1195)										
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
1	705	277	707	504	460	282	305	294	271	159
2	428	770	462	550	610	663	709	660	739	834
3	62	148	26	141	125	250	181	241	185	202
平均	1.46	1.89	1.43	1.70	1.72	1.97	1.90	1.96	1.93	2.04
2005年度 (n = 1073)										
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
1	324	315	365	312	217	179	77	135	99	115
2	679	611	647	651	599	477	689	640	674	581
3	70	147	61	110	257	417	307	298	300	377
平均	1.76	1.84	1.72	1.81	2.04	2.22	2.21	2.15	2.19	2.24

図11. 対応のあるサンプル サブスコアの変化









6. TOEIC IPテスト

教授法開発室の実施する英語基礎力調査は、1回生を対象としているため、それ以降卒業までの英語力を追跡調査することができない。しかしながら、就職部キャリア開発室では学生の卒業後の進路支援のために、学内でTOEIC IPテストを実施している。今回はそのデータをお借りし、1回生だけではなく、佛教大学全体の英語力を推定する。

6.1 2002年度のTOEIC IPテスト

就職部キャリア開発室によるTOEIC IPテストは、はじめは2002年度に試験的に実施され、この時1回生から4回生までを含めた計166名が受験した。その結果分析は、すでに行っているが（松本 2003）、その基本データだけを比較のために紹介しておく（表24）。

表24. 2002年度（166人）

	Total	Listening	Reading
平均点	353.7	202.7	151.1
標準偏差	99.6	60.7	50.0
最高点	905	475	430
最低点	165	75	55

6.2 2004年度・2005年度 TOEIC IPテスト

就職部キャリア開発室では2004年度から2005年度にかけ、全学を対象として、年4回、計8回のTOEIC IPテストを実施した。その2年間のデータをまとめると次のようになる（表25）。明らかに平均点は、2002年度よりも上昇している。

表25. 2004年度～2005年度（計701人）

	Total	Listening	Reading
平均点	411.3	246.7	164.7
標準偏差	112.0	64.6	59.5
最高点	920	480	440
最低点	150	80	5

このデータを基にして、佛教大学全体の英語力を統計的に推定（*t*推定）してみると、次のようになる。

◆佛教大学学生全体のTOEICテストスコアの平均

⇒ 信頼度95%で、403.0点から419.6点の間と推定される。

2002年度のデータに基づく推定では、信頼度95%で338.4点から369.0点の間と推定され

る。両者のデータの違いは明らかであろうし、また実際、統計的に検定（独立した2群の母平均の差の検定： t 検定）しても、佛教大学全体の英語力は確実に上がっていると判断できる。

7. おわりに

大学入試時が英語力のピークだと言われたものであるが、国際化の今日にあっては、英語力の維持のみならず、さらなる英語力の伸びが求められるであろうし、その責任の一端を大学教育も担わなければならない。その意味では、2004年度および2005年度の英語基礎力調査のデータを分析した結果、1回生全体の英語力に伸びがあることを確認できたことは意義がある。また、就職部キャリア開発室実施のTOEIC IPテスト結果から、佛教大学全体の英語力も上昇していることが確認できた。

英語基礎力調査は薔薇色の結果だけをもたらすものではない。全体的なレベルをさらに引き上げるのはもちろんのこと、有意な伸びを示す学生を増やすこと、TOEIC Bridge 150 (TOEIC 470) レベルの学生を一人でも多く輩出すること等、これらをいかに実現させるのか、様々な課題が浮かび上がってくる。しかしながら現状から眼を逸らしては何の発展にもつながらないであろうし、問題点の認識こそがFD活動の原点であることを忘れてはいけない。

英語基礎力調査は開始よりようやく2年を経たが、今後も調査を継続し、データ収集と分析の繰り返しによって本学の英語プログラムの改善に資するとともに、延いては本学の教育に貢献することを期待する。

References

TOEIC運営委員会 (2006a) 『TOEICテスト DATA & ANALYSIS 2005』

TOEIC運営委員会 (2006b) 『TOEIC Bridge Newsletter』 No. 9

TOEIC Bridgeホームページ <http://www.toeic.or.jp/bridge/>

松本真治 (2003) 「佛教大学における英語教育について——TOEIC IPテストとアンケート結果の分析——」 佛教大学英文学会『英文学論集』第12号

松本真治 (2005) 「新入生対象TOEIC Bridge IPテストと意識調査の分析——佛教大学における英語教育について (2) ——」 佛教大学英文学会『英文学論集』第13号

基礎学力調査の経緯と結果

教授法開発室員 近 藤 敏 夫

1. 調査実施の経緯 ——目的、対象者、試験問題——

教授法開発室では平成12年度に基礎学力調査（平成12年度および平成13年度は「前提学力調査」の名称で実施）の方針を立てた。近年、大学生の学力低下が危惧されており、新入生が大学教育の前提となる基礎学力を習得しているかどうか疑問視されている。このような認識から本学では新入生のオリエンテーション時に基礎学力調査を実施することになった。その目的は以下の3点にまとめられる。（1）学生が自らの学力を把握し、今後の学習に役立てる。（2）教員が学生の学力を把握し、今後の講義、カリキュラムの改善に役立てる。（3）新入生の学力実態を把握し、今後の入試システムの改善に役立てる。

大学生の基礎学力を教養科目と専門科目に分けるとするならば、基礎学力調査は大学生に共通する設問と、学部・学科別の設問とから構成されるのが望ましい。それゆえ、本学の学部・学科構成に合わせて基礎学力調査の設問を開発することが検討された。しかし、諸般の事情から、当面は業者テストを用いることになった。数社の業者テストを収集し、それらを比較・検討した結果、A社の就職総合テストが選ばれた。まず予備調査として平成12年12月に1回生の必須科目のクラスで調査を実施した。試験結果を学生に返送する際に基礎学力調査のアンケート用紙も同封して学生の意見を尋ねた。とくに不都合もなかったので平成13年度の春のオリエンテーションから1回生を対象にして本格実施がスタートした。

平成14年度からは、対象者を1回生と3回生に広げることとし、新入生と在学生の基礎学力の違いをみることになった。これにともない名称も「前提学力調査」から「基礎学力調査」に変更され、また試験問題もかねてより就職部が3回生に実施してきたB社の一般常識試験対策テストに変更することになった（表1：図表は本章末尾に一括掲載）。

2. 調査概要 ——時期、場所、受験率——

第1回目の予備調査は平成12年12月上旬から同下旬まで1回生開講の必須科目のクラス（12学科中10学科）で実施された。クラス担当教員の協力を得て、講義時間中に試験用紙を配布し、出席学生に回答してもらった。試験問題はA社の就職総合テスト（70分）を使用した。試験用紙の配布・回収作業は教授法開発室の事務スタッフが行った。受験者数は1回生が779人、2回生以上が104人の計883人であった。試験実施後、1月中旬からテストの個人成績表およびアンケート用紙を本人宛に郵送もしくは配布した。

平成13年度は春学期オリエンテーション会場で1回生1,369人が基礎学力調査を受験した。試験問題は平成12年12月の予備調査と同じA社の就職総合テスト（70分）である。A社のテストは全国で84,291人（平成12年度および平成13年4月の累計）が受験しており、

全国レベルで本学学生の基礎学力の位置を把握することができる。

平成14年度の第3回目調査以降、平成18年度の第7回目調査までは、1回生と3回生を対象にして春学期のオリエンテーション会場で基礎学力調査が実施されている。試験問題は平成14年度、平成15年度、平成17年度、平成18年度がB社の一般常識試験対策テストの「01版」（40分）、平成16年度が同「02版」（40分）を使用した。B社のテストでは全国の受験者数が公表されておらず、B社独自のT得点を用いて本学と全国との比較をすることができる。

なお、基礎学力調査の受験率は1回生が95%前後とほぼ全員であるが、3回生は60%前後の受験率で低くなっている（表1）。これは基礎学力調査が春のオリエンテーション会場で実施されるため、3回生にオリエンテーションを欠席する者が多いからであると考えられる。

3. 試験問題の領域 ——A社とB社の就職試験問題の傾向——

第1回目の平成12年度予備調査と第2回目の平成13年度調査にはA社の就職総合テスト（70分）が使用され、第3回目の平成14年度調査からB社の一般常識試験対策テスト（40分）が継続使用されている。A社、B社とも試験問題の領域は大きく2つに分かれている。第1の領域は基礎常識であり、ほぼ高校までに学習してきた科目に対応している。A社では「英語」、「国語」、「数学・理科」、「地理・歴史」、「社会・思想」、「政治・経済」の科目に分類され、B社では「英語」、「国語」、「数理」、「社会」の科目に分類されている。第2の領域は社会常識である。これは社会人としての知識と教養を問う質問項目からなり、A社では「文学・芸術」、「マナー総合」、「時事問題」に分類され、B社では「日常生活」、「時事問題」に分類されている（表2）。

A社、B社とも就職試験対策用に試験問題を作成している。そのため、基礎学力調査の当初の目的にあった入学後の大学教育に試験結果を生かすことには適していない。ただし、受験した学生には試験結果の個人別データが送付され、ひとりひとりが全国レベルで自己の基礎学力の相対的位置を知ることができる。さらに学生は卒業後の志望分野に応じて学習のアドバイスを得ることができるようになってきている。また、試験問題の大半が高校までに学習してきた科目に基づいているため、近年多様化してきた入試システムにおいて本学学生が必要最低限の基礎学力を身につけているかどうかを把握するための統一基準になりえる。

なお、B社の問題は「01版」と「02版」の2種類があり、それぞれの版は同一の問題から構成されている（ただし、時事問題は受験時期によって問題が更新されている）。平成16年度の基礎学力調査のみ「02版」を使用した。それ以外は「01版」を使用している。それゆえ、B社の「01版」で年度別、回生別に基礎学力を比較することが可能である。

4. 全国と本学の比較(A社テスト)——平成12年度予備調査と平成13年度調査——

A社の就職総合テストの受験者は全国で84,291人、大学名、学部・学科名、回生等は未

公表である。ただし、全国と本学の各科目の得点や総合得点の平均点に大差はなく、やや全国の平均点の方が本学と比べて高得点に偏っている程度である（表3）。以下、科目別に本学と全国を比較し、本学の学生については、入学年度別に傾向をみることにする。

まず、基礎常識の科目からみると、「英語」の平均点は全国（4.74）と本学（4.76）でほぼ等しい（ $4.76-4.74=+0.02$ ）。「国語」は本学が全国よりやや高い（ $+0.18$ ）。「数学・理科」は本学が全国よりやや低い（ -0.18 ）。社会科の科目でみると、「地理・歴史」が全国より高く（ $+0.27$ ）、「社会・思想」も本学が全国より高い（ $+0.26$ ）。ただし「政治・経済」は本学が全国より低くなっている（ -0.23 ）。本学の学生は「国語」、「地理・歴史」、「社会・思想」に強く、「数学・理科」と「政治・経済」に弱い傾向にある。

基礎常識科目の平均点を入学年度別に比較してみると、上回生になるにしたがって、「英語」、「国語」、「数学・理科」とも平均点がだんだん低くなっている。ただし、「社会・思想」と「政治・経済」は平成11年度以前入学生（3回生以上に相当）の平均点が高くなっている。これは、高校までに学習してきた知識を上回生になるにしたがって忘れてしまうこと、また「社会・思想」と「政治・経済」の問題が時事問題にかかわっているためであると考えられる。

つぎに、社会常識をみると、「文学・芸術」の科目で本学の方が全国より平均点が高いが（ $+0.22$ ）、「マナー総合」は本学が全国より低く（ -0.27 ）、「時事問題」も本学が全国よりかなり低い（ -0.64 ）。「時事問題」だけが20点満点で他の科目の2倍の配点であるが、それを差し引いても、本学の学生は全国と比較して「時事問題」の平均点がかなり低い。ただし、本学の学生も平成11年度以前入学生（3回生以上）は「時事問題」の平均点が全国よりも高くなっている（ $+0.23$ ）。このことから上回生ほど「時事問題」に強いと考えられる。この傾向は基礎常識の「社会・思想」と「政治・経済」にも言えることである。

本学の総合得点の平均が全国より低くなったのは、「数学・理科」、「マナー総合」、「時事問題」が全国平均と比べて低いことが影響している。「数学・理科」の得点が全国平均より低いことは本学が文化系大学であることから理解できる。しかし、平成13年度の一般入試A日程で「数学」が選択科目に導入されてこともあって、平成13年度の新入生は「数学・理科」が全国とほぼ同等のレベルになってきた（ -0.06 ）。

また、「時事問題」が全国より低いのは、本学が経済学部や法学部などを有しない大学であるからだろう。「マナー総合」は全国の平均よりもかなり低く、しかも上回生になるほど低くなっている。これは「佛教大学」のイメージに反しているように思える。

そこで標準偏差（平均点からのバラツキを示す統計量）を用いて「マナー総合」の特徴をさらに調べてみると、「マナー総合」の標準偏差が10科目中一番高く（2.29）、得点のバラツキが大きいことが分かる。他の科目では得点分布が正規分布の山形に近似したが、「マナー総合」の得点分布だけ山が2つに別れた（図1）。そこで、性別で得点分布を比較してみると、女性が全国平均より高得点であるのに対して（ $+0.30$ ）、男性が全国平均よりかなり低いこと（ -0.88 ）が問題であることが分かった（図2）。ちなみに、「マナー総合」の設問は、敬語の使い方、手紙の時候挨拶、おじぎのマナー、席次のマナーなどからなっている。

基礎常識科目で標準偏差をみると、とくに「英語」の標準偏差（2.00）が基礎常識の5科目中で最も大きく、得点に個人差があることが分かる。これは本学に入学する時点で英

語が課せられる学生とそうでない学生がいることに起因すると考えられる。「国語」と「数学・理科」の標準偏差をみると、平成11年度以前入学生のバラツキが少なくなっている。つまり、上回生ほど「国語」および「数学・理科」の平均点が低く、かつ低得点に偏る傾向がみられる。

社会科の中では「社会・思想」と「政治・経済」の標準偏差が小さく、上回生ほど高得点に偏る傾向がみられる。ただし、「時事問題」は上回生ほど平均点が高くなるが、標準偏差も大きいため、個人差が広がっているといえる。

以上、大まかな傾向として、本学の学生は上回生になるにしたがって時事問題に関する科目（「社会・思想」、「政治・経済」、「時事問題」）が強くなり、逆に高校までに学習してきた科目（「英語」、「国語」、「数学」、「地理・歴史」）が弱くなる傾向がある。このような傾向から、本学入学後に高校までの知識を再確認し、それらを発展させる教育をすることが課題となってくるだろう。そこで、教授法開発室では、A社の就職総合テストの結果から以下のような対応策を提示した。

（1）基礎学力向上プログラムの開発

これからの大学教育を考えた場合、基礎学力調査の実施や、その結果を学生に提示するだけでは十分でない。大学側は、学生自らが英語・国語・数学等の基礎学力を向上させるための、マルチメディアを用いた自学自習システムの開発等のサポート体制を確立していく必要がある。

（2）入試システムとの連動

基礎学力調査は入学直後の学生の学力実態をかなり詳細に把握することができる。今後の入試構想の基礎資料としての積極的な活用が期待される。

しかし、わずかばかりの試みや改善はみられたものの、諸般の事情から、平成18年度にいたっても基礎学力調査を生かすような対応策がとられていないというのが現状である。

5. 全国と本学の比較（B社テスト）——平成14年度以降の調査——

平成14年度以降の基礎学力調査は、春のオリエンテーション時に新入生と新3回生にB社の一般常識試験対策テスト（40分）を用いて実施してきた。そのため平成12年度予備調査および平成13年度本調査とは異なる。ただし、問題の傾向はA社の試験問題と同じく「基礎常識」と「社会常識」とに分けることができる（表2）。以下、科目別に本学と全国を比較してみるが、ここで留意すべき点がある。すなわち、基礎学力調査は4月のオリエンテーション時に実施するため、全国のデータがまだ集まっていない点である。そこで、便宜上、B社が定義したT得点で全国との比較を行うことにする。

T得点は標準得点が50点の偏差値に準ずる標準化得点であり、特徴として母数に影響されることが少ないよう工夫されている。B社はT得点が記載された個人成績表を学生に送付しており、受験生はT得点に基づいて学習上のアドバイスが得られるようになっている。

ただし、T得点の算出基準となるサンプル大学の選定が毎年異なっているらしく、本学学生のT得点が年度によって大きく変化している。これに加えて、平成16年度のみB社の「02版」の試験問題を使用し、それ以外は「01版」の試験問題を使用したこともあり、すべての年度に亘って学生の基礎学力を比較する基準がない。このことを踏まえた上で、本学と全国の比較を行うことにする。なお、T得点を用いた基礎学力調査の分析は『教授法開発室だより』に毎年記載しているので、ここではおおまかな傾向を示すにとどめておく(表4)。

T得点が50点を超える科目は全国を基準にして本学学生が得意な科目であると考えられる。表4で年度別、回生別にT得点をみると、本学学生は基礎常識科目のT得点が高く、「国語」が一番の得意科目になっている。「国語」と「数理」のT得点が平成16年度以降、50点を超えていることから全国レベルに達しているといえる。また、A社のテストでも「数学・理科」が平成13年度入学生から全国平均とほぼ同等になっていた。このことから平成13年度以降、本学学生は「数学・理科」が不得意なわけではなく、また平成16年度には全国レベルに達していると考えてよいだろう。「英語」に関しては、平成16年度のみT得点が高くなっているが、これは平成16年度の試験問題がB社の「02版」を使用したことと関係していると考えられる。「英語」の傾向としては、平成16年度以降、全国レベルに近づいているといえる。

社会常識の科目は全般的にT得点が低く、本学学生は「日常生活」、「時事問題」とも全国レベルに達していない。とくに「時事問題」はT得点が40前後と低く、平成18年度の3回生がようやく48.0ポイントの結果を出したにすぎない。本学学生は社会常識(「日常生活」と「時事問題」)に全般的に弱いといえる。

なお、B社の試験ではどの科目のT得点の標準偏差も10前後と比較的大きくなっており、本学学生の得点が広く分散していることがわかる。つまり、どの科目でも学生間に大きな学力差があり、本学学生の基礎学力に一定の水準がみられないということである。その要因は多様化した入試制度にあると予測できる。

入試制度と関連した基礎学力調査の考察は、毎年の『教授法開発室だより』に記載してあるため詳しく述べることはしない。ここでは平成18年度の入試種別データを追加することによって、おおまかな傾向を述べておこう(表5、表6)。第一に、多様な入試制度で入学してきた学生は、その基礎学力の能力も千差万別である。新入生の基礎学力には入試種別によって大きな差がみられる。第二に、本学に入学後も、学生の学力差は入試種別でみる限りあまり縮まっていない。基礎学力調査の科目は高校までの教科に対応しているため、学生がどの科目を受験勉強したか／もしくは勉強しなかったか、が学力差として現れる。このような学生の実態に対処するためには、大学入学までの学習実態に合わせた教育を行うことが課題となろう。それには講義だけではなく、自学自習を含めたりメディア教育のシステムの構築が有効であろう。その指針を得るためには、本学に入学以降の各種学力データと基礎学力調査をリンクさせる分析が必要となろう。

6. 入学後の学生の伸び率 ——B社「01版」試験による比較——

平成14年度、15年度、17年度、18年度の基礎学力調査ではB社の「01版」試験を使用した。「01版」試験は「時事問題」だけが更新されているが、その他は若干の字句修正を除き各年度とも同一の試験問題である。以下、平成14年度の素点を基準にして、本学学生の基礎学力の違いを年度別にみてみよう（表7）。素点での比較は大学内で学力差を調べるのに都合がよい。

まず、1回生の基礎学力からみると、総合得点は平成14年度1回生が45.1ポイントである。平成15年度1回生はそれより1.0ポイント増の46.2ポイント（ $45.1+1.0=46.2$ ）、平成17年度1回生が6.7ポイント増（51.8）、平成18年度1回生が5.9ポイント増（51.1）であった。本学の新生の総合的な学力は、ここ2、3年で高くなっているといえる。

基礎常識の科目でみると、「英語」が平成14年度1回生で7.9ポイント、平成15年度1回生がそれより0.2ポイント増（8.1）、平成17年度1回生が1.5ポイント増（9.5）、平成18年度1回生が1.0ポイント増（8.9）であった。1回生の「英語」の得点は近年高くなってきたが、とくに平成17年度1回生の「英語」の平均点は高い。

平成14年度の1回生を基準にして、1回生の伸び率をみると、「英語」が最大1.5ポイントの伸びであり、ついで「国語」0.8ポイント増、「社会」0.6ポイント増、「数理」0.4ポイント増の順になっている。社会常識の科目でも「日常生活」2.1ポイント増、「時事問題」1.9ポイント増となっている。ただし、表4で社会常識のT得点をみると、「日常生活」も「時事問題」も全国レベルには達していないことが分かる。

つぎに、平成15年度1回生と平成17年度3回生を比較してみよう。両者は同じ学生であり、入学時に受けたB社の「01版」試験を、3回生の春に再受験したことになる。学生は同一の問題を解答するのであるから、得点が上昇することは当然予想されるかもしれない。しかし、2年間のブランクを考慮に入れるなら、「01版」試験が入学後の基礎学力の変化を測定する基準になると考えてもよい。そこで、平成17年度3回生の得点から平成15年度1回生の得点を引くことによって、入学後の伸び率をみることにしよう。

総合得点の伸び率は、平成17年度3回生の52.5ポイントから平成15年度1回生の46.2ポイントを差し引いて、6.3ポイントの増加になる。以下、基礎常識では「国語」0.8ポイント（ $=12.5-11.7$ ）、「英語」0.7ポイント（ $=8.8-8.1$ ）、「数理」0.6ポイント（ $=10.3-9.7$ ）、「社会」0.5ポイント（ $=6.0-5.5$ ）の順にやや増加している。社会常識では「日常生活」2.3ポイント（ $=9.4-7.1$ ）、「時事問題」1.4ポイント（ $=5.5-4.1$ ）の順にかなりの増加がみられる。したがって本学学生は入学後に社会常識の学力が向上しているといえる。ただし、表4でT得点をみると、平成17年度3回生の「日常生活」は49.5ポイントとほぼ全国レベルに達しているが、「時事問題」は44.9ポイントと低いままである。ちなみに、他の年度の3回生をみても「時事問題」のT得点だけが50ポイントに届かず、全国平均を下回っている。

なお、平成16年度のみB社の「02版」試験を用いたため他の年度と比較することが難しいが、平成16年度1回生のT得点は全般に高くなっている（表4）。同じ学生が平成18年度3回生に相当するのであるが、彼ら／彼女らの素点平均は他の年度の回生よりもかなり高い（表5）。このことから、本学の学生は平成16年度新生から全般的に学力が向上しているものと考えられる。

7. 学科別の学生の伸び率 ——B社「[01] 版試験による比較——

学科別に学生の伸び率をみてみよう。平成15年度1回生の学科別T得点（表8-1）と平成17年度3回生の学科別T得点（表8-2）から両者の差をとってみた（表8-3）。

まず入学時の段階で「総合得点」が高かったのは、臨床心理学科（52.3）、史学科（50.9）、教育学科（49.9）の順であった。基礎常識の「国語」、「数理」、「英語」でもほぼ同様の順で高得点になっている。基礎常識の「社会」と社会常識の「日常生活」、「時事問題」は応用社会学科と社会学科が高得点になっていた。

3回生の時点でも「総合得点」は教育学科（53.3）、臨床心理学科（52.9）、史学科（52.0）の順に高く、入学時点と同様の傾向であった。ただし、「総合得点」の伸び率が高い学科は、教育学科（+8.6）、社会学科（+8.2）、英語英米文学科（+8.1）の順になっている。教育学科と史学科の3回生は入学時点で総合得点のT得点が高かったが、3回生時にさらに得点を伸ばしている。社会学科、英語英米文学科、健康福祉学科の3回生は、入学時点のT得点はあまり高くなかったが、3回生時点で基礎学力がかなり上昇している。

各学科の特徴を科目別にみると、教育学科は「数理」（+10.4）と「英語」（+5.8）の伸び率が全学科のなかで一番高い。社会学科は「日常生活」（+9.8）、「国語」（+5.4）、「社会」（+3.3）の伸び率が全学科のなかで一番高い。生涯学習学科は「時事問題」（8.6）の伸び率が全学科のなかで一番高い。

つぎに、B社の「01」版試験の素点で伸び率を比較してみた。平成15年度1回生時点と平成17年度3回生時点の両方の基礎学力調査でB社「01」版試験を受験した学生903名について、個人毎に得点の伸び率を算出してみよう。1回生時の素点（表9-1）と3回生時の素点（表9-2）から両者の差を算出すると（表9-3）、T得点の分析と同じような結果が出た。ただし、個人単位で学生の伸びを算出していることから学科全体のT得点の平均点を用いた分析とは異なる結果がでた。すなわち、健康福祉学科の学生が「総合得点」で7.4ポイントの伸びを示していることが分かった。健康福祉学科の学生は社会常識の「日常生活」（+2.8）と「時事問題」（+1.6）で高い伸びを示し、基礎常識の「英語」（+0.8）と「社会」（+0.6）でも伸びを示している。

以上、全般的に多くの学科では学科の特徴にみあった科目の伸び率が高くなっているといえよう。

8. 基礎学力調査の設問事例

平成14年度以降、基礎学力調査にはB社の試験問題を使用してきた。平成15年度調査からは設問毎に正解、不正解の個人データを入手している。このデータを用いて本学学生の得意とする問題および不得手とする問題を見てみよう。設問形式はすべて、導入の質問文と、それに続く5択の選択肢からなっている。例えば、設問1はつぎのようになる。

1. 次のカタカナを漢字に直したものとして、最も適切なものはどれか。

問題をシングりする

ア. 診疑 イ. 審議 ウ. 信義 エ. 申議 オ. 真偽

以下、120題の設問が続き、制限時間は40分である。ただし、正答率をみると100題目から全般的に正答率が低くなっている。このことから制限時間の40分が短すぎるのではないかと推測できる。また、質問文が10行以上になると正答率が全般的に低くなるが、これは制限時間が短いために長文の設問を学生が敬遠している可能性があると考えられるからである。このことを考慮して本学学生の得意な設問と不得手な設問を紹介してみよう。

まず、基礎科目の「英語」で正答率の高かった設問は、「His camera is () than yours.」に適切な語句を補う設問、「1. stay home 2. you 3. comes back 4. until 5. have to 6. your father」を並べ替えて文章を作る設問、「Easier said than done.」のことわざの意味を問う設問などであった。正答率が低かったのは比較的長い英文を読ませて解答させる設問であった。また、1回生より3回生が不得手とする設問は英単語や英熟語の意味を問う設問にみられた。例えば、つぎのような設問である。

次の英文の下線部の意味を最もよく表している語句はどれか。

I don't think that she made such a big mistake intentionally.

ア. in vain イ. at a loss ウ. by chance エ. by accident オ. on purpose

「国語」の設問で正答率が高かったのは「著名な先生のコウエンを聴く」でカタカナを漢字にする設問、「和洋()衷」に適切な文字をあてはめる設問などである。正答率が5割とほぼ拮抗した設問には、日本の文学作品(枕草子、愚管抄、徒然草、古今和歌集)を完成した年度順に並べる設問、「人間万事塞翁が馬」の意味を問う設問などがあつた。また、正答率が15%に満たなかった設問には、以下のようなクイズ形式のものがあつた。

次の四字熟語のうち、他と構成が異なっているものはどれか。

ア. 空前絶後 イ. 栄枯盛衰 ウ. 質疑応答 エ. 優勝劣敗 オ. 半信半疑

「数理」の設問で正答率が高かったのは、「方程式： $-2(3X-7) = -X-6$ 」の解を求める設問、「植物の光合成は細胞のどの部分で行われるか」を問う設問がある。また、1回生の方が得意な設問には「連立方程式： $3X+2Y = -5$ 、 $X+4Y = 5$ 」の解を求める設問がある。

「社会」の設問で正答率が高かったのは、「前野良沢と()はオランダ語の人体解剖書を翻訳して()を刊行した」に適切な語句を補う設問や、「選挙投票日に投票できない時に、前もって投票できる制度」は何かを問う設問がある。3回生の正答率が1回生より低かった設問に、「一遍が開いた仏教の一派を何というか」があつた(これは佛敎大学としては意外でもあり、残念でもあろう)。

「日常生活」で3回生の正答率が高い設問に「縁起が悪いとされる茶碗によそった御飯に箸を立てることを何というか」や「日本三景とは天の橋立と松島と、もう一ヶ所はどこ

か」などである。

「時事問題」は全般的に正答率が低かった。設問としては、「2003年3月の第十期全国人民代表大会で中国の新首相に選出された人物は誰か」、「作品『パーク・ライフ』で芥川賞を受賞したのは誰か」、「2025年までに原子力発電所を全廃する原発全魔法を成立させた国はどこか」などがある。

以上、B社の試験は「一般常識試験対策テスト」として作成されているため、基礎学力調査に必ずしも適しているとはいえない。本学が求める学生、または本学を志望する学生を選抜し、彼ら／彼女らにそれぞれの学部・学科にみあった教育をしていく体制を作らなければならない。そのためには、個々の設問の作成を含めて、基礎学力調査の結果を生かせるようなシステムを構築していく必要がある。

表1 基礎学力調査実施概要

	実施日	対象者	受験者数(受験率)	使用試験問題
1回目 (予備調査)	平成12年12月	1回生	779人	A社(70分)
	平成12年12月	上回生	104人	A社(70分)
2回目	平成13年4月9日	1回生	1,369人	A社(70分)
	—	—	—	—
3回目	平成14年4月8日	1回生	1,498人(93.6%)	B社01版(40分)
	平成14年4月9日	3回生	990人(59.8%)	B社01版(40分)
4回目	平成15年4月7日	1回生	1,436人(93.4%)	B社01版(40分)
	平成15年4月9日	3回生	936人(61.4%)	B社01版(40分)
5回目	平成16年4月6日	1回生	1,470人(98.3%)	B社02版(40分)
	平成16年4月5日	3回生	1,021人(65.0%)	B社02版(40分)
6回目	平成17年4月4日	1回生	1,427人(93.1%)	B社01版(40分)
	平成17年4月6日	3回生	946人(60.9%)	B社01版(40分)
7回目	平成18年4月4日	1回生	1,528人(98.1%)	B社01版(40分)
	平成18年4月5日	3回生	936人(62.5%)	B社01版(40分)

表2 問題領域の分類

領域	質問項目の特徴	科目群
基礎常識	高校で学習してきた科目 (A社60問、B社80問)	A社:「英語」、「国語」、「数学・理科」、「地理・歴史」、 「社会・思想」、「政治・経済」(各科目とも10問)
		B社:「英語」「国語」「数理」「社会」(各科目とも20問)
社会常識	社会人としての知識と教養 (A社40問、B社40問)	A社:「文学・芸術」(10問)、「マナー総合」(10問)、 「時事問題」(20問)
		B社:「日常生活」(20問)、「時事問題」(20問)

表3 平成12年度予備調査・平成13年度本調査の結果(A社試験問題)

			全国 (*1)	本学	平成13年度 入学生	平成12年度 入学生(*4)	平成11年度 以前 入学生 (*4)
			84,291人(*2)	2,252人(*3)	1,369人	779人	104人
基	英語 10点満点	平均点	4.74	4.76	4.83	4.71	4.20
		標準偏差		2.00	2.05	1.89	1.96
礎	国語 10点満点	平均点	5.32	5.50	5.54	5.46	5.18
		標準偏差		1.64	1.62	1.68	1.56
常	数学・理科 10点満点	平均点	5.61	5.43	5.55	5.27	4.92
		標準偏差		1.77	1.78	1.74	1.60
識	地理・歴史 10点満点	平均点	5.63	5.90	5.91	5.89	5.88
		標準偏差		1.63	1.63	1.62	1.77
識	社会・思想 10点満点	平均点	5.88	6.14	6.10	6.15	6.48
		標準偏差		1.71	1.68	1.79	1.55
識	政治・経済 10点満点	平均点	4.33	4.10	4.14	4.02	4.21
		標準偏差		1.62	1.65	1.56	1.52
社	文学・芸術 10点満点	平均点	3.56	3.78	3.86	3.65	3.55
		標準偏差		1.59	1.62	1.51	1.65
会	マナー総合 10点満点	平均点	5.02	4.75	4.89	4.61	3.98
		標準偏差		2.29	2.27	2.33	2.05
常	時事問題(*6) 20点満点	平均点	11.07	10.43	10.29	10.56	11.30
		標準偏差		2.81	2.80	2.76	3.14
識	総合得点 100点満点	平均点	51.18	50.78	51.12	50.33	49.70
		標準偏差		9.12	9.27	8.88	8.70

(*1)全国のデータが未公表のため標準偏差は算出不可能

(*2)過去2年間の累積受験人数

(*3)平成12年度の予備調査と平成13年度の本調査の合計

(*4)平成12年12月の予備調査でA社試験を受験

(*5)強調文字は全国と本学で平均点が高い方、または入学年度で平均点が一番高い入学年度を示す。

(*6)時事問題のみ20点満点で他の科目の2倍の配点である。そのため平均点と標準偏差も2倍になっている。

図1 マナー総合得点分布

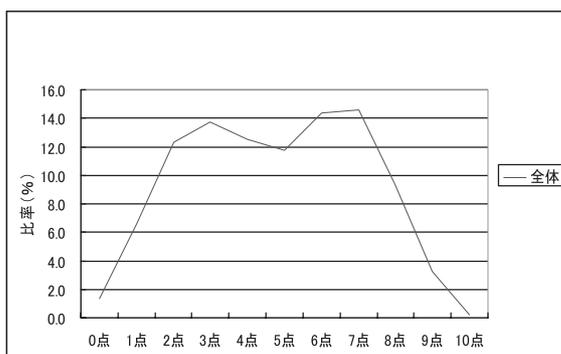


図2 マナー総合得点分布 (性別)

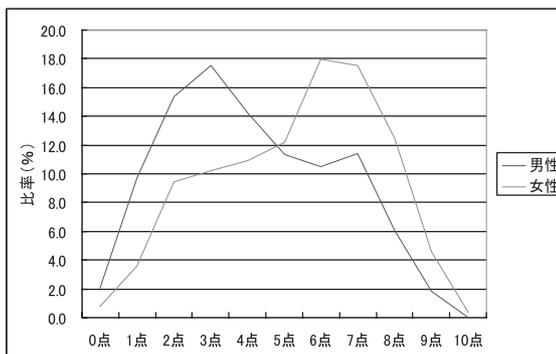


表4 基礎学力調査のT得点の平均値と標準偏差（年度別・回生別）

年度別 回生	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			英語	国語	数理	社会	日常生活	時事問題
平成14年度 1回生(1,496人)	平均値	40.7	44.5	47.7	47.6	45.0	41.2	37.1
	標準偏差	9.2	8.5	10.5	9.8	8.2	10.0	7.7
3回生(990人)	平均値	40.5	42.7	48.0	46.1	44.4	42.2	38.8
	標準偏差	9.4	7.5	10.4	9.5	8.3	10.5	8.4
平成15年度 1回生(1,436人)	平均値	41.7	45.3	48.1	48.0	45.2	41.7	38.6
	標準偏差	9.7	8.4	10.6	10.2	8.2	10.4	7.7
3回生(936人)	平均値	41.7	44.0	47.8	47.6	44.4	42.7	40.7
	標準偏差	9.5	7.8	10.4	9.5	8.4	10.5	7.8
平成16年度 1回生(1,470人)	平均値	52.1	56.0	54.7	52.8	52.1	49.7	43.0
	標準偏差	9.3	9.5	9.9	9.9	9.8	10.0	8.0
3回生(1,021人)	平均値	51.6	52.9	55.1	52.0	51.5	52.0	42.3
	標準偏差	9.1	9.0	9.7	9.7	9.7	10.8	8.5
平成17年度 1回生(1,427人)	平均値	47.4	49.8	51.3	50.5	47.1	47.3	43.1
	標準偏差	9.8	9.2	9.9	9.9	8.5	10.7	8.2
3回生(946人)	平均値	48.0	47.7	51.6	51.4	47.2	49.5	44.9
	標準偏差	10.4	9.2	9.7	10.4	9.0	11.4	8.5
平成18年度 1回生(1,528人)	平均値	45.7	47.9	50.2	50.3	45.8	44.0	44.6
	標準偏差	9.1	8.2	9.2	9.6	7.7	10.2	8.6
3回生(936人)	平均値	48.2	48.1	50.7	51.4	46.3	48.3	48.0
	標準偏差	10.5	9.2	9.8	10.4	8.4	11.2	9.8

(注1)各年度の回生毎に科目別のT得点が上位2番目までを強調文字で示してある。

(注2)平成16年度のみB社「02版」の試験問題を使用し、それ以外はB社「01版」の試験問題を使用。

表5 平成18年度1回生のT得点平均値(入試種別)

科目 入試種別	全科目総合	基礎常識				社会常識	
		国語	数理	英語	社会	日常生活	時事問題
A日程(490人)	47.9	51.9	52.0	49.5	46.9	45.2	45.9
B日程(295人)	46.9	50.8	51.1	49.9	46.2	44.2	44.9
センター試験(44人)	50.8	53.7	55.2	50.4	47.9	47.9	48.6
試験組	47.7	51.6	51.9	49.7	46.7	45.0	45.7
公募制推薦(391人)	45.3	51.0	49.0	47.5	45.4	44.0	44.0
指定校推薦(185人)	41.7	46.6	48.2	44.4	43.8	41.3	42.4
その他特別推薦(51人)	37.3	42.3	43.2	40.0	42.6	38.7	41.9
同窓(14人)	46.9	50.6	51.2	47.4	48.3	45.0	45.4
推薦組	43.7	49.0	48.4	46.0	44.8	42.8	43.4

(注)AO入試・宗門後継者・留学生・編入生等の各種入試は学生数が少ないので省略

表6 平成18年度3回生のT得点平均値(入試種別)

科目 入試種別	全科目総合	基礎常識				社会常識	
		国語	数理	英語	社会	日常生活	時事問題
A日程	51.4	52.5	53.9	51.0	48	50.9	49.6
B日程	50.5	52.7	54.1	50.1	47	49.2	49.3
センター	57.0	56.9	60.2	54.3	50	53.2	54.4
試験組	51.6	52.9	54.4	51.0	47.9	50.6	49.9
公募制推薦	45.7	49.6	48.8	45.8	44	47.2	47.6
指定校推薦	43.8	47.3	47.8	44.5	45	45.3	45.0
その他推薦	41.5	46.2	45.2	42.9	44	43.8	43.8
推薦組	44.5	48.3	48.1	45.0	44.5	46.1	46.2

(注)宗門後継者・留学生・編入生等の各種入試は学生数が少ないので省略

表7 基礎学力調査の素点平均と標準偏差(年度別・回生別)

年度別 回生	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			英語	国語	数理	社会	日常生活	時事問題
平成14年度 1回生(1,496人)	平均値	45.2	7.9	11.6	9.8	5.3	6.6	4.0
	標準偏差	10.1	2.9	2.6	2.4	2.2	2.7	2.1
3回生(990人)	平均値	44.9	7.3	11.7	9.5	5.1	6.8	4.5
	標準偏差	10.3	2.5	2.6	2.3	2.2	2.9	2.2
平成15年度 1回生(1,436人)	平均値	46.2	8.1	11.7	9.7	5.5	7.1	4.1
	標準偏差	10.5	2.8	2.6	2.4	2.2	2.9	2.0
3回生(936人)	平均値	46.2	7.7	11.6	9.6	5.3	7.4	4.5
	標準偏差	10.4	2.7	2.6	2.2	2.3	3.0	2.1
平成16年度 1回生(1,470人)	平均値	44.0	7.6	9.2	9.3	6.8	7.2	4.0
	標準偏差	10.0	2.3	2.7	2.6	2.4	2.6	1.9
3回生(1,021人)	平均値	43.4	6.9	9.2	9.2	6.7	7.7	3.9
	標準偏差	9.8	2.2	2.7	2.6	2.4	2.8	2.0
平成17年度 1回生(1,427人)	平均値	51.8	9.5	12.4	10.1	5.9	8.7	5.3
	標準偏差	11.0	3.2	2.6	2.4	2.2	3.1	2.2
3回生(946人)	平均値	52.5	8.8	12.5	10.3	6.0	9.4	5.5
	標準偏差	11.6	3.2	2.5	2.5	2.3	3.3	2.3
平成18年度 1回生(1,528人)	平均値	51.1	8.9	12.2	10.2	5.6	8.3	5.9
	標準偏差	10.8	2.9	2.4	2.4	2.1	3.1	2.4
3回生(936人)	平均値	52.9	9.0	12.3	10.3	5.7	9.2	6.4
	標準偏差	11.6	3.1	2.5	2.5	2.2	3.1	2.6

(注)強調文字は各科目とも得点の上位3番目までの年度別回生を示している。

表8-1 平成15年度1回生の学科別 T得点 (B社 [01版] テスト使用)

学科	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			国語	数理	英語	社会	日常生活	時事問題
	仏教学	37.0	39.9	43.8	44.6	44.4	38.3	37.4
	史学	44.5	44.6	52.6	49.0	48.7	44.1	40.1
	日本語日本語文学	41.5	44.7	49.9	46.6	44.8	42.5	37.6
	中国語中国文学	35.1	41.0	43.9	41.4	41.7	37.0	35.2
	英語英米文学	40.6	48.0	46.2	47.1	44.0	39.6	36.4
	教育学	44.7	49.6	49.6	51.1	45.5	43.5	39.0
	生涯学習学	40.5	44.4	44.7	51.2	44.7	40.4	37.0
	臨床心理学	46.7	50.0	52.6	53.4	46.0	45.8	39.3
	社会学	40.7	44.3	46.8	47.2	44.9	40.1	39.8
	応用社会学	45.5	48.3	49.3	50.2	46.6	46.3	41.3
	社会福祉学	42.9	47.3	49.9	50.0	44.7	41.4	38.4
	健康福祉学	40.4	45.2	46.5	46.4	44.2	41.5	37.4

(注)強調文字は各科目とも上位3学科を示している。

表8-2 平成17年度3回生の学科別 T得点 (B社 [01版] テスト使用)

学科	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			国語	数理	英語	社会	日常生活	時事問題
	仏教学	43.1	41.6	48.1	49.3	46.1	46.2	41.9
	史学	52.0	47.5	56.4	53.4	51.8	53.7	46.7
	日本語日本語文学	48.3	46.9	54.4	50.3	47.3	50.7	44.1
	中国語中国文学	40.4	42.6	47.9	43.1	41.8	43.2	42.5
	英語英米文学	48.6	52.8	49.8	52.0	46.1	49.0	43.8
	教育学	53.3	55.4	53.3	61.5	47.0	50.8	45.1
	生涯学習学	46.9	48.1	49.9	51.0	46.5	46.5	45.6
	臨床心理学	52.9	53.2	54.7	55.6	48.5	52.4	47.5
	社会学	48.9	48.2	52.2	51.9	48.2	49.8	45.8
	応用社会学	45.1	45.5	48.0	48.7	46.7	46.9	44.5
	社会福祉学	47.7	48.7	51.6	51.9	45.5	48.5	44.7
	健康福祉学	47.4	47.9	49.8	50.8	45.7	50.7	44.7

(注)強調文字は各科目とも上位3学科を示している。

表8-3 入学後の学科別 T得点の伸び率 (平成17年度3回生-平成15年度1回生)

学科	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			国語	数理	英語	社会	日常生活	時事問題
	仏教学	6.1	1.7	4.3	4.6	1.7	7.8	4.5
	史学	7.6	3.0	3.8	4.4	3.1	9.6	6.6
	日本語日本語文学	6.8	2.2	4.4	3.7	2.4	8.2	6.5
	中国語中国文学	5.3	1.6	4.0	1.8	0.1	6.1	7.3
	英語英米文学	8.1	4.8	3.6	4.9	2.1	9.4	7.3
	教育学	8.6	5.8	3.7	10.4	1.4	7.3	6.1
	生涯学習学	6.3	3.6	5.2	-0.2	1.8	6.1	8.6
	臨床心理学	6.2	3.2	2.1	2.3	2.4	6.6	8.2
	社会学	8.2	3.8	5.4	4.7	3.3	9.8	6.0
	応用社会学	-0.5	-2.8	-1.3	-1.5	0.1	0.6	3.1
	社会福祉学	4.8	1.3	1.6	1.8	0.8	7.1	6.3
	健康福祉学	7.1	2.7	3.3	4.4	1.5	9.2	7.4

(注)強調文字は各科目とも上昇率の高い上位3学科を示している。

表9-1 平成15年度1回生の学科別素点 (B社 [01版] テスト使用)

学科	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			国語	数理	英語	社会	日常生活	時事問題
	仏教学	43.5	6.5	11.5	9.6	5.4	6.4	4.1
	史学	50.9	8.3	13.0	10.2	6.4	8.3	4.7
	日本語日本語文学	45.9	7.9	12.2	9.4	5.4	7.2	3.8
	中国語中国文学	37.7	6.4	10.5	7.7	4.7	5.1	3.4
	英語英米文学	47.2	9.6	11.4	9.6	5.5	7.2	3.8
	教育学	49.9	10.4	12.5	10.3	5.6	6.6	4.5
	生涯学習学	45.1	7.9	11.1	10.5	5.2	6.7	3.7
	臨床心理学	52.3	9.8	12.9	11.1	6.0	8.1	4.4
	社会学	46.0	7.9	11.5	9.6	5.6	6.8	4.6
	応用社会学	49.9	9.0	11.7	10.1	6.0	8.2	4.9
	社会福祉学	48.0	8.7	12.4	10.2	5.5	7.2	4.1
	健康福祉学	44.7	8.1	11.3	9.5	5.1	6.9	3.8

(注)強調文字は各科目とも上位3学科を示している。

表9-2 平成17年度3回生の学科別素点 (B社 [01版] テスト使用)

学科	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			国語	数理	英語	社会	日常生活	時事問題
	仏教学	47.4	6.8	11.7	9.9	5.7	8.5	4.8
	史学	57.0	8.8	13.7	10.8	6.9	10.9	5.9
	日本語日本語文学	52.7	8.5	13.2	10.1	6.0	9.7	5.2
	中国語中国文学	43.4	6.9	11.5	8.4	4.5	7.5	4.6
	英語英米文学	53.7	10.6	12.1	10.6	5.9	9.2	5.3
	教育学	58.9	11.6	13.3	12.8	5.9	9.9	5.4
	生涯学習学	51.2	9.0	12.0	10.3	5.6	8.7	5.6
	臨床心理学	58.6	10.8	13.4	11.4	6.6	10.3	6.1
	社会学	53.4	9.0	12.6	10.4	6.2	9.4	5.9
	応用社会学	49.2	8.0	11.6	9.7	5.9	8.6	5.4
	社会福祉学	52.0	9.1	12.6	10.3	5.3	9.3	5.4
	健康福祉学	52.1	9.0	12.1	10.3	5.7	9.7	5.4

(注)強調文字は各科目とも上位3学科を示している。

表9-3 入学後の学科別素点の伸び率 (平成17年度3回生-平成15年度1回生)

学科	科目	総合得点	基礎常識				社会常識	
			国語	数理	英語	社会	日常生活	時事問題
	仏教学	3.9	0.3	0.2	0.3	0.3	2.1	0.7
	史学	6.1	0.5	0.7	0.6	0.5	2.6	1.3
	日本語日本語文学	6.9	0.6	1.0	0.7	0.6	2.6	1.4
	中国語中国文学	5.7	0.5	1.0	0.7	-0.2	2.4	1.2
	英語英米文学	6.5	1.0	0.7	1.0	0.4	2.0	1.5
	教育学	9.0	1.2	0.8	2.5	0.2	3.3	0.9
	生涯学習学	6.1	1.1	0.9	-0.2	0.4	2.0	1.9
	臨床心理学	6.3	1.0	0.5	0.4	0.6	2.2	1.7
	社会学	7.4	1.1	1.1	0.8	0.6	2.6	1.3
	応用社会学	-0.7	-1.0	-0.1	-0.3	-0.1	0.3	0.5
	社会福祉学	4.1	0.5	0.2	0.1	-0.2	2.1	1.4
	健康福祉学	7.4	0.9	0.8	0.8	0.6	2.8	1.6

(注)強調文字は各科目とも上昇率の高い上位3学科を示している。

2005年度佛教大学授業評価アンケート報告書

1. 2005年度授業アンケート概要

春学期は平成17年6月27日～7月16日、秋学期は平成17年11月28日～平成18年1月23日の期間で授業評価アンケートを実施した。実施教員数は表1に示しているように、常勤、非常勤講師を合わせると771人（春学期406人、秋学期365人）であった。昨年度の788人（春期413人、秋期375人）より17人減少している。科目数、学科別学生数、回生別学生数等の属性については表2～4を参照。

1. 全体集計

1. 受講態度

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、「遅刻・途中退出しなかった」が最も多く、次に「熱心に教員の話聞いた」、「授業に集中していた」、「欠席しなかった」、「ぼんやり・居眠りしたりしなかった」の順になっている。受講態度の自己申告では、概ね良好な結果となっている。

2. 履修理由

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、「教免・諸資格取得に必要なだから」が最も多く、「必須科目だから」、「講義概要を読んで興味を持ったから」、「卒業後の進路、就職に役立つと思ったから」、「卒論制作に有意義だと思ったから」の順になっている。消極的な履修理由と考えられる「空き時間だったから」、「友達が履修するから」、「単位を取りやすいと聞いたから」、「アルバイトの時間を配慮したから」、「課外活動・サークルの時間を配慮したから」を理由に挙げている学生は少ないことより、学修目的に沿って履修登録している学生が多いことがわかる。

3. この授業の内容をよく理解できた

全体の約75%の学生が授業内容を理解しているという結果になっている。しかし25%程度の学生は授業の内容が理解できないと回答しており、このような学生にどのようにサポートすればよいのかが課題である。

(3-1) 「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

授業の内容をよく理解できた要因としては、「講師の説明が分かりやすかったから」が圧倒的に多く、「授業の雰囲気がとてもよく熱心に取り組めたから」、「視聴覚系の補助教材が有効的であったから」、「テキストの解説が分かりやすかったから」の順になっている。学生が理解しやすい講義に対して、高い評価がなされていることがわかる。

(3-2)「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

今後改善を希望する内容としては、「講師の説明を分かりやすくしてほしい」が圧倒的に多く、「熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい」、「テキストの解説をもっと分かりやすくしてほしい」、「視聴覚系の補助教材をもっと利用してほしい」の順になっている。先の調査とも関連しており、教員の説明の仕方や熱心に取り組めるように配慮することの可否が、授業内容理解に大きく影響していることがわかる。

4. 授業内容に興味をもてた

全体の75%以上の学生が授業内容に興味をもてたと回答しており、「この授業の内容をよく理解できた」よりも高い結果となっている。

(4-1)「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

授業内容に興味をもてた要因としては、「もともと興味があったから」、「授業の進め方がよかったから」、「講師の熱意がうかがえたから」、「授業を聴くうちに内容に惹かれたから」の順になっている。学修目的に沿って登録履修を行っている学生が多いことから、登録段階から興味の高さが持続された結果と考えられる。

(4-2)「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

今後改善を希望する内容としては、「授業の進め方をもっと工夫してほしい」、「興味を持てるようにしてほしい」、「もっと熱心に教えてほしい」、「講義概要と授業内容を合わせてほしい」の順になっている。履修目的が明確であっても、授業の進め方が不適切であると、興味関心が高まらないことを示しており、授業方法の創意工夫が求められている。

5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

「授業の要点を明確にしてほしい」が最も多く、「板書の字をしっかりと書いてほしい」、「授業の時間配分を考えてほしい」、「私語をしている学生を注意してほしい」、「声を大きくしてほしい」の順になっている。講義においては、各講義の最初や最後の時間帯に、講義の要点を明確化するなどの工夫が必要である。また、丁寧な板書に対する要望も多い。

6. この授業を履修したことによって興味が増した

75%以上の学生が、授業を履修したことによって興味が増したという結果が見られる。

7. この授業を履修して満足している

およそ80%の学生が、授業を履修して満足しているという結果が見られる。

2. 学部別集計

*学部の割り当ては、以下のようになっている。

文 学 部：仏教学科・史学科・日本語日本文学科・中国語中国文学科・英語英米文
学科・人文学科・中国学科・英米学科

教 育 学 部：教育学科・生涯学習学科・臨床心理学科

社 会 学 部：社会学科・応用社会学科・社会福祉学科・健康福祉学科・現代社会学
科・公共政策学科

社会福祉学部：社会福祉学科（2004年度以降入学生）

1. 受講態度

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、文学部、社会学部、社会福祉学部では「遅刻や途中退出をしなかった」が最も多く、教育学部では「熱心に教員の話聞いた」が最も多い。また、二番目は、文学部・社会学部では「熱心に教員の話聞いた」が、教育学部では「遅刻や途中退出をしなかった」が、そして社会福祉学部では「欠席をしなかった」が多い。資格取得志向の強い社会福祉学部では、授業の出欠に関する意識が強いことがうかがえる。

2. 履修理由

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、文学部では「講義概要を読んで興味を持ったから」が最も多く、「教免・諸資格取得に必要なだから」、「必須科目だから」の順になっている。教育学部、社会福祉学部では「教免・諸資格取得に必要なだから」が最も多く、「必須科目だから」、「卒業後の進路、就職に役立つと思ったから」の順になっている。社会学部では「講義概要を読んで興味を持ったから」が最も多く、「必須科目だから」、「教免・諸資格取得に必要なだから」の順になっている。将来の進路が比較的限定されている教育学部と社会福祉学部では、就職を意識した同様の傾向が見られる。

一方、「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」を合わせると、文学部、社会学部、社会福祉学部では「課外活動・サークルの時間を配慮したから」が最も多く、「アルバイトの時間を配慮したから」、「単位を取りやすいと聞いたから」の順になっている。教育学部では「アルバイトの時間を配慮したから」が最も多く、「課外活動・サークルの時間を配慮したから」、「単位を取りやすいと聞いたから」の順になっている。いずれの学部も類似した傾向を示しており、課外活動やアルバイトよりも学業を優先していることがわかる。

3. この授業の内容をよく理解できた

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生は各学部とも70%以上となっている。教育学部が他の学部より高い数値となっている。

(3-1) 「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあては

まるもの全てにマークしてください

授業の内容をよく理解できた要因としては、各学部とも「講師の説明が分かりやすかったから」が圧倒的に多く、「授業の雰囲気がとてもよく熱心に取り組めたから」が続いている。「視聴覚系の補助教材が有効的であったから」については教育学部で高い数値となっており、「テキストの解説が分かりやすかったから」については文学部で高い数値となっている。

(3-2)「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

今後改善を希望する内容としては、各学部とも「講師の説明を分かりやすくしてほしい」が圧倒的に多く、「熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい」が続いている。「視聴覚系の補助教材をもっと利用してほしい」については社会学部で高い数値となっており、「テキストの解説をもっと分かりやすくしてほしい」については文学部で高い数値となっている。(3-1)と合わせると、テキストの解説についての評価は、文学部の学生内で格差が大きいことがわかる。

4. 授業内容に興味をもてた

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生は各学部とも75%以上となっている。

(4-1)「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

授業内容に興味をもてた要因としては、各学部とも「もともと興味があったから」が最も多い。「授業の進め方がよかったから」、「授業を聴くうちに内容に惹かれたから」、「講師の熱意がうかがえたから」は、各学部によって若干の順位の差があるが、概ね30%の割合に揃っている。

(4-2)「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

今後改善を希望する内容としては、文学部では「興味を持てるようにしてほしい」、「授業の進め方をもっと工夫してほしい」の順になっており、教育学部、社会学部、社会福祉学部では「授業の進め方をもっと工夫してほしい」、「興味を持てるようにしてほしい」の順になっている。

5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

各学部とも「授業の要点を明確にしてほしい」が最も高く、「板書の字をしっかりと書いてほしい」が次に高い数値となっている。3番目には、文学部、社会福祉学部では「授業の時間配分を考えてほしい」、教育学部では「声を大きくしてほしい」、社会学部では「私語をしている学生を注意してほしい」が挙げられている。

6. この授業を履修したことによって興味が増した

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生の割合は、教育学部・社会福祉学部が最も多く、社会学部、文学部の順になっている。

7. この授業を履修して満足している

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生の割合は、各学部とも75%以上と高い数値となっている。

3. 科目別集計

*科目種別は、以下の3種に分類している。

共通科目：外国語科目を除いた共通科目（3回生以上）および全学共通科目（1・2回生）

外国語科目：共通科目および全学共通科目の外国語科目

専門基礎科目：専門基礎科目（1・2回生）

1. 受講態度

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、共通科目では「遅刻や途中退席をしなかった」が最も多く、「熱心に教員の話聞いた」が二番目である。外国語科目では「熱心に教員の話聞いた」が最も多く「遅刻や途中退席をしなかった」が二番目である。専門基礎科目では「遅刻や途中退席をしなかった」が最も多く、「欠席をしなかった」が二番目である。

2. 履修理由

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、共通科目では「講義概要を読んで興味を持ったから」が最も多く、「必須科目だから」、「空き時間だったから」の順になっている。外国語科目では「必須科目だから」が圧倒的に多く、「卒業後の進路、就職に役立つと思ったから」、「講義概要を読んで興味を持ったから」の順になっている。専門基礎科目では「講義概要を読んで興味を持ったから」が最も多く、「教免・諸資格取得に必要なから」、「空き時間だったから」の順になっている。

科目種別の性質の違いが履修理由に反映されており、外国語科目では、必須であったり、卒業後への活用が履修理由となっている。また、共通科目、専門基礎科目では、空き時間であったことなども履修理由の大きな要因となっている。

3. この授業の内容をよく理解できた

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、外国語科目が最も多く、共通科目、専門基礎科目の順になっている。外国語科目と専門基礎科目の差は約15%と開き具合が大きい。

(3-1) 「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

授業の内容をよく理解できた要因としては、各科目種別とも「講師の説明が分かりやすかったから」が圧倒的に多く、「授業の雰囲気がとてもよく熱心に取り組めたから」が続いている。「視聴覚系の補助教材が有効的であったから」については専門基礎科目で高い数値となっており、「テキストの解説が分かりやすかったから」については外国語科目で高い数値となっている。

(3-2) 「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

今後改善を希望する内容としては、共通科目、専門基礎科目では「講師の説明を分かりやすくしてほしい」が最も多く、「熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい」、「テキストの解説をもっと分かりやすくしてほしい」の順になっている。外国語科目では「テキストの解説をもっと分かりやすくしてほしい」が最も多く、「講師の説明を分かりやすくしてほしい」、「熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい」の順になっている。共通科目、専門基礎科目と、外国語科目とでは、授業内容の改善に対する要望が異なっていることがわかる。

4. 授業内容に興味をもてた

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生は各科目種別とも約75%以上となっている。

(4-1) 「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

授業内容に興味をもてた要因としては、共通科目、専門基礎科目では「もともと興味があったから」が最も多い。外国語科目では「授業の進め方がよかったから」が最も多く、この項目でも、共通科目、専門基礎科目と、外国語科目間の差が見られる。

(4-2) 「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

今後改善を希望する内容としては、各科目種別とも「興味を持てるようにしてほしい」と、「授業の進め方をもっと工夫してほしい」の2つに集中している。

5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

各科目種別とも「授業の要点を明確にしてほしい」が最も高い。2番目以降には、「板書の字をしっかりと書いてほしい」、「授業の時間配分を考えてほしい」等が高くなっている。

6. この授業を履修したことによって興味が増した

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生の割合は、

各科目種別とも70%以上である。

7. この授業を履修して満足している

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生の割合は、各科目種別とも75%以上と高い数値となっている。

4. 男女別集計

1. 受講態度

男女とも大きく差は出なかったものの、「欠席しなかった」、「遅刻・途中退出しなかった」では「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答した学生は、女性の数値が高くなっている。

2. 履修理由

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた割合は、「講義概要を読んで興味を持ったから」は男女で大きな差はないが、「教免・諸資格取得に必要だから」、「卒業後の進路、就職に役立つと思ったから」は女性の数値が高く、「卒論作成のために有意義だと思ったから」は男性の数値が高くなっている。「単位が取りやすいと聞いたから」、「空き時間だったから」、「アルバイトの時間を配慮したから」、「課外活動・サークルの時間を配慮したから」といった消極的な態度の項目では、男性の数値が高くなっている。

3. この授業の内容をよく理解できた

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」が男女とも75%を超えており高い数値となっている。

(3-1) 「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

授業の内容をよく理解できた要因としては、男女とも「講師の説明が分かりやすかったから」が圧倒的に多く、「授業の雰囲気がとてもよく熱心に取り組めたから」が続いている。

(3-2) 「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

授業の内容をよく理解できなかった要因としては、男女とも「講師の説明を分かりやすくしてほしい」が最も多く、「熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい」、「テキストの解説をもっと分かりやすくしてほしい」の順になっている。

4. 授業内容に興味をもてた

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生は男女とも

75%以上となっている。

(4-1) 「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

授業内容に興味をもてた要因としては、男女とも「もともと興味があったから」が最も多く、「授業の進め方がよかったから」、「講師の熱意がうかがえたから」、「授業を聴くうちに内容に惹かれたから」の順になっている。

(4-2) 「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

今後改善を希望する内容としては、男女とも「興味を持てるようにしてほしい」と、「授業の進め方をもっと工夫してほしい」の二つに集中している。

5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

男女とも「授業の要点を明確にしてほしい」が最も多く、「板書の字をしっかりと書いてほしい」、「授業の時間配分を考えてほしい」の順になっている。

6. この授業を履修したことによって興味が増した

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生の割合は、男女とも70%以上である。

7. この授業を履修して満足している

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生の割合は、男女とも約80%と高い数値となっている。

5. 回生別集計

1. 受講態度

「熱心に教員の話聞いた」では、「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると、各回生とも75%を超えており、とくに大学院・科目履修生等は90%を上回っている。「ぼんやり・居眠りしたりしなかった」では、大学院・科目履修生等が最も多く、4回生、5回生以上の順になっている。「授業に集中していた」では、大学院・科目履修生等が最も多く、5回生以上、4回生の順になっている。「欠席をしなかった」、「遅刻・途中退出しなかった」では、大学院・科目履修生等が最も多く、1回生、2回生の順になっている。

2. 履修理由

「非常にあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した回生ごとの割合は、「講義概要を読んで興味を持ったから」では、大学院・科目履修生等、5回生以上、4回

生の順になっており、1回生が最も低くなっている。「必須科目だから」では、1回生、5回生以上、大学院・科目履修生等の順になっている。1回生では必修科目が多く科目の選択肢が少ないことが要因として考えられる。「教免・諸資格取得に必要なだから」では、2回生、大学院・科目履修生等、4回生の順になっている。「卒論作成のために有意義だと思ったから」は、大学院・科目履修生等で最も高いが、全体的に履修理由としては低い数値となっている。「卒業後の進路、就職に役立つと思ったから」では大学院・科目履修生等、2回生、4回生の順になっている。

3. この授業の内容をよく理解できた

「非常にあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した回生ごとの割合は、大学院・科目履修生等が最も多く、5回生以上、4回生の順になっている。最も低かったのは1回生である。

(3-1) 「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

授業の内容をよく理解できた要因としては、各回生とも「講師の説明が分かりやすかったから」が圧倒的に多く、「授業の雰囲気がとてもよく熱心に取り組めたから」が続いている。

(3-2) 「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

今後改善を希望する内容としては、3回生以外は「講師の説明を分かりやすくしてほしい」が最も多く、「熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい」、「テキストの解説をもっと分かりやすくしてほしい」の順になっている。3回生は「講師の説明を分かりやすくしてほしい」が最も多く、「熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい」、「視聴覚系の補助教材をもっと利用してほしい」の順になっている。

4. 授業内容に興味をもてた

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生は大学院・科目履修生等が最も多く、4回生、5回生以上の順になっている。最も低いのは1回生であるが、それでも70%以上と高い結果になっている。

(4-1) 「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

授業内容に興味をもてた要因としては、1～4回生は、「もともと興味があったから」が最も多く、「授業の進め方がよかったから」、「講師の熱意がうかがえたから」の順になっている。5回生以上、大学院・科目履修生等はそれぞれ異なる結果となっている。

(4-2) 「どちらかといえばあてはまらない」、「全くあてはまらない」と答えた理由として今後の改善を希望するもの全てにマークしてください

今後改善を希望する内容としては、各回生とも「興味を持てるようにしてほしい」と、「授業の進め方をもっと工夫してほしい」の二つに集中している。

5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

1～5回生以上では、「授業の要点を明確にしてほしい」が最も多く、「板書の字をしっかりと書いてほしい」の順になっている。

6. この授業を履修したことによって興味が増した

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生の割合は、学年が上がるにつれて増加しており、大学院・科目履修生等では90%を超えている。

7. この授業を履修して満足している

「非常にあてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」と回答している学生の割合は、概ね学年があがるにつれて増加している。

表1 授業評価アンケート実施教員数

	春学期		秋学期	
	実施教員数	実施率	実施教員数	実施率
専任教員	86	51.5%	75	44.9%
非常勤講師	320	53.8%	290	48.7%
合計	406	53.3%	365	47.9%

表2 授業評価アンケート実施科目数

	春期	秋期	合計
共通	43	45	88
語学系科目	127	101	228
専門科目	359	323	682
専門基礎科目	27	10	37
合計	556	479	1,035

表4 回生別学生数

	人数	%
1回生	12,134	32.4%
2回生	13,086	34.9%
3回生	8,815	23.5%
4回生	2,944	7.9%
5回生以上	282	0.8%
大学院・科目履修生等	241	0.6%
合計	37,502	100.0%

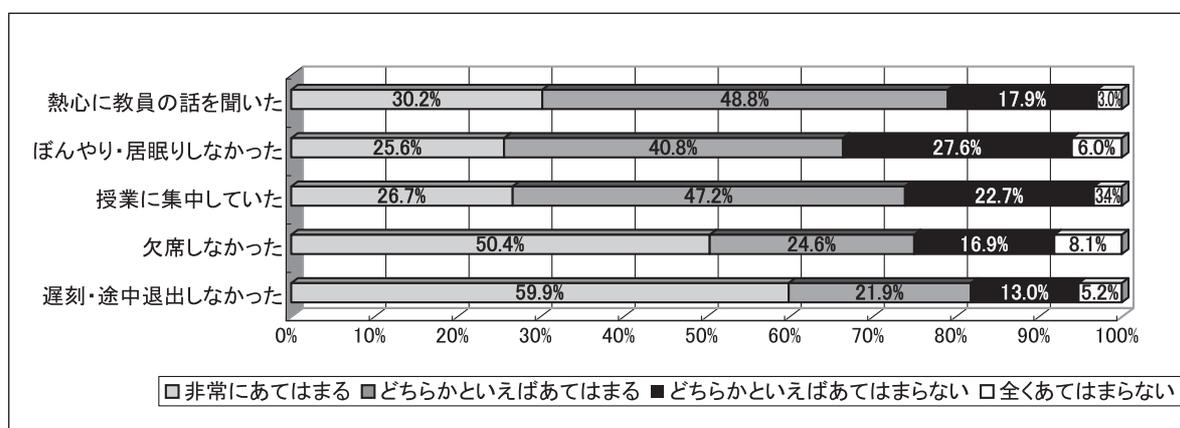
表3 授業評価アンケート実施学生数

	人数	%
仏教学科	1,214	3.4%
史学科	1,536	4.3%
日本文学科	1,202	3.3%
中国文学科	412	1.1%
英米文学科	785	2.2%
教育学科	879	2.4%
生涯学習学科	555	1.5%
臨床心理学科	578	1.6%
社会学科	1,319	3.7%
応用社会学科	996	2.8%
社会福祉学科	1,274	3.5%
健康福祉学科	1,118	3.1%
その他	197	0.5%
人文学科	6,828	19.0%
中国学科	705	2.0%
英米学科	1,272	3.5%
教育学科(新カリ)	2,935	8.2%
臨床心理学科(新カリ)	905	2.5%
現代社会学科(新カリ)	2,903	8.1%
公共政策学科(新カリ)	2,254	6.3%
社会福祉学科(新カリ)	6,138	17.0%
合計	36,005	100.0%

全体集計

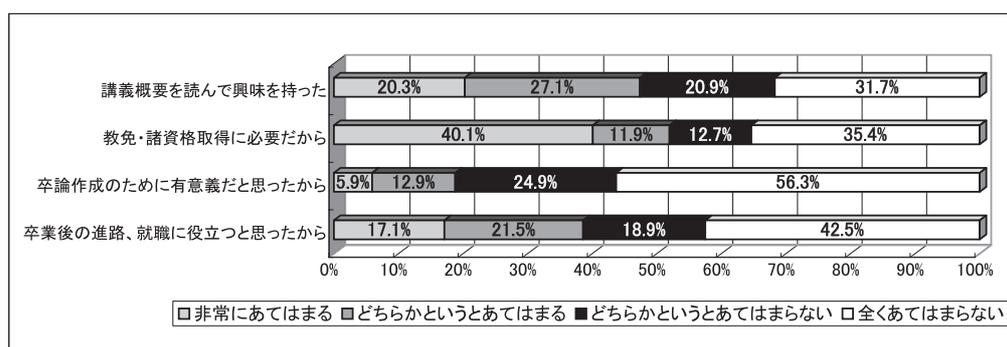
1. 受講態度

	1-1		1-2		1-3		1-4		1-5	
	熱心に教員の話 を聞いた		ぼんやり・居眠りし なかった		授業に集中していた		欠席しなかった		遅刻・途中退出をし なかった	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
非常にあてはまる	11,635	30.2%	9,844	25.6%	10,231	26.7%	19,340	50.4%	22,991	59.9%
どちらかといえば あてはまる	18,789	48.8%	15,674	40.8%	18,126	47.2%	9,449	24.6%	8,421	21.9%
どちらかといえば あてはまらない	6,906	17.9%	10,587	27.6%	8,719	22.7%	6,470	16.9%	4,976	13.0%
全くあてはまらない	1,158	3.0%	2,316	6.0%	1,296	3.4%	3,123	8.1%	2,000	5.2%
合計	38,488	100%	38,421	100%	38,372	100%	38,382	100%	38,388	100%

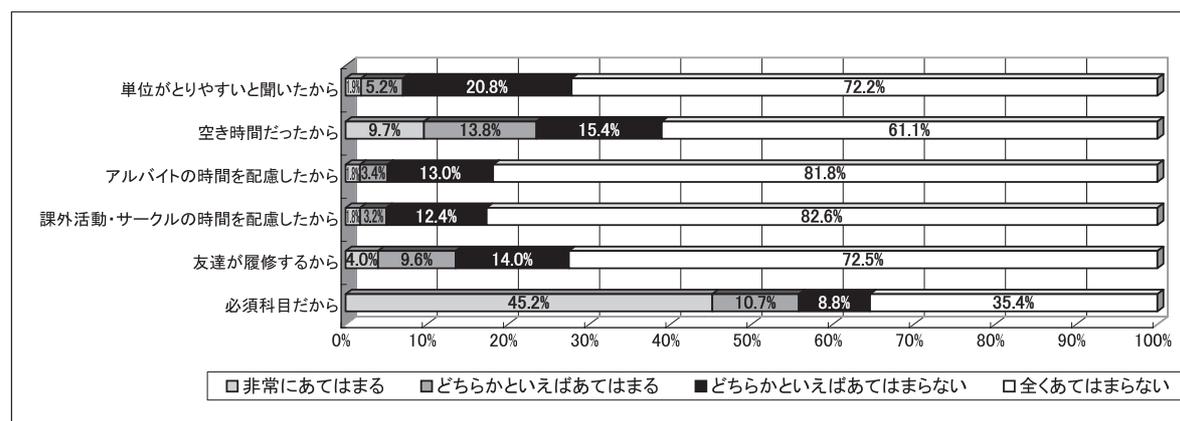


2. 履修理由

	2-1		2-2		2-3		2-4	
	講義概要を読んで興味を持ったから		教免・諸資格取得に必要なから		卒論作成のために有意義だと思ったから		卒業後の進路、就職に役立つと思ったから	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
非常にあてはまる	7,430	20.3%	14,768	40.1%	2,147	5.9%	6,226	17.1%
どちらかといえばあてはまる	9,946	27.1%	4,377	11.9%	4,670	12.9%	7,807	21.5%
どちらかといえばあてはまらない	7,660	20.9%	4,670	12.7%	9,049	24.9%	6,886	18.9%
全くあてはまらない	11,633	31.7%	13,029	35.4%	20,437	56.3%	15,455	42.5%
合計	36,669	100%	36,844	100%	36,303	100%	36,374	100%

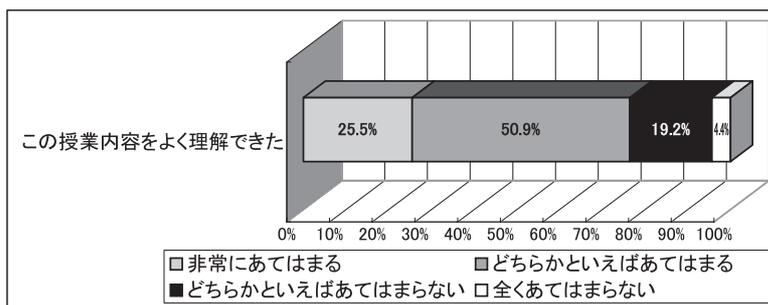


	2-5		2-6		2-7		2-8		2-9		2-10	
	単位がとりやすいと聞いたから		空き時間だったから		アルバイトの時間を配慮したから		課外活動・サークルの時間を配慮したから		友達が履修するから		必須科目だから	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
非常にあてはまる	688	1.9%	3,514	9.7%	641	1.8%	646	1.8%	1,453	4.0%	16,907	45.2%
どちらかといえばあてはまる	1,871	5.2%	5,036	13.8%	1,229	3.4%	1,166	3.2%	3,469	9.6%	3,990	10.7%
どちらかといえばあてはまらない	7,539	20.8%	5,616	15.4%	4,721	13.0%	4,487	12.4%	5,068	14.0%	3,283	8.8%
全くあてはまらない	26,173	72.2%	22,219	61.1%	29,692	81.8%	29,969	82.6%	26,328	72.5%	13,252	35.4%
合計	36,271	100%	36,385	100%	36,283	100%	36,268	100%	36,318	100%	37,432	100%



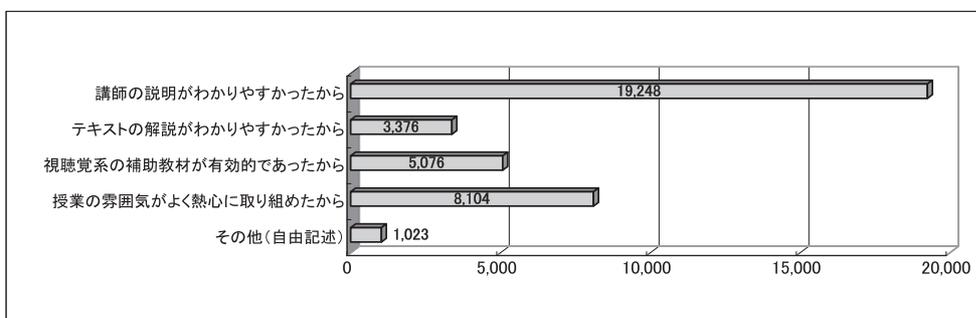
3. この授業の内容をよく理解できた

	3 人(※延べ)	
非常にあてはまる	9,743	25.5%
どちらかといえばあてはまる	19,476	50.9%
どちらかといえばあてはまらない	7,350	19.2%
全くあてはまらない	1,669	4.4%
合計	38,238	100%



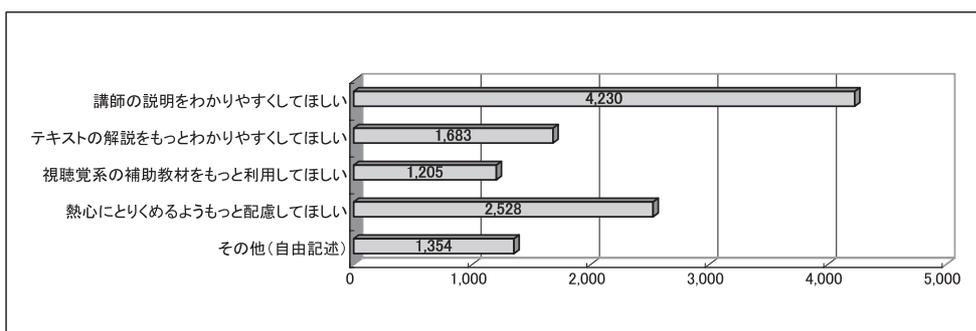
(3-1)「非常にあてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

3-1-1		3-1-2		3-1-3		3-1-4		3-1-5		合計	
講師の説明がわかりやすかったから		テキストの解説がわかりやすかったから		視聴覚系の補助教材が有効的であったから		授業の雰囲気がよく熱心に取り組めたから		その他(自由記述)		合計	
人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
19,248	69.0%	3,376	12.1%	5,076	18.2%	8,104	29.1%	1,023	3.7%	36,827	132.1%



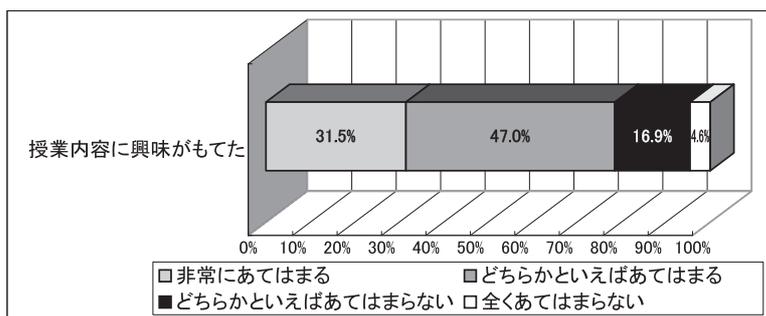
(3-2)「どちらかといえばあてはまらない」・「全くあてはまらない」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

3-2-1		3-2-2		3-2-3		3-2-4		3-2-5		合計	
講師の説明をわかりやすくしてほしい		テキストの解説をもっとわかりやすくしてほしい		視聴覚系の補助教材をもっと利用してほしい		熱心にとりくめるようもっと配慮してほしい		その他(自由記述)		合計	
人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
4,230	51.8%	1,683	20.6%	1,205	14.8%	2,528	31.0%	1,354	16.6%	11,000	134.7%



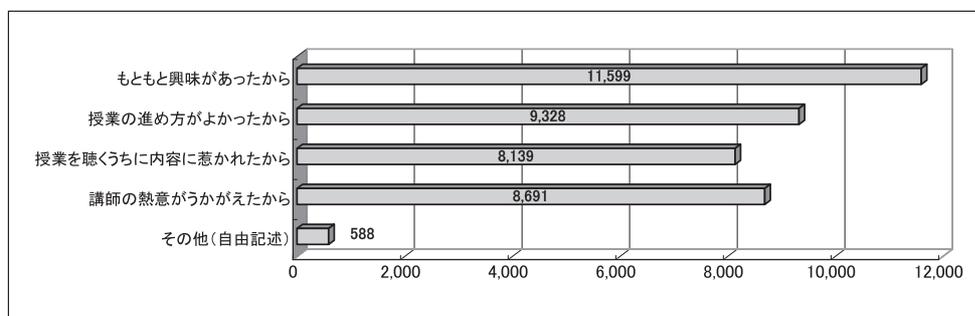
4. 授業内容に興味をもてた

	4 人(※延べ)	
非常にあてはまる	11,771	31.5%
どちらかといえばあてはまる	17,542	47.0%
どちらかといえばあてはまらない	6,326	16.9%
全くあてはまらない	1,705	4.6%
合計	37,344	100%



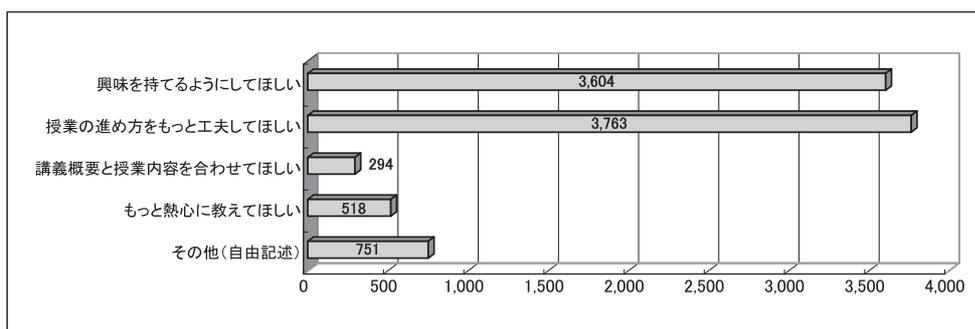
(4-1)「非常にあてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

4-1-1		4-1-2		4-1-3		4-1-4		4-1-5		合計	
もともと興味があったから		授業の進め方がよかつたから		授業を聴くうちに内容に惹かれたから		講師の熱意がうかがえたから		その他(自由記述)		合計	
人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
11,599	41.1%	9,328	33.0%	8,139	28.8%	8,691	30.8%	588	2.1%	38,345	135.8%



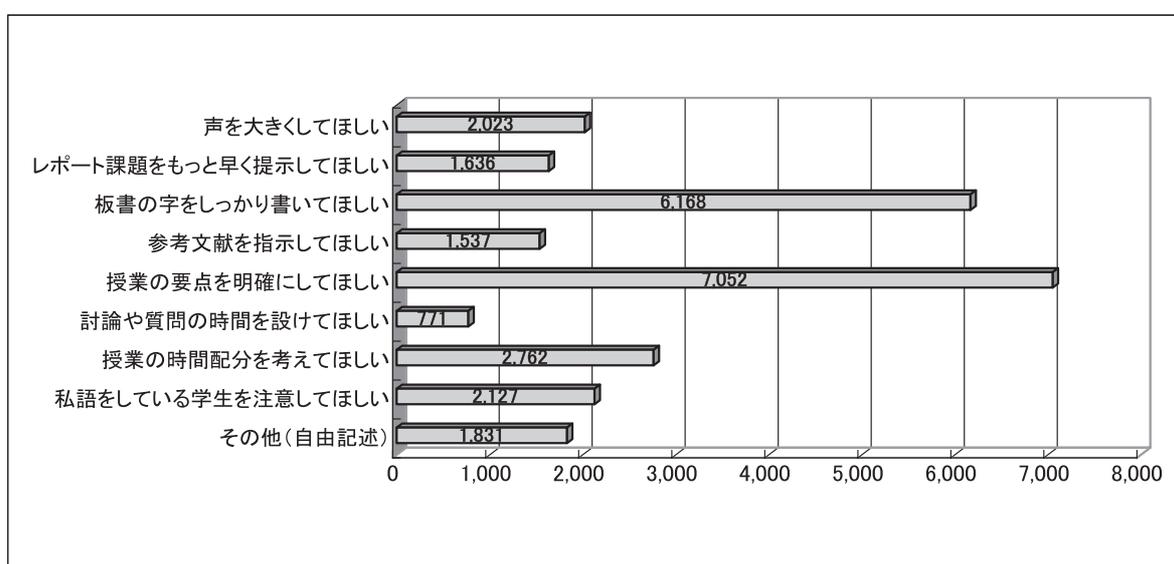
(4-2)「どちらかといえばあてはまらない」・「全くあてはまらない」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

4-2-1		4-2-2		4-2-3		4-2-4		4-2-5		合計	
興味を持てるようにしてほしい		授業の進め方をもっと工夫してほしい		講義概要と授業内容を合わせてほしい		もっと熱心に教えてほしい		その他(自由記述)		合計	
人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
3,604	50.9%	3,763	53.2%	294	4.2%	518	7.3%	751	10.6%	8,930	126.2%



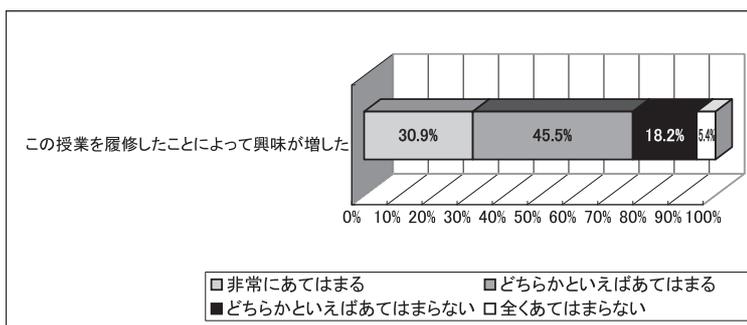
5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

5-1		5-2		5-3		5-4		5-5	
声を大きくしてほしい		レポート課題をもっと早く提示してほしい		板書の字をしっかりと書いてほしい		参考文献を指示してほしい		授業の要点を明確にしてほしい	
人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
2,023	10.8%	1,636	8.7%	6,168	32.8%	1,537	8.2%	7,052	37.5%
5-6		5-7		5-8		5-9		合計	
討論や質問の時間を設けてほしい		授業の時間配分を考えてほしい		私語をしている学生を注意してほしい		その他(自由記述)		18,785 (回答人数)	
人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)			
771	4.1%	2,762	14.7%	2,127	11.3%	1,831	9.7%	25,907 (回答数)	137.9%



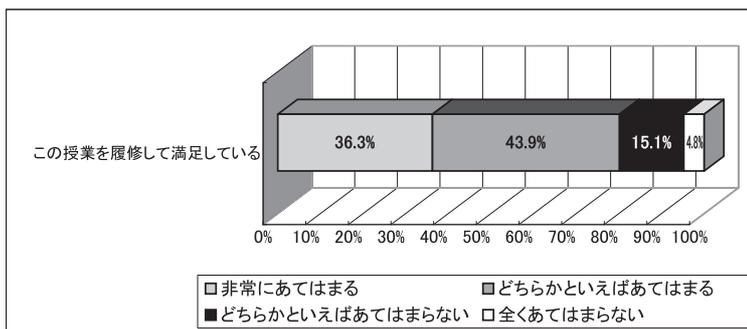
6. この授業を履修したことによって興味が増した

	6	
	人(※延べ)	
非常にあてはまる	11,211	30.9%
どちらかといえばあてはまる	16,519	45.5%
どちらかといえばあてはまらない	6,590	18.2%
全くあてはまらない	1,948	5.4%
合計	36,268	100%



7. この授業を履修して満足している

	7	
	人(※延べ)	
非常にあてはまる	12,654	36.3%
どちらかといえばあてはまる	15,308	43.9%
どちらかといえばあてはまらない	5,262	15.1%
全くあてはまらない	1,669	4.8%
合計	34,893	100%



学部別集計

※学部の割り当ては以下に行なっている。

文学部：仏教学科(旧カリ)・史学科(旧カリ)・日本文学科(旧カリ)・中国文学科(旧カリ)・英米文学科(旧カリ)
：人文学科(新カリ)・中国学科(新カリ)・英米学科(新カリ)

教育学部：教育学科(旧・新カリ)・生涯学習学科(旧カリ)・臨床心理学科(旧・新カリ)

社会学部：社会学科(旧カリ)・応用社会学科(旧カリ)・現代社会学科(新カリ)・公共政策学科(新カリ)

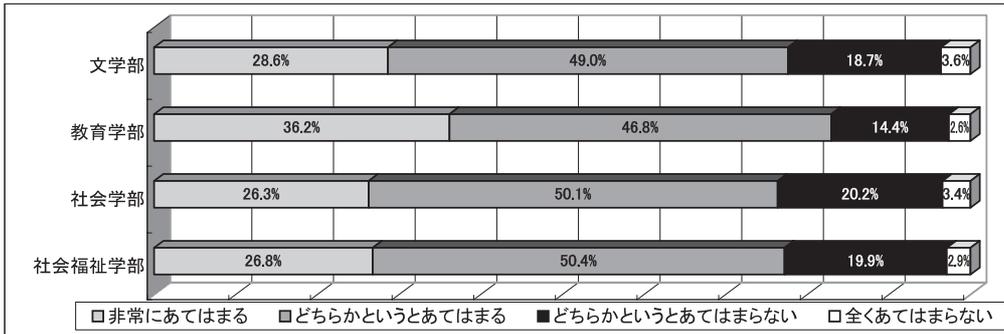
社会福祉学部：社会福祉学科(旧・新カリ)・健康福祉学科(旧カリ)

※各学部の専門基幹科目(新カリ)も含まれる。

1. 受講態度

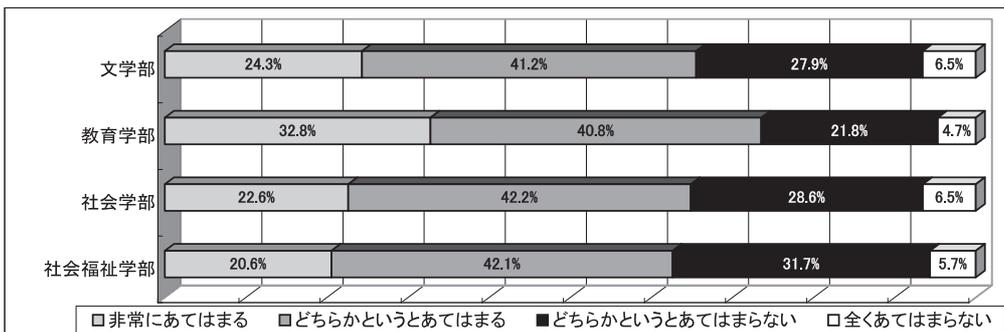
[1-1] 熱心に教員の話聞いた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	2,241	28.6%	3,835	49.0%	1,466	18.7%	283	3.6%	7,825	100%
教育学部	2,600	36.2%	3,361	46.8%	1,036	14.4%	190	2.6%	7,187	100%
社会学部	927	26.3%	1,766	50.1%	712	20.2%	121	3.4%	3,526	100%
社会福祉学部	1,707	26.8%	3,215	50.4%	1,267	19.9%	185	2.9%	6,374	100%



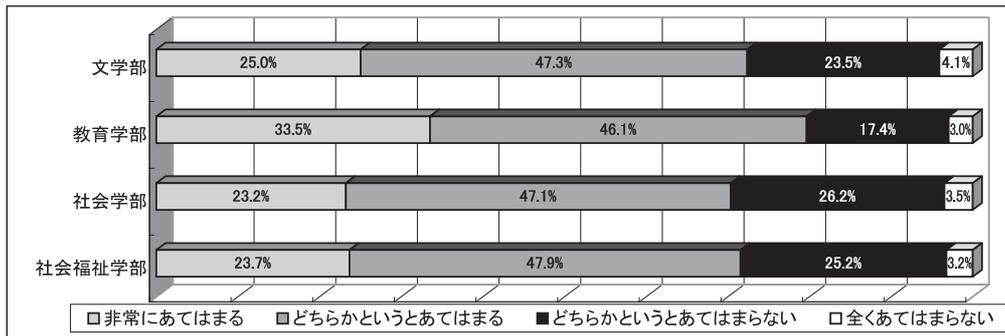
[1-2] ぼんやりしたり、居眠りしたりしなかった

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	1,901	24.3%	3,220	41.2%	2,184	27.9%	511	6.5%	7,816	100%
教育学部	2,354	32.8%	2,931	40.8%	1,565	21.8%	336	4.7%	7,186	100%
社会学部	797	22.6%	1,488	42.2%	1,008	28.6%	230	6.5%	3,523	100%
社会福祉学部	1,306	20.6%	2,672	42.1%	2,016	31.7%	359	5.7%	6,353	100%



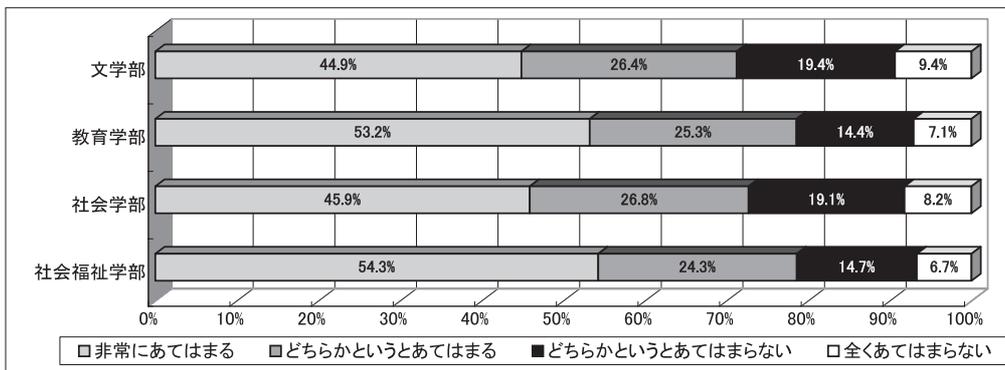
[1-3] 授業に集中していた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	1,954	25.0%	3,696	47.3%	1,838	23.5%	319	4.1%	7,807	100%
教育学部	2,406	33.5%	3,311	46.1%	1,249	17.4%	212	3.0%	7,178	100%
社会学部	815	23.2%	1,655	47.1%	919	26.2%	122	3.5%	3,511	100%
社会福祉学部	1,502	23.7%	3,040	47.9%	1,601	25.2%	205	3.2%	6,348	100%



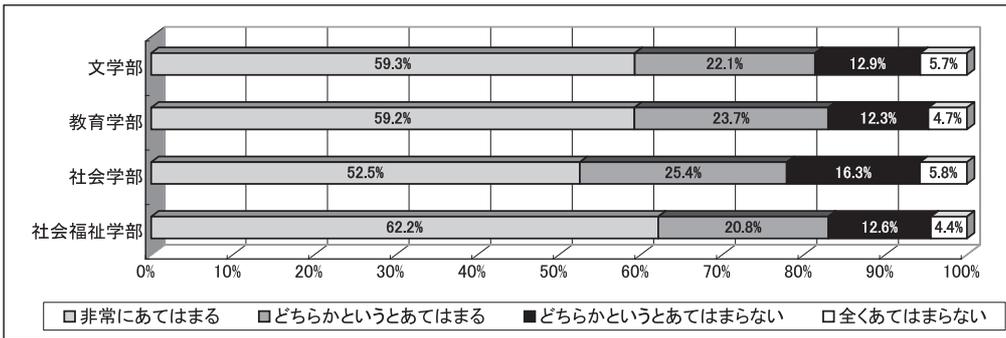
[1-4] 欠席をしなかった

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	3,498	44.9%	2,057	26.4%	1,513	19.4%	731	9.4%	7,799	100%
教育学部	3,820	53.2%	1,817	25.3%	1,031	14.4%	508	7.1%	7,176	100%
社会学部	1,616	45.9%	944	26.8%	673	19.1%	289	8.2%	3,522	100%
社会福祉学部	3,445	54.3%	1,544	24.3%	934	14.7%	425	6.7%	6,348	100%



[1-5] 遅刻や途中退学をしなかった

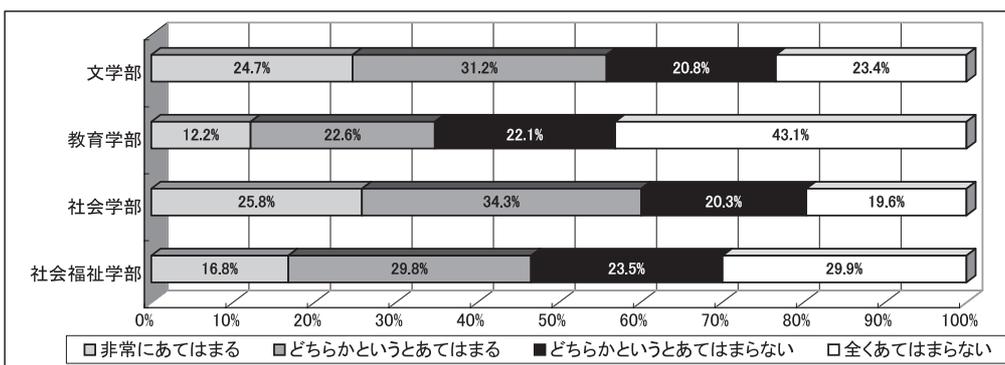
	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	4,625	59.3%	1,725	22.1%	1,007	12.9%	446	5.7%	7,803	100%
教育学部	4,252	59.2%	1,704	23.7%	882	12.3%	339	4.7%	7,177	100%
社会学部	1,851	52.5%	894	25.4%	575	16.3%	203	5.8%	3,523	100%
社会福祉学部	3,948	62.2%	1,324	20.8%	798	12.6%	281	4.4%	6,351	100%



2. 履修理由

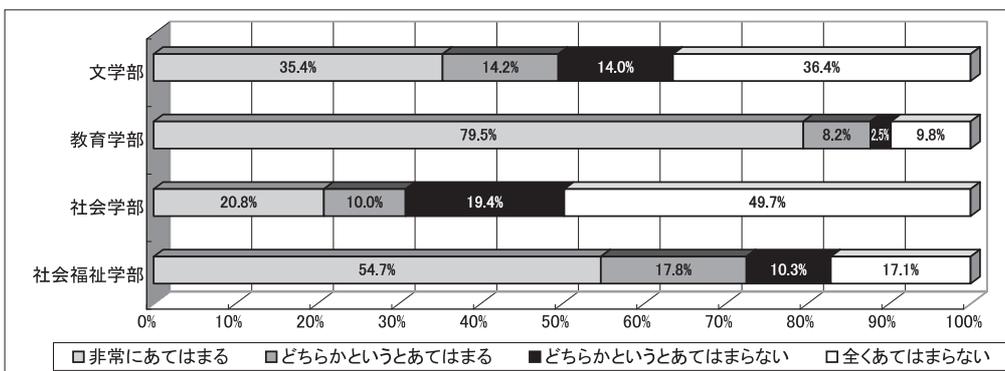
[2-1] 講義概要を読んで興味を持ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	1,889	24.7%	2,383	31.2%	1,589	20.8%	1,788	23.4%	7,649	100%
教育学部	810	12.2%	1,503	22.6%	1,471	22.1%	2,865	43.1%	6,649	100%
社会学部	888	25.8%	1,177	34.3%	696	20.3%	675	19.6%	3,436	100%
社会福祉学部	1,013	16.8%	1,795	29.8%	1,416	23.5%	1,803	29.9%	6,027	100%



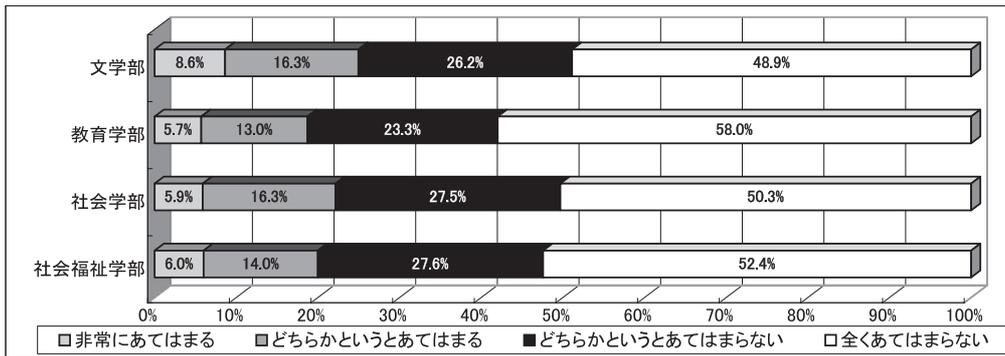
[2-2] 教免・諸資格取得に必要なだから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	2,706	35.4%	1,084	14.2%	1,073	14.0%	2,788	36.4%	7,651	100%
教育学部	5,417	79.5%	560	8.2%	171	2.5%	665	9.8%	6,813	100%
社会学部	708	20.8%	340	10.0%	660	19.4%	1,691	49.7%	3,399	100%
社会福祉学部	3,372	54.7%	1,098	17.8%	636	10.3%	1,055	17.1%	6,161	100%



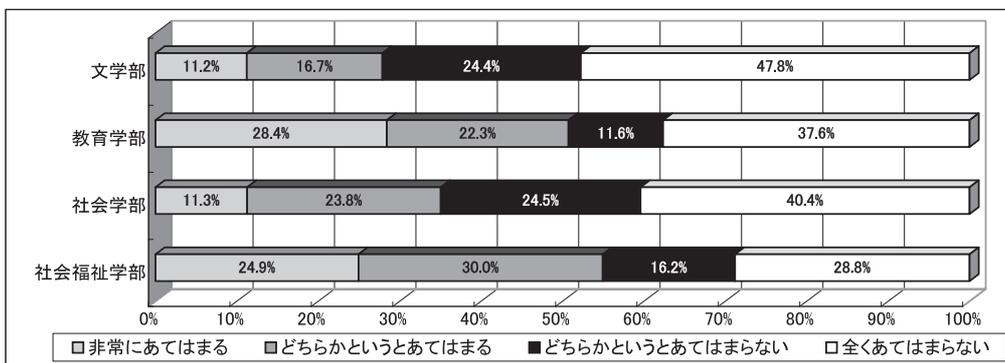
[2-3] 卒論作成のために有意義だと思ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	655	8.6%	1,239	16.3%	1,984	26.2%	3,707	48.9%	7,585	100%
教育学部	379	5.7%	862	13.0%	1,546	23.3%	3,845	58.0%	6,632	100%
社会学部	199	5.9%	549	16.3%	930	27.5%	1,699	50.3%	3,377	100%
社会福祉学部	358	6.0%	835	14.0%	1,646	27.6%	3,128	52.4%	5,967	100%



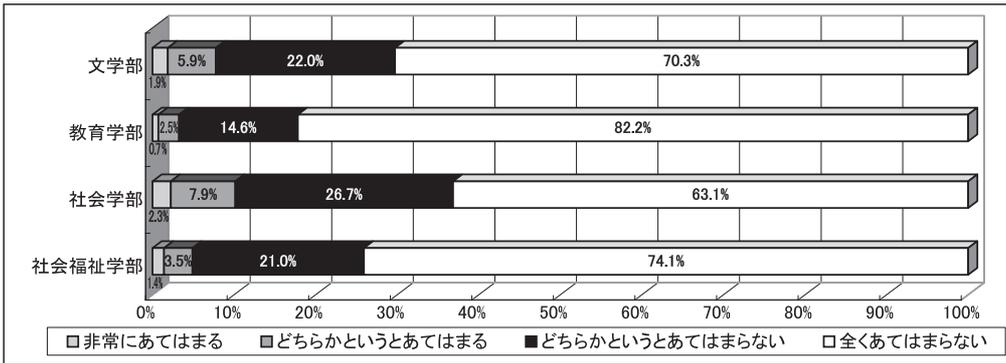
[2-4] 卒業後の進路、就職に役立つと思ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	851	11.2%	1,264	16.7%	1,849	24.4%	3,623	47.8%	7,587	100%
教育学部	1,891	28.4%	1,484	22.3%	774	11.6%	2,504	37.6%	6,653	100%
社会学部	381	11.3%	804	23.8%	830	24.5%	1,367	40.4%	3,382	100%
社会福祉学部	1,495	24.9%	1,798	30.0%	974	16.2%	1,727	28.8%	5,994	100%



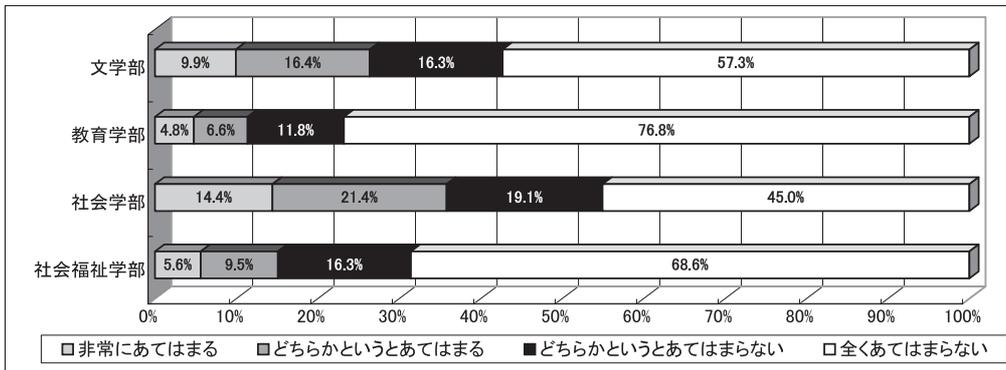
[2-5] 単位がとりやすい聞いたから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	143	1.9%	446	5.9%	1,666	22.0%	5,327	70.3%	7,582	100%
教育学部	48	0.7%	168	2.5%	965	14.6%	5,445	82.2%	6,626	100%
社会学部	76	2.3%	266	7.9%	900	26.7%	2,128	63.1%	3,370	100%
社会福祉学部	84	1.4%	208	3.5%	1,254	21.0%	4,418	74.1%	5,964	100%



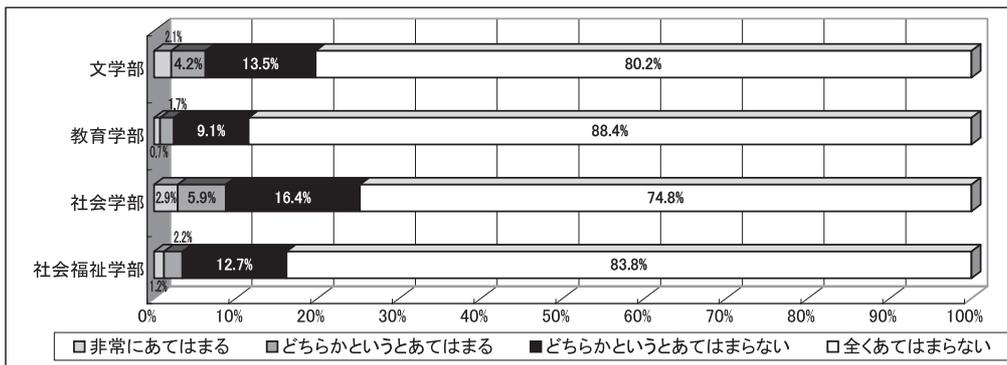
[2-6] 空き時間だったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	754	9.9%	1,247	16.4%	1,239	16.3%	4,350	57.3%	7,590	100%
教育学部	317	4.8%	437	6.6%	783	11.8%	5,089	76.8%	6,626	100%
社会学部	489	14.4%	725	21.4%	649	19.1%	1,527	45.0%	3,390	100%
社会福祉学部	337	5.6%	567	9.5%	978	16.3%	4,106	68.6%	5,988	100%



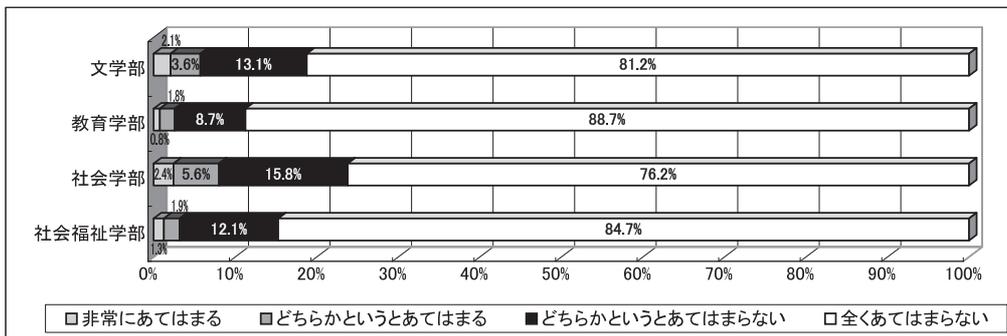
[2-7] アルバイトの時間を配慮したから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	160	2.1%	317	4.2%	1,021	13.5%	6,084	80.2%	7,582	100%
教育学部	49	0.7%	112	1.7%	606	9.1%	5,862	88.4%	6,629	100%
社会学部	98	2.9%	198	5.9%	554	16.4%	2,525	74.8%	3,375	100%
社会福祉学部	73	1.2%	134	2.2%	760	12.7%	4,998	83.8%	5,965	100%



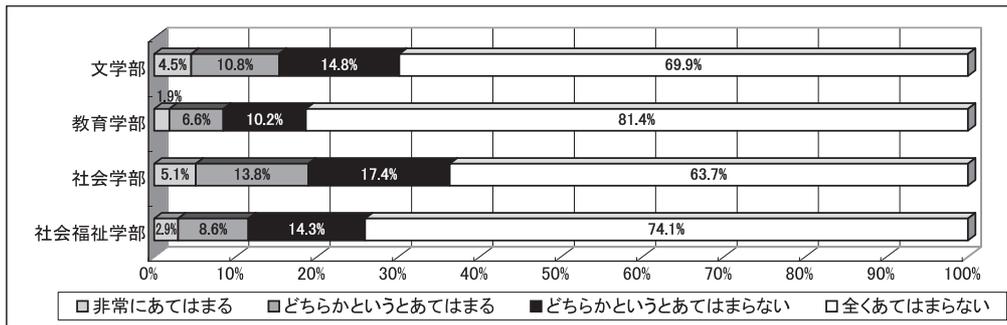
[2-8] 課外活動・サークルの時間を配慮したから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	158	2.1%	276	3.6%	989	13.1%	6,155	81.2%	7,578	100%
教育学部	51	0.8%	120	1.8%	575	8.7%	5,882	88.7%	6,628	100%
社会学部	82	2.4%	188	5.6%	532	15.8%	2,569	76.2%	3,371	100%
社会福祉学部	75	1.3%	115	1.9%	721	12.1%	5,050	84.7%	5,961	100%



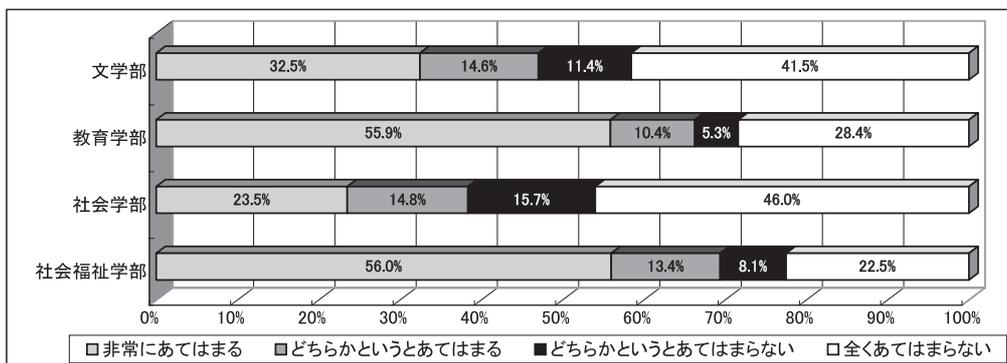
[2-9] 友達が履修するから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	345	4.5%	820	10.8%	1,119	14.8%	5,300	69.9%	7,584	100%
教育学部	124	1.9%	439	6.6%	673	10.2%	5,392	81.4%	6,628	100%
社会学部	173	5.1%	467	13.8%	587	17.4%	2,151	63.7%	3,378	100%
社会福祉学部	176	2.9%	516	8.6%	857	14.3%	4,427	74.1%	5,976	100%



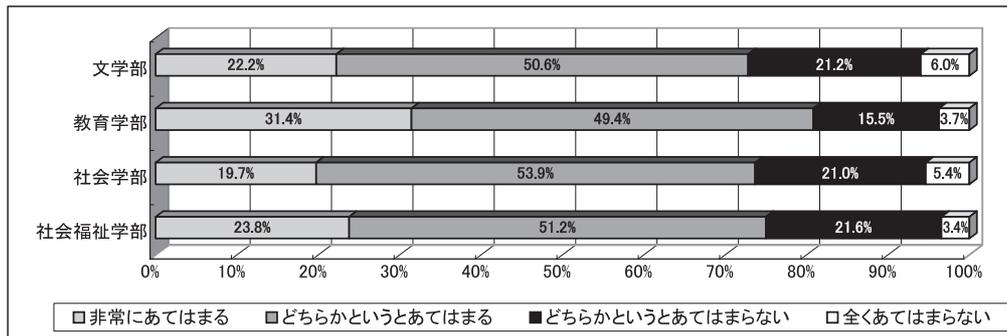
[2-10] 必須科目だから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	2,480	32.5%	1,114	14.6%	873	11.4%	3,175	41.5%	7,642	100%
教育学部	3,866	55.9%	717	10.4%	370	5.3%	1,963	28.4%	6,916	100%
社会学部	806	23.5%	509	14.8%	537	15.7%	1,576	46.0%	3,428	100%
社会福祉学部	3,468	56.0%	830	13.4%	503	8.1%	1,393	22.5%	6,194	100%



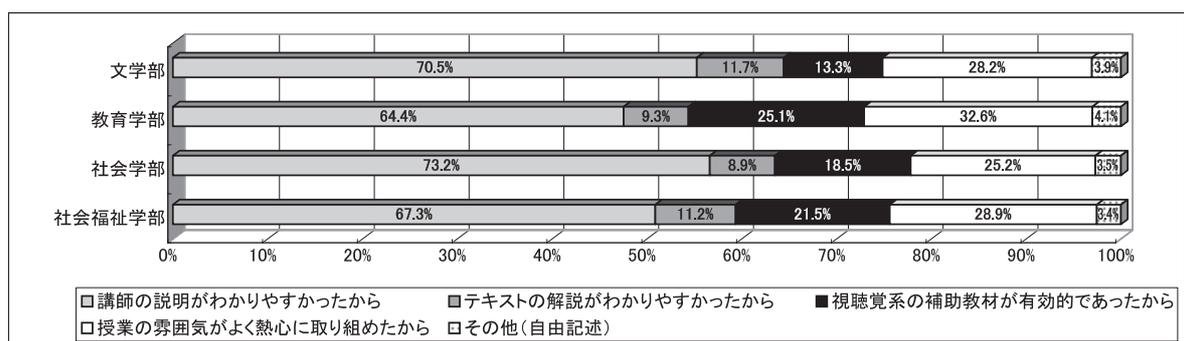
3. この授業の内容をよく理解できた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	1,731	22.2%	3,945	50.6%	1,654	21.2%	466	6.0%	7,796	100%
教育学部	2,254	31.4%	3,541	49.4%	1,109	15.5%	267	3.7%	7,171	100%
社会学部	689	19.7%	1,885	53.9%	733	21.0%	187	5.4%	3,494	100%
社会福祉学部	1,502	23.8%	3,234	51.2%	1,362	21.6%	217	3.4%	6,315	100%



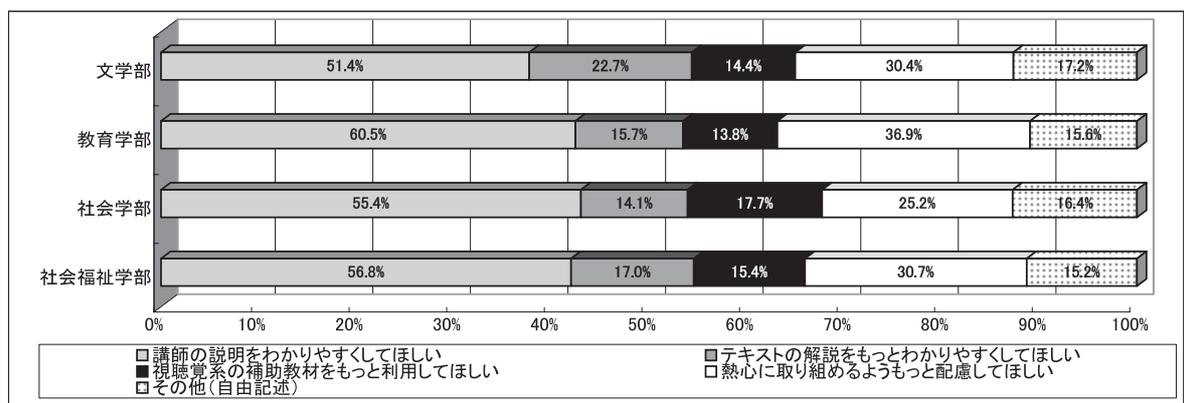
(3-1) 「非常にあてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	3-1-1		3-1-2		3-1-3		3-1-4		3-1-5		合計	
	講師の説明がわかりやすかったから		テキストの解説がわかりやすかったから		視聴覚系の補助教材が有効であったから		授業の雰囲気がよく熱心に取り組めたから		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
文学部	3,819	70.5%	634	11.7%	721	13.3%	1,525	28.2%	212	3.9%	5414(人数) 6911(回答)	127.7%
教育学部	3,549	64.4%	510	9.3%	1,383	25.1%	1,796	32.6%	225	4.1%	5513(人数) 7463(回答)	135.4%
社会学部	1,808	73.2%	219	8.9%	457	18.5%	622	25.2%	86	3.5%	2469(人数) 3192(回答)	129.3%
社会福祉学部	3,024	67.3%	503	11.2%	966	21.5%	1,298	28.9%	151	3.4%	4492(人数) 5942(回答)	132.3%



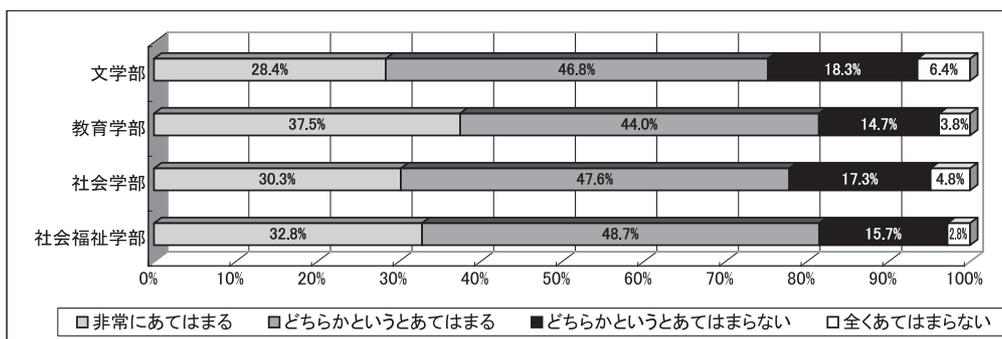
(3-2) 「どちらかといえばあてはまらない」・「全くあてはまらない」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	3-2-1		3-2-2		3-2-3		3-2-4		3-2-5		合計	
	講師の説明をわかりやすくしてほしい		テキストの解説をもっとわかりやすくしてほしい		視聴覚系の補助教材をもっと利用してほしい		熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
文学部	972	51.4%	429	22.7%	273	14.4%	576	30.4%	326	17.2%	1892(人数) 2576(回答)	136.2%
教育学部	764	60.5%	198	15.7%	174	13.8%	466	36.9%	197	15.6%	1263(人数) 1799(回答)	142.4%
社会学部	456	55.4%	116	14.1%	146	17.7%	207	25.2%	135	16.4%	823(人数) 1060(回答)	128.8%
社会福祉学部	819	56.8%	245	17.0%	222	15.4%	443	30.7%	220	15.2%	1443(人数) 1949(回答)	135.1%



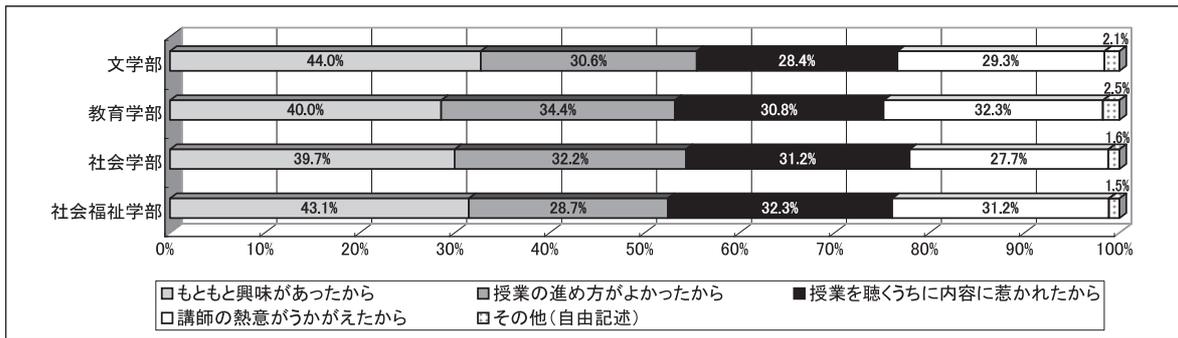
4. 授業内容に興味をもてた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	2,166	28.4%	3,573	46.8%	1,398	18.3%	491	6.4%	7,628	100%
教育学部	2,650	37.5%	3,107	44.0%	1,040	14.7%	268	3.8%	7,065	100%
社会学部	1,024	30.3%	1,611	47.6%	586	17.3%	164	4.8%	3,385	100%
社会福祉学部	2,036	32.8%	3,016	48.7%	974	15.7%	172	2.8%	6,198	100%



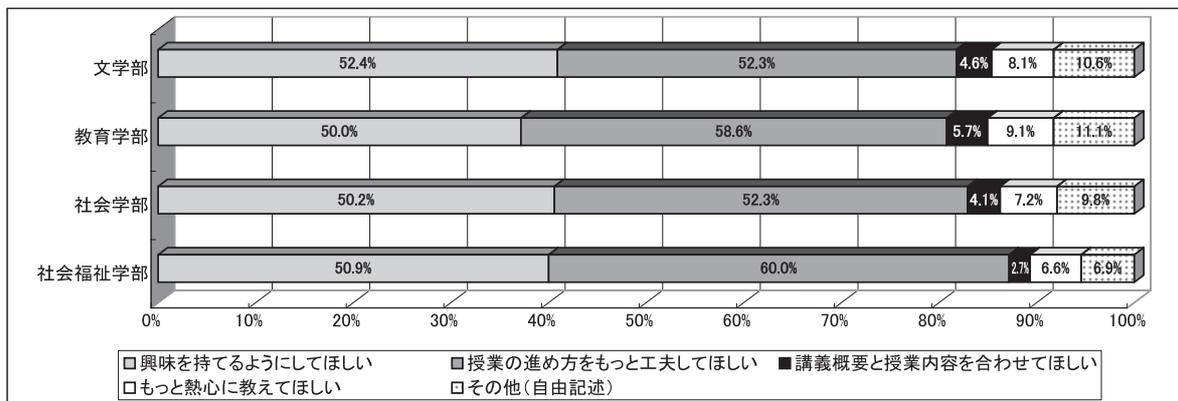
(4-1) 「非常にあてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	4-1-1		4-1-2		4-1-3		4-1-4		4-1-5		合計	
	もともと興味があったから		授業の進め方がよかったから		授業を聴くうちに内容に惹かれたから		講師の熱意がうかがえたから		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
文学部	2,431	44.0%	1,690	30.6%	1,569	28.4%	1,619	29.3%	118	2.1%	5531(人数) 7427(回答)	134.3%
教育学部	2,211	40.0%	1,904	34.4%	1,702	30.8%	1,787	32.3%	136	2.5%	5533(人数) 7740(回答)	139.9%
社会学部	1,009	39.7%	820	32.2%	793	31.2%	704	27.7%	40	1.6%	2543(人数) 3366(回答)	132.4%
社会福祉学部	2,087	43.1%	1,389	28.7%	1,567	32.3%	1,513	31.2%	74	1.5%	4847(人数) 6630(回答)	136.8%



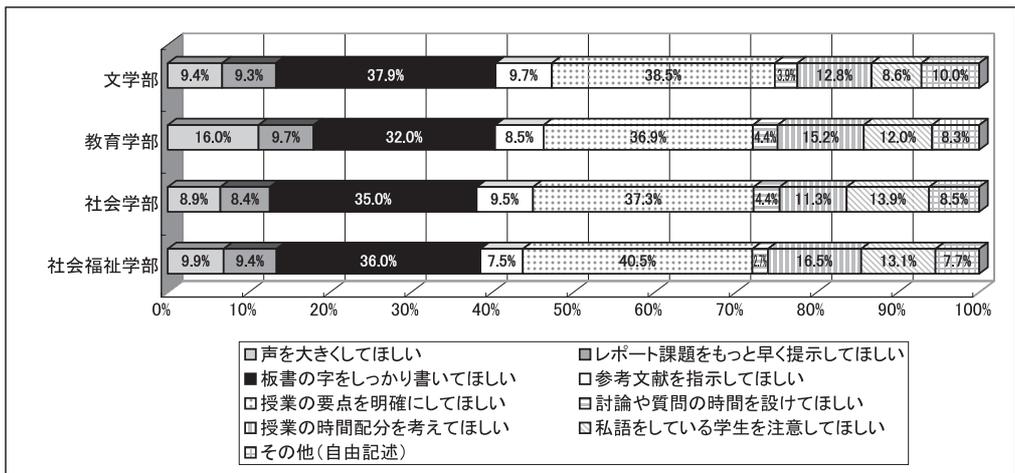
(4-2) 「どちらかといえばあてはまらない」・「全くあてはまらない」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	4-2-1		4-2-2		4-2-3		4-2-4		4-2-5		合計	
	興味を持てるようにしてほしい		授業の進め方をもっと工夫してほしい		講義概要と授業内容を合わせてほしい		もっと熱心に教えてほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
文学部	871	52.4%	870	52.3%	77	4.6%	135	8.1%	176	10.6%	1663(人数) 2129(回答)	128.0%
教育学部	584	50.0%	685	58.6%	66	5.7%	106	9.1%	130	11.1%	1168(人数) 1571(回答)	134.5%
社会学部	328	50.2%	342	52.3%	27	4.1%	47	7.2%	64	9.8%	654(人数) 808(回答)	123.5%
社会福祉学部	521	50.9%	614	60.0%	28	2.7%	68	6.6%	71	6.9%	1023(人数) 1302(回答)	127.3%



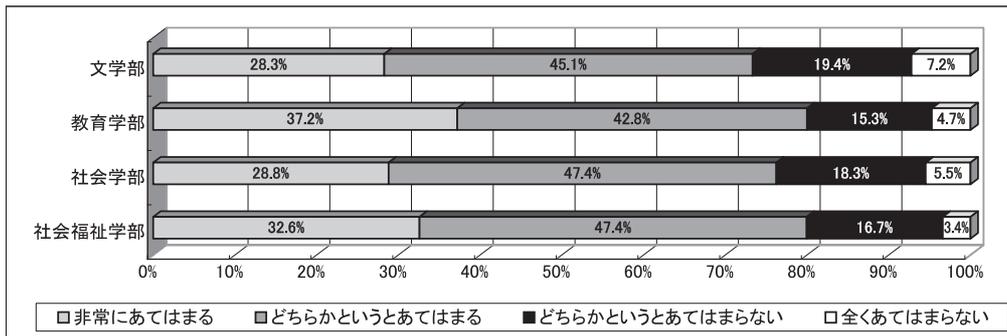
5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

	5-1		5-2		5-3		5-4		5-5	
	声を大きくしてほしい		レポート課題をもっと早く提示してほしい		板書の字をしっかりと書いてほしい		参考文献を指示してほしい		授業の要点を明確にしてほしい	
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数	
文学部	380	9.4%	375	9.3%	1,532	37.9%	393	9.7%	1,556	38.5%
教育学部	553	16.0%	335	9.7%	1,105	32.0%	295	8.5%	1,274	36.9%
社会学部	168	8.9%	158	8.4%	660	35.0%	180	9.5%	704	37.3%
社会福祉学部	327	9.9%	310	9.4%	1,193	36.0%	248	7.5%	1,343	40.5%
	5-6		5-7		5-8		5-9		合計	
	討論や質問の時間を設けてほしい		授業の時間配分を考えてほしい		私語をしている学生を注意してほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数			
文学部	157	3.9%	518	12.8%	348	8.6%	403	10.0%	4043(人数) 5662(回答)	140.0%
教育学部	151	4.4%	524	15.2%	416	12.0%	287	8.3%	3457(人数) 4940(回答)	142.9%
社会学部	83	4.4%	214	11.3%	263	13.9%	160	8.5%	1887(人数) 2590(回答)	137.3%
社会福祉学部	91	2.7%	546	16.5%	435	13.1%	256	7.7%	3313(人数) 4749(回答)	143.3%



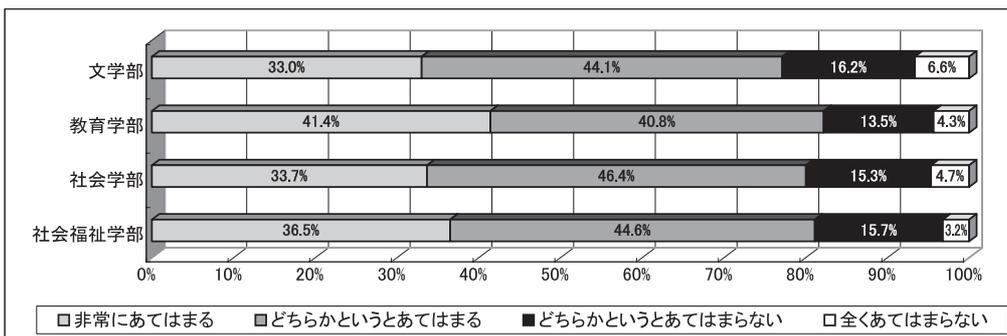
6. この授業を履修したことによって興味が増した

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	2,086	28.3%	3,325	45.1%	1,433	19.4%	533	7.2%	7,377	100%
教育学部	2,535	37.2%	2,916	42.8%	1,041	15.3%	322	4.7%	6,814	100%
社会学部	940	28.8%	1,548	47.4%	596	18.3%	179	5.5%	3,263	100%
社会福祉学部	1,971	32.6%	2,866	47.4%	1,008	16.7%	205	3.4%	6,050	100%



7. この授業を履修して満足している

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
文学部	2,352	33.0%	3,144	44.1%	1,157	16.2%	473	6.6%	7,126	100%
教育学部	2,745	41.4%	2,702	40.8%	892	13.5%	288	4.3%	6,627	100%
社会学部	1,053	33.7%	1,450	46.4%	479	15.3%	146	4.7%	3,128	100%
社会福祉学部	2,123	36.5%	2,595	44.6%	911	15.7%	187	3.2%	5,816	100%



科目別集計

科目種別は以下の3分割で分類している。

共通科目：外国語科目を除いた共通科目(3回生以上)および全学共通科目(1・2回生)

外国語科目：共通科目および全学共通科目の外国語科目

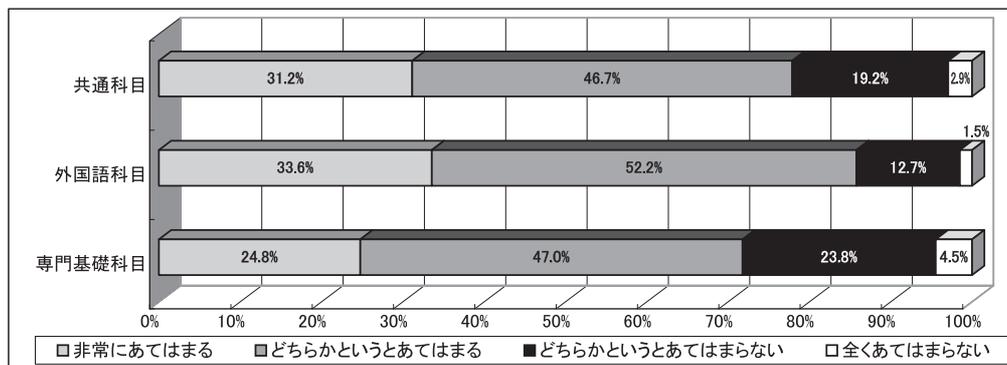
専門基礎科目：専門基礎科目(1・2回生)

※各学部の専門基礎科目は学部集計で行なっている。

1. 受講態度

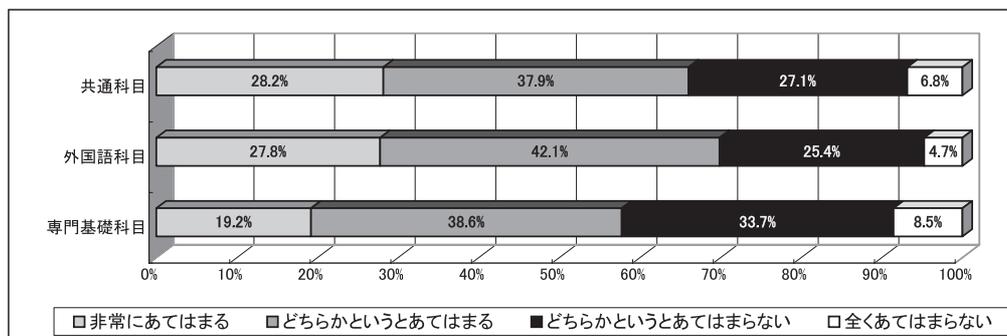
[1-1] 熱心に教員の話聞いた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	1,403	31.2%	2,105	46.7%	864	19.2%	132	2.9%	4,504	100%
外国語科目	1,747	33.6%	2,718	52.2%	662	12.7%	78	1.5%	5,205	100%
専門基礎科目	937	24.8%	1,778	47.0%	899	23.8%	169	4.5%	3,783	100%



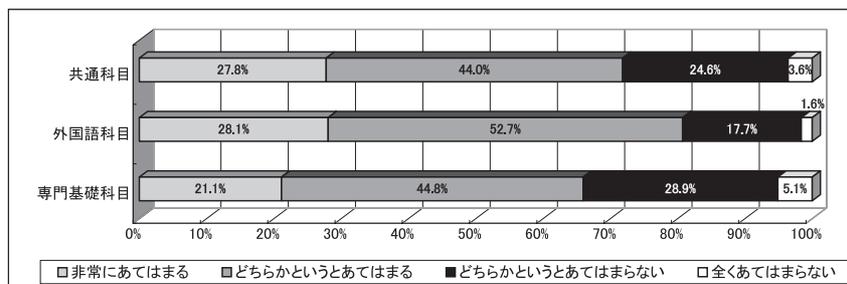
[1-2] ぼんやりしたり、居眠りしたりしなかった

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	1,264	28.2%	1,699	37.9%	1,218	27.1%	307	6.8%	4,488	100%
外国語科目	1,442	27.8%	2,187	42.1%	1,319	25.4%	246	4.7%	5,194	100%
専門基礎科目	725	19.2%	1,457	38.6%	1,274	33.7%	323	8.5%	3,779	100%



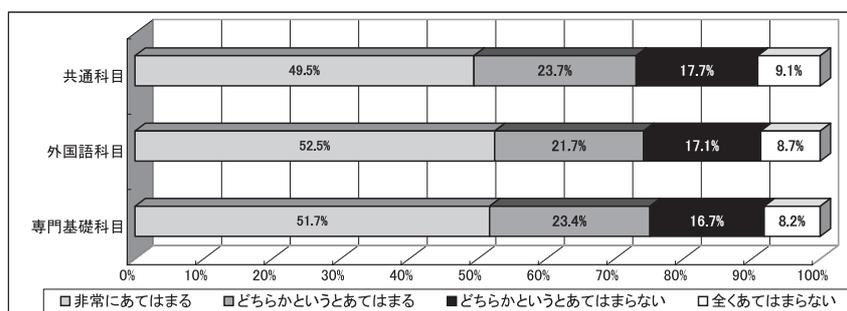
[1-3] 授業に集中していた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	1,246	27.8%	1,976	44.0%	1,103	24.6%	161	3.6%	4,486	100%
外国語科目	1,455	28.1%	2,729	52.7%	915	17.7%	84	1.6%	5,183	100%
専門基礎科目	798	21.1%	1,693	44.8%	1,093	28.9%	193	5.1%	3,777	100%



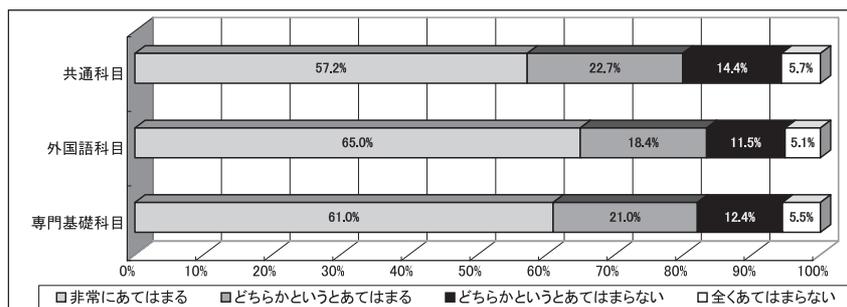
[1-4] 欠席をしなかった

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	2,219	49.5%	1,062	23.7%	796	17.7%	409	9.1%	4,486	100%
外国語科目	2,726	52.5%	1,128	21.7%	888	17.1%	451	8.7%	5,193	100%
専門基礎科目	1,955	51.7%	884	23.4%	630	16.7%	309	8.2%	3,778	100%



[1-5] 遅刻や途中退出をしなかった

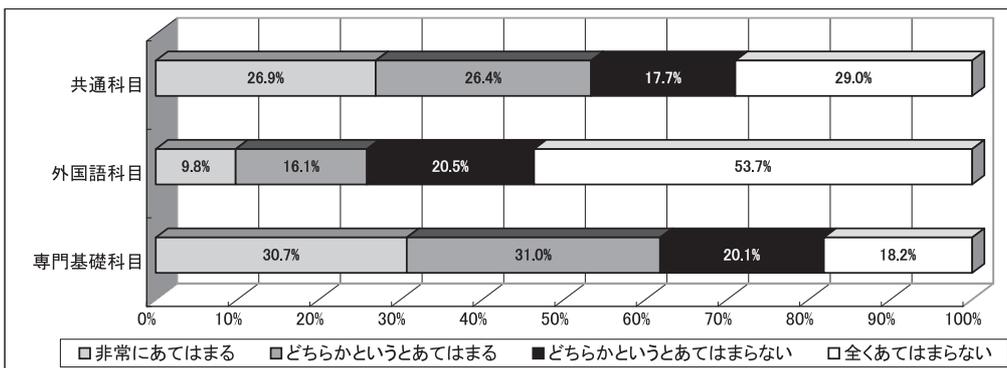
	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	2,567	57.2%	1,017	22.7%	646	14.4%	255	5.7%	4,485	100%
外国語科目	3,372	65.0%	957	18.4%	595	11.5%	267	5.1%	5,191	100%
専門基礎科目	2,305	61.0%	795	21.0%	469	12.4%	209	5.5%	3,778	100%



2. 履修理由

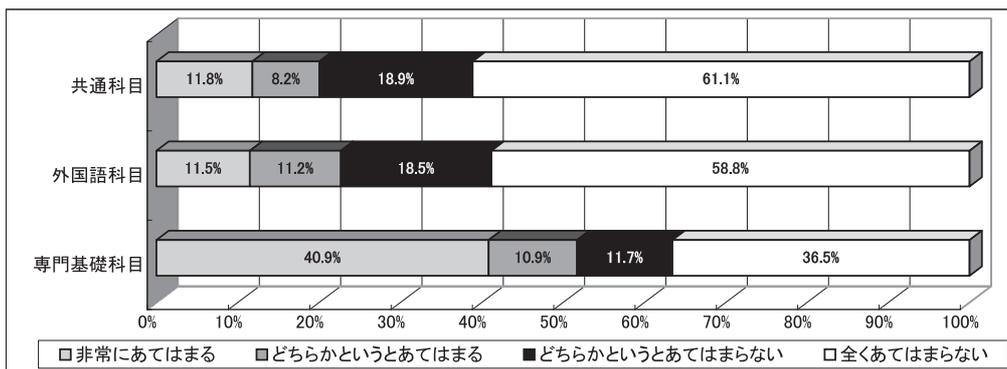
[2-1] 講義概要を読んで興味を持ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	1,166	26.9%	1,142	26.4%	764	17.7%	1,256	29.0%	4,328	100%
外国語科目	469	9.8%	771	16.1%	981	20.5%	2,572	53.7%	4,793	100%
専門基礎科目	1,139	30.7%	1,150	31.0%	743	20.1%	673	18.2%	3,705	100%



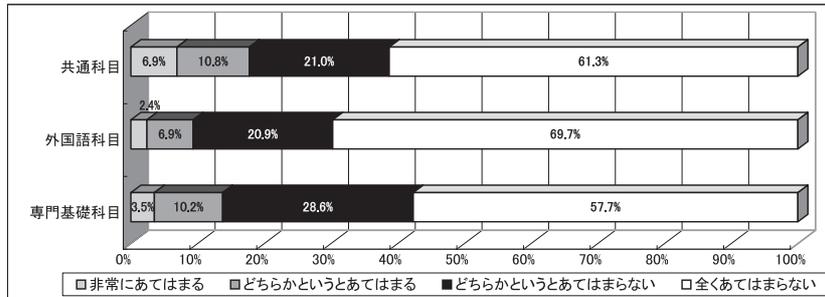
[2-2] 教免・諸資格取得に必要なだから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	507	11.8%	353	8.2%	810	18.9%	2,624	61.1%	4,294	100%
外国語科目	548	11.5%	534	11.2%	883	18.5%	2,804	58.8%	4,769	100%
専門基礎科目	1,504	40.9%	400	10.9%	432	11.7%	1,345	36.5%	3,681	100%



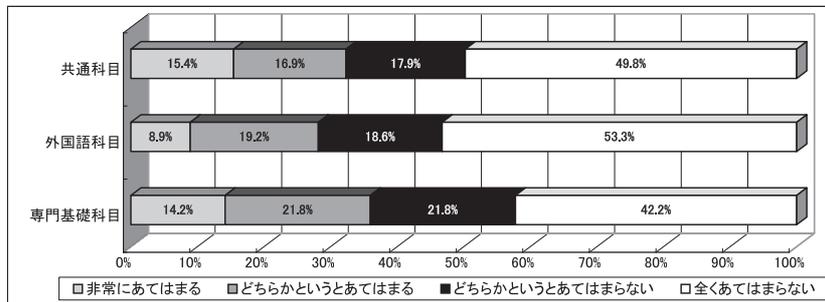
[2-3] 卒論作成のために有意義だと思ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	296	6.9%	464	10.8%	898	21.0%	2,622	61.3%	4,280	100%
外国語科目	115	2.4%	329	6.9%	997	20.9%	3,320	69.7%	4,761	100%
専門基礎科目	128	3.5%	370	10.2%	1,035	28.6%	2,088	57.7%	3,621	100%



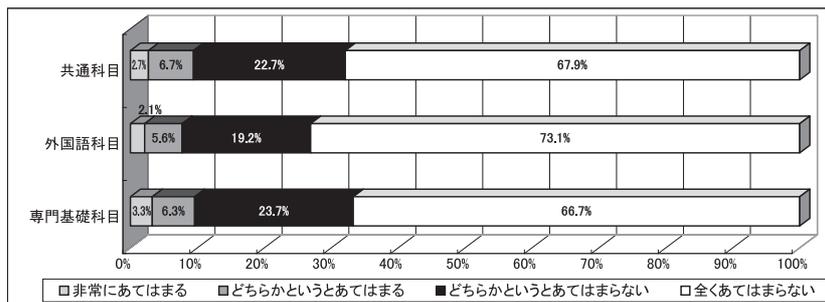
[2-4] 卒業後の進路、就職に役立つと思ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	661	15.4%	723	16.9%	768	17.9%	2,133	49.8%	4,285	100%
外国語科目	425	8.9%	916	19.2%	886	18.6%	2,537	53.3%	4,764	100%
専門基礎科目	514	14.2%	792	21.8%	792	21.8%	1,534	42.2%	3,632	100%



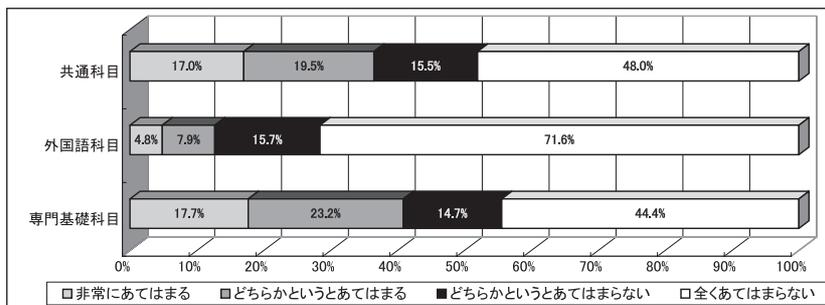
[2-5] 単位がとりやすい聞いたから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	115	2.7%	287	6.7%	970	22.7%	2,902	67.9%	4,274	100%
外国語科目	101	2.1%	266	5.6%	914	19.2%	3,479	73.1%	4,760	100%
専門基礎科目	118	3.3%	229	6.3%	858	23.7%	2,414	66.7%	3,619	100%



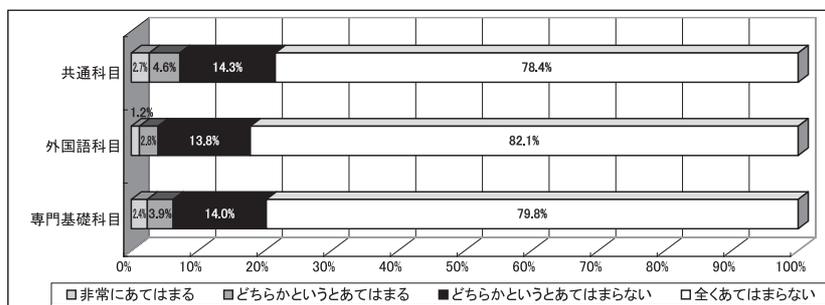
[2-6] 空き時間だったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	732	17.0%	838	19.5%	667	15.5%	2,067	48.0%	4,304	100%
外国語科目	230	4.8%	374	7.9%	749	15.7%	3,411	71.6%	4,764	100%
専門基礎科目	645	17.7%	845	23.2%	845	14.7%	1,620	44.4%	3,647	100%



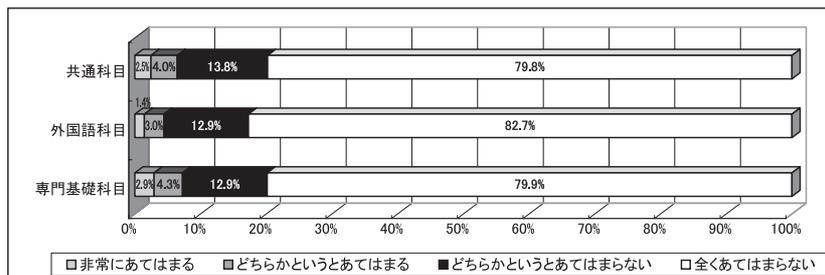
[2-7] アルバイトの時間を配慮したから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	116	2.7%	195	4.6%	612	14.3%	3,351	78.4%	4,274	100%
外国語科目	58	1.2%	133	2.8%	659	13.8%	3,910	82.1%	4,760	100%
専門基礎科目	87	2.4%	140	3.9%	506	14.0%	2,888	79.8%	3,621	100%



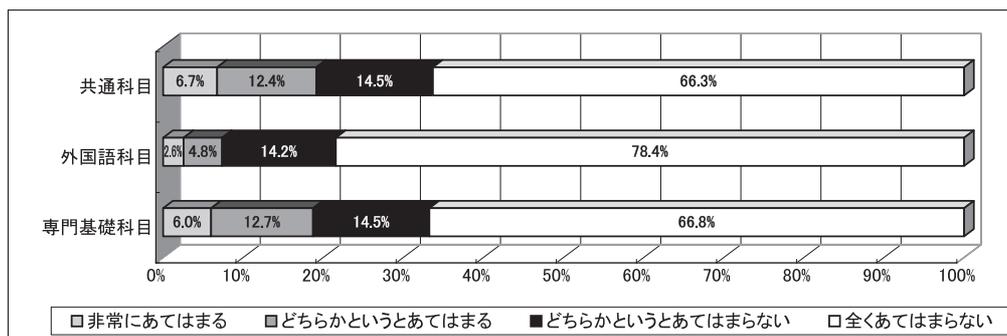
[2-8] 課外活動・サークルの時間を配慮したから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	105	2.5%	170	4.0%	588	13.8%	3,410	79.8%	4,273	100%
外国語科目	69	1.4%	141	3.0%	613	12.9%	3,938	82.7%	4,761	100%
専門基礎科目	106	2.9%	156	4.3%	467	12.9%	2,890	79.9%	3,619	100%



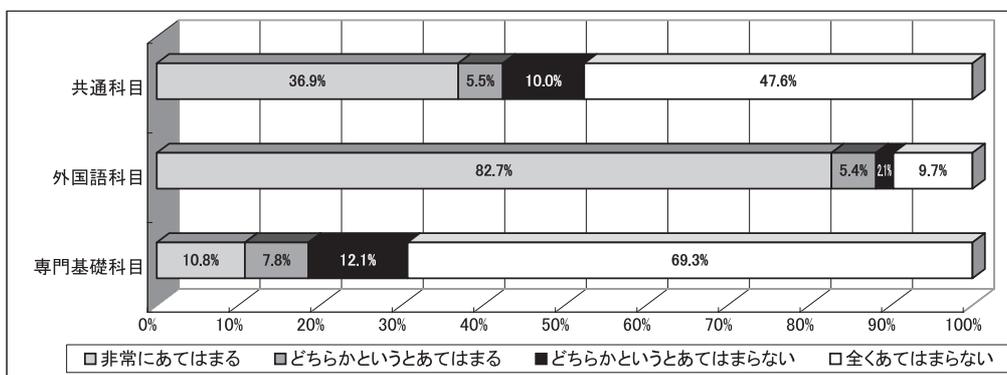
[2-9] 友達が履修するから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	289	6.7%	530	12.4%	623	14.5%	2,840	66.3%	4,282	100%
外国語科目	122	2.6%	228	4.8%	676	14.2%	3,732	78.4%	4,758	100%
専門基礎科目	218	6.0%	462	12.7%	528	14.5%	2,426	66.8%	3,634	100%



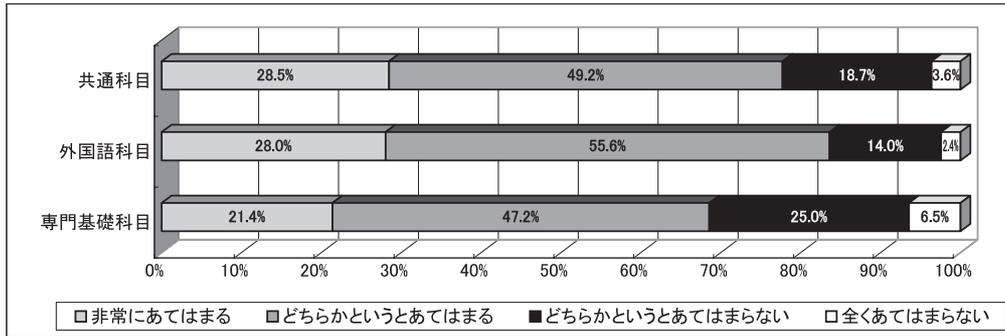
[2-10] 必須科目だから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	1,626	36.9%	241	5.5%	439	10.0%	2,095	47.6%	4,401	100%
外国語科目	4,254	82.7%	280	5.4%	110	2.1%	499	9.7%	5,143	100%
専門基礎科目	392	10.8%	283	7.8%	441	12.1%	2,515	69.3%	3,631	100%



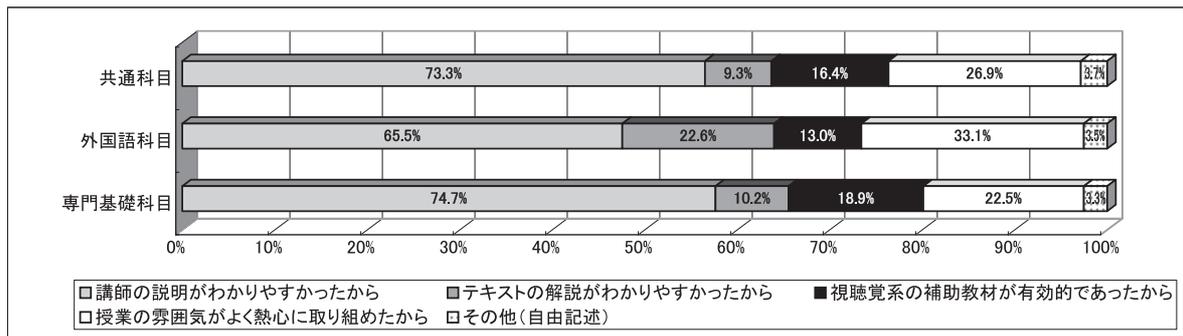
3. この授業の内容をよく理解できた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	1,268	28.5%	2,194	49.2%	831	18.7%	162	3.6%	4,455	100%
外国語科目	1,448	28.0%	2,871	55.6%	721	14.0%	126	2.4%	5,166	100%
専門基礎科目	803	21.4%	1,772	47.2%	939	25.0%	243	6.5%	3,757	100%



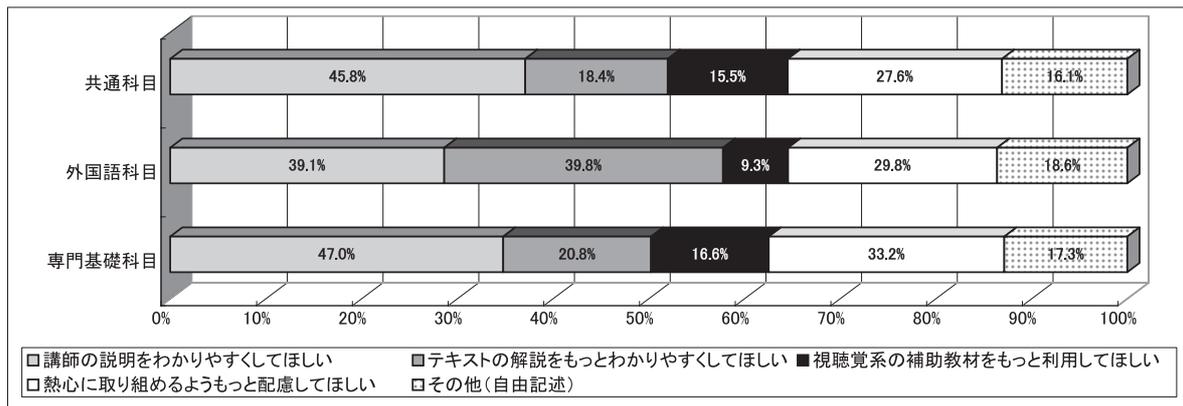
(3-1) 「非常にあてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	3-1-1		3-1-2		3-1-3		3-1-4		3-1-5		合計	
	講師の説明がわかりやすかったから		テキストの解説がわかりやすかったから		視聴覚系の補助教材が有効的であったから		授業の雰囲気がよく熱心に取り組めたから		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
共通科目	2,431	73.3%	309	9.3%	545	16.4%	894	26.9%	123	3.7%	3318(人数) 4302(回答)	129.7%
外国語科目	2,703	65.5%	932	22.6%	536	13.0%	1,366	33.1%	144	3.5%	4128(人数) 5681(回答)	137.6%
専門基礎科目	1,847	74.7%	253	10.2%	467	18.9%	556	22.5%	81	3.3%	2473(人数) 3204(回答)	129.6%



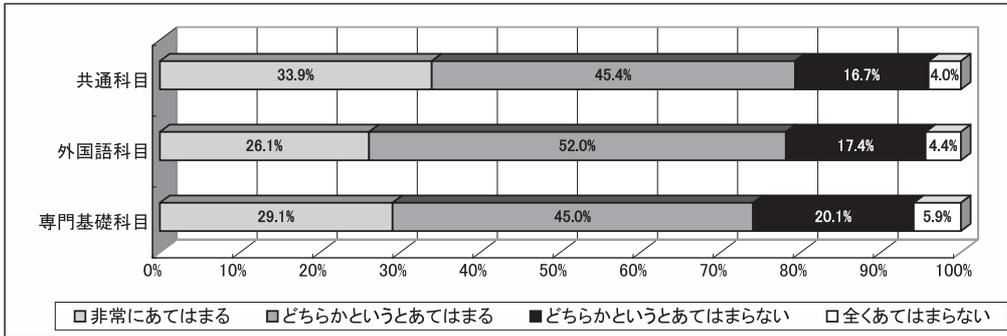
(3-2) 「どちらかといえばあてはまらない」・「全くあてはまらない」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	3-2-1		3-2-2		3-2-3		3-2-4		3-2-5		合計	
	講師の説明をわかりやすくしてほしい		テキストの解説をもっとわかりやすくしてほしい		視聴覚系の補助教材をもっと利用してほしい		熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
共通科目	411	45.8%	165	18.4%	139	15.5%	248	27.6%	145	16.1%	898(人数) 1108(回答)	123.4%
外国語科目	299	39.1%	304	39.8%	71	9.3%	228	29.8%	142	18.6%	764(人数) 1044(回答)	136.6%
専門基礎科目	509	47.0%	226	20.8%	180	16.6%	360	33.2%	188	17.3%	1084(人数) 1463(回答)	135.0%



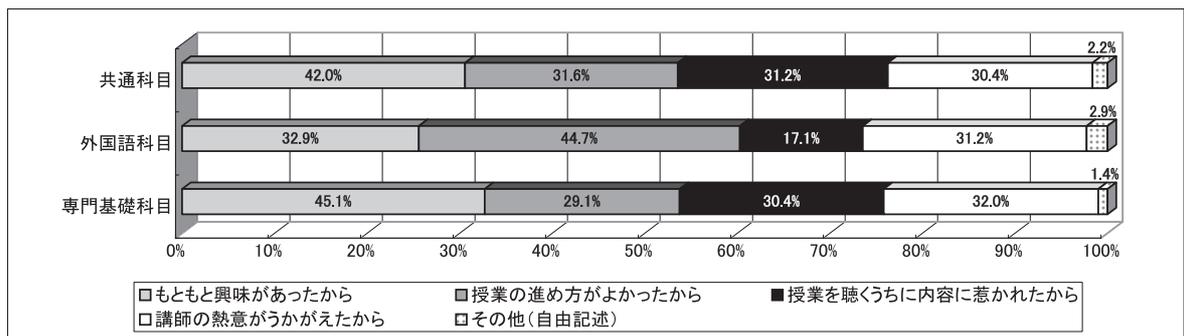
4. 授業内容に興味もてた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	1,473	33.9%	1,969	45.4%	724	16.7%	175	4.0%	4,341	100%
外国語科目	1,310	26.1%	2,609	52.0%	875	17.4%	221	4.4%	5,015	100%
専門基礎科目	1,056	29.1%	1,636	45.0%	729	20.1%	214	5.9%	3,635	100%



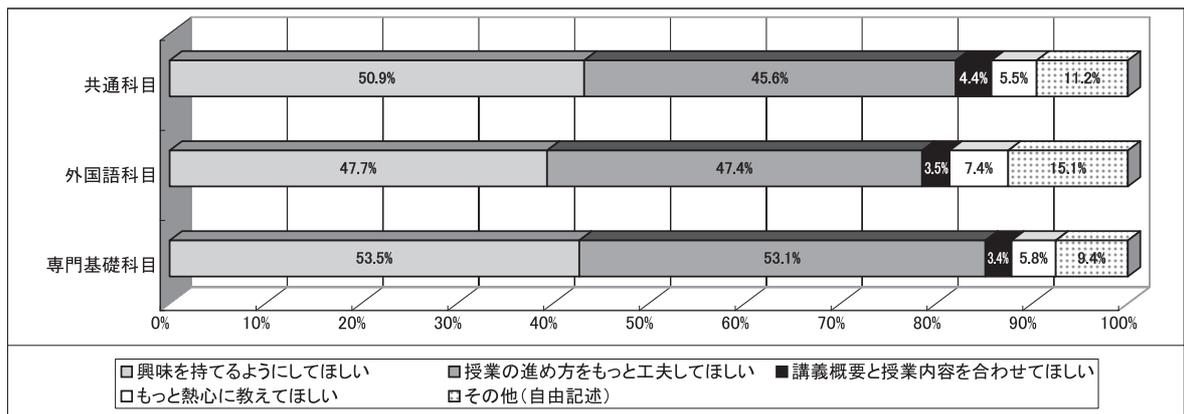
(4-1) 「非常にあてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	4-1-1		4-1-2		4-1-3		4-1-4		4-1-5		合計	
	もともと興味があったから		授業の進め方がよかったから		授業を聴くうちに内容に惹かれたから		講師の熱意がうかがえたから		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
共通科目	1,400	42.0%	1,053	31.6%	1,039	31.2%	1,013	30.4%	74	2.2%	3333(人数)	137.4%
											4579(回答)	
外国語科目	1,237	32.9%	1,678	44.7%	642	17.1%	1,170	31.2%	109	2.9%	3755(人数)	128.8%
											4836(回答)	
専門基礎科目	1,183	45.1%	762	29.1%	798	30.4%	839	32.0%	36	1.4%	2623(人数)	137.9%
											3618(回答)	



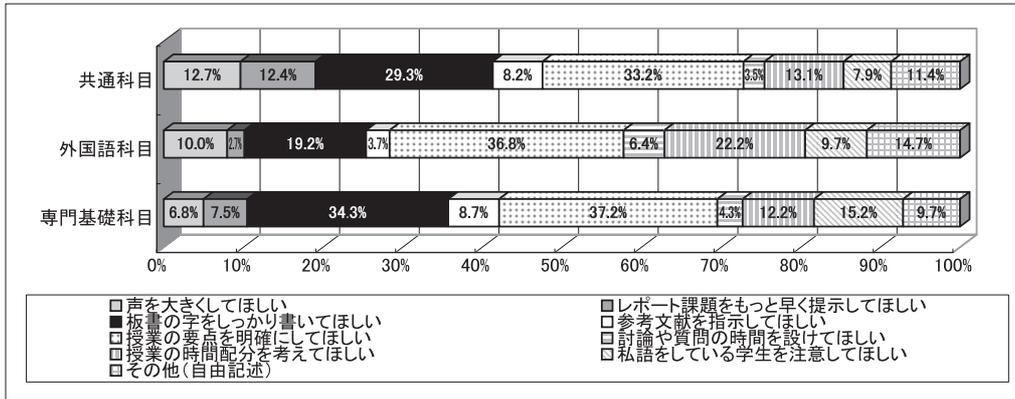
(4-2) 「どちらかといえばあてはまらない」・「全くあてはまらない」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	4-2-1		4-2-2		4-2-3		4-2-4		4-2-5		合計	
	興味を持てるようにしてほしい		授業の進め方をもっと工夫してほしい		講義概要と授業内容を合わせてほしい		もっと熱心に教えてほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
共通科目	395	50.9%	354	45.6%	34	4.4%	43	5.5%	87	11.2%	776(人数)	117.7%
											913(回答)	
外国語科目	451	47.7%	448	47.4%	33	3.5%	70	7.4%	143	15.1%	945(人数)	121.2%
											1145(回答)	
専門基礎科目	454	53.5%	450	53.1%	29	3.4%	49	5.8%	80	9.4%	848(人数)	125.2%
											1062(回答)	



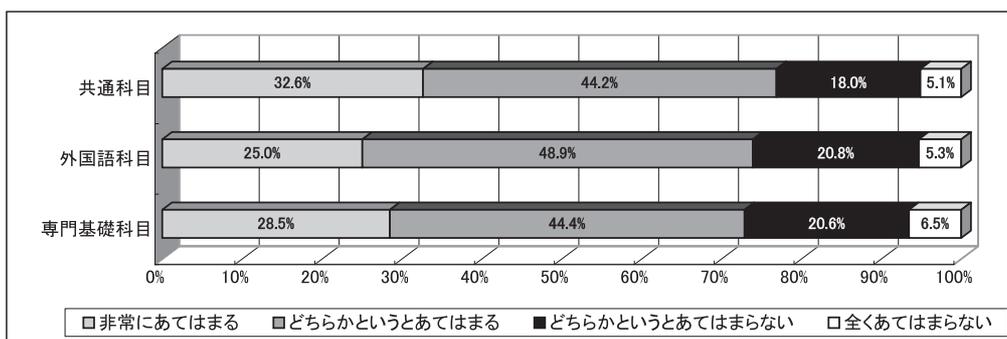
5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

	5-1		5-2		5-3		5-4		5-5	
	声を大きくしてほしい		レポート課題をもっと早く提示してほしい		板書の字をしっかりと書いてほしい		参考文献を指示してほしい		授業の要点を明確にしてほしい	
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数	
共通科目	255	12.7%	249	12.4%	590	29.3%	165	8.2%	668	33.2%
外国語科目	202	10.0%	55	2.7%	388	19.2%	75	3.7%	746	36.8%
専門基礎科目	138	6.8%	152	7.5%	699	34.3%	177	8.7%	759	37.2%
	5-6		5-7		5-8		5-9		合計	
	討論や質問の時間を設けてほしい		授業の時間配分を考えてほしい		私語をしている学生を注意してほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数			
共通科目	70	3.5%	263	13.1%	158	7.9%	229	11.4%	2011(人数) 2647(回答)	131.6%
外国語科目	130	6.4%	449	22.2%	197	9.7%	297	14.7%	2026(人数) 2539(回答)	125.3%
専門基礎科目	88	4.3%	248	12.2%	310	15.2%	198	9.7%	2038(人数) 2769(回答)	135.9%



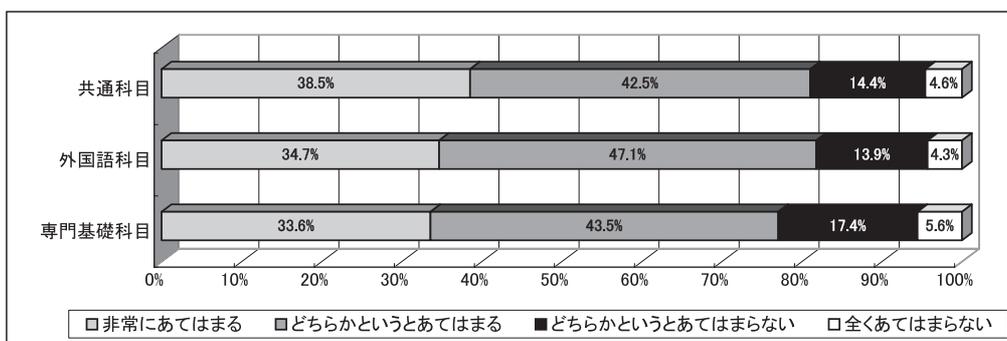
6. この授業を履修したことによって興味が増した

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	1,373	32.6%	1,862	44.2%	758	18.0%	215	5.1%	4,208	100%
外国語科目	1,231	25.0%	2,402	48.9%	1,021	20.8%	261	5.3%	4,915	100%
専門基礎科目	1,015	28.5%	1,582	44.4%	733	20.6%	233	6.5%	3,563	100%



7. この授業を履修して満足している

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
共通科目	1,547	38.5%	1,706	42.5%	577	14.4%	184	4.6%	4,014	100%
外国語科目	1,630	34.7%	2,216	47.1%	654	13.9%	202	4.3%	4,702	100%
専門基礎科目	1,143	33.6%	1,479	43.5%	592	17.4%	189	5.6%	3,403	100%

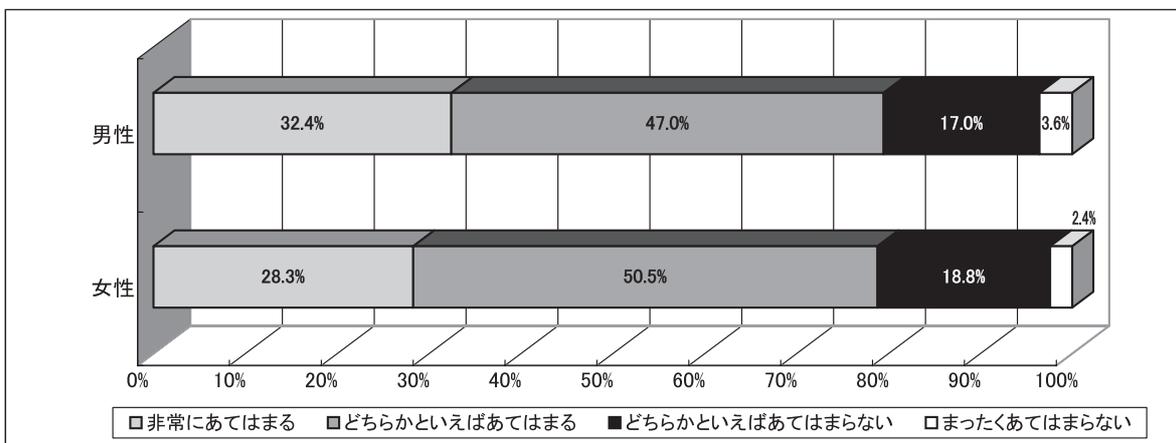


男女別集計

1. 受講態度

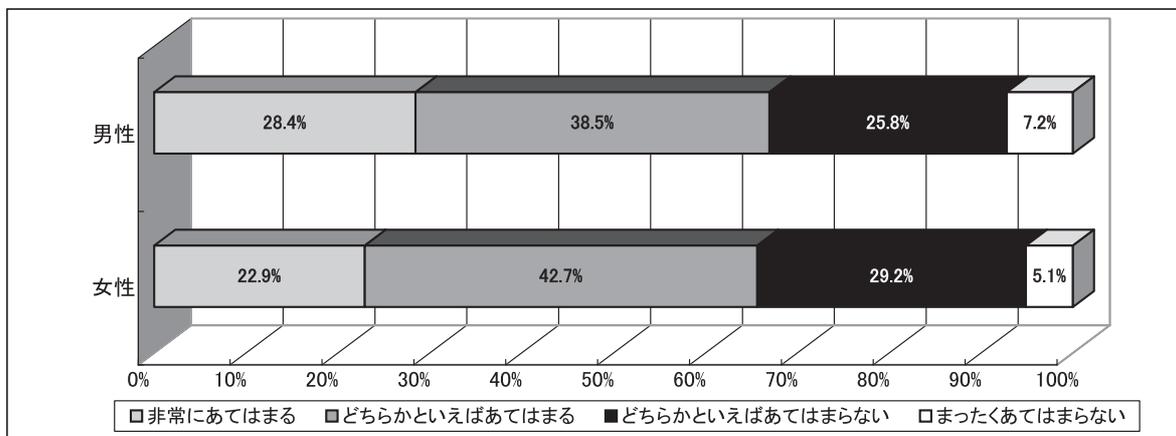
[1-1]熱心に教員の話聞いた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	4574	32.4%	6634	47.0%	2393	17.0%	503	3.6%	14104	100%
女性	5465	28.3%	9765	50.5%	3630	18.8%	466	2.4%	19326	100%



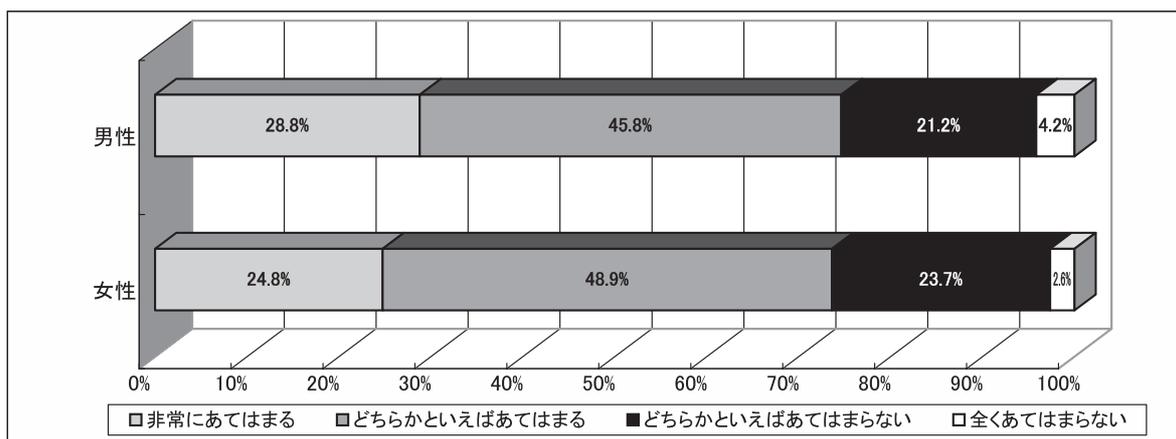
[1-2]ぼんやりしたり居眠りしたりしなかった

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	4000	28.4%	5417	38.5%	3635	25.8%	1011	7.2%	14063	100%
女性	4427	22.9%	8249	42.7%	5647	29.2%	989	5.1%	19312	100%



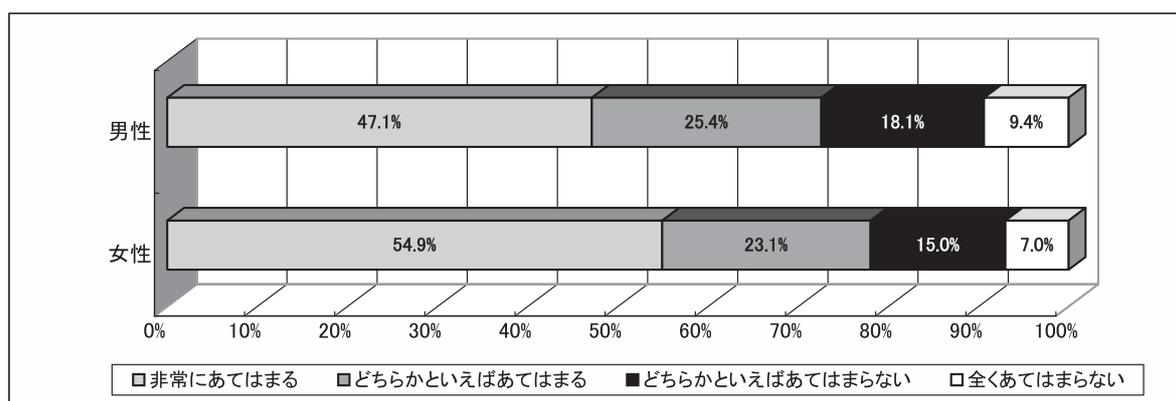
[1-3]授業に集中していた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	4044	28.8%	6441	45.8%	2981	21.2%	584	4.2%	14050	100%
女性	4775	24.8%	9423	48.9%	4578	23.7%	509	2.6%	19285	100%



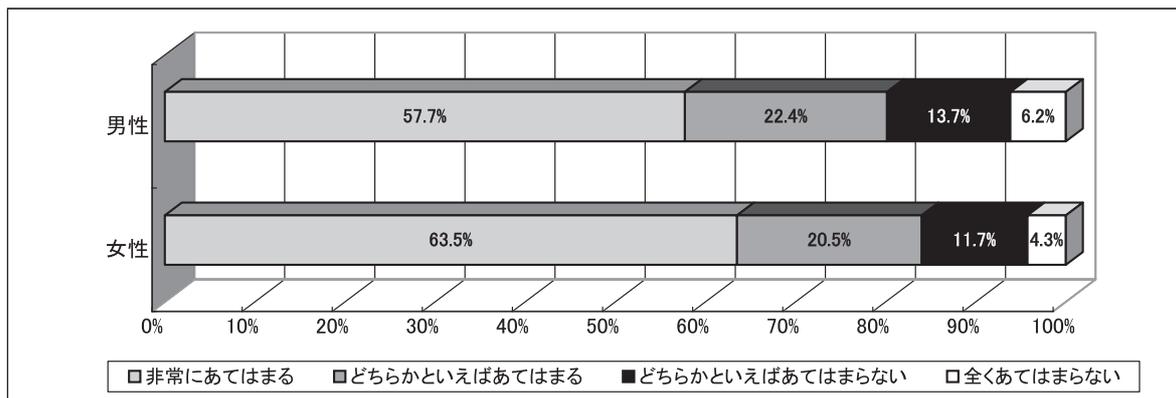
[1-4]欠席しなかった

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	6618	47.1%	3575	25.4%	2537	18.1%	1319	9.4%	14049	100%
女性	10600	54.9%	4459	23.1%	2888	15.0%	1354	7.0%	19301	100%



[1-5]遅刻・途中退出しなかった

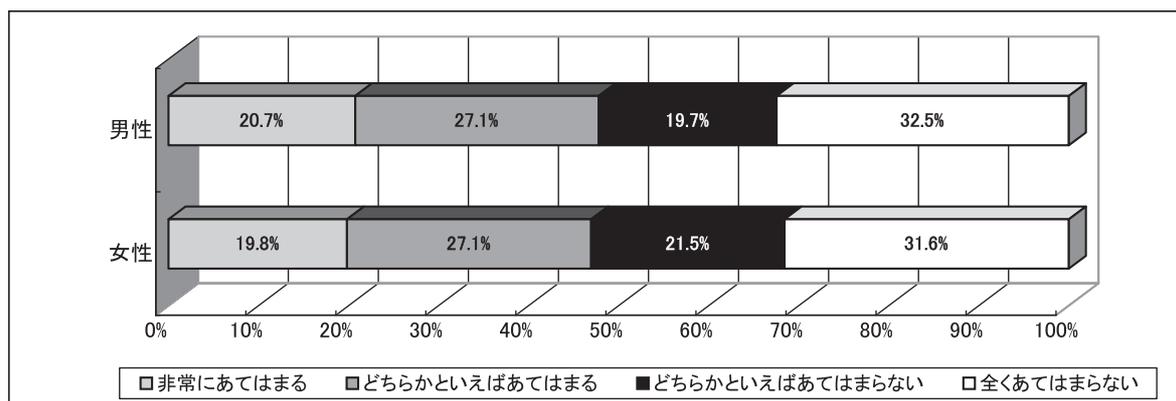
	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	8112	57.7%	3152	22.4%	1924	13.7%	866	6.2%	14054	100%
女性	12254	63.5%	3956	20.5%	2266	11.7%	822	4.3%	19298	100%



2. 履修理由

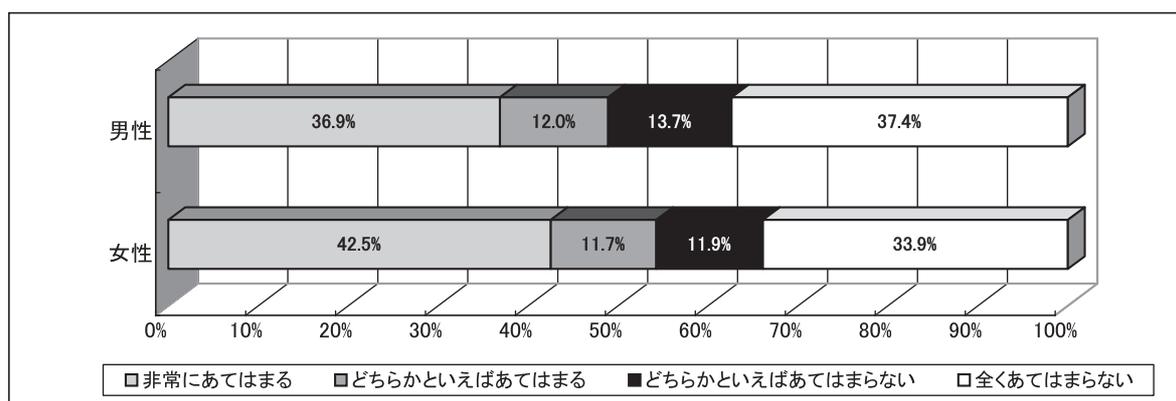
[2-1]講義概要を読んで興味を持ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	2804	20.7%	3658	27.1%	2670	19.7%	4389	32.5%	13521	100%
女性	3629	19.8%	4963	27.1%	3932	21.5%	5781	31.6%	18305	100%



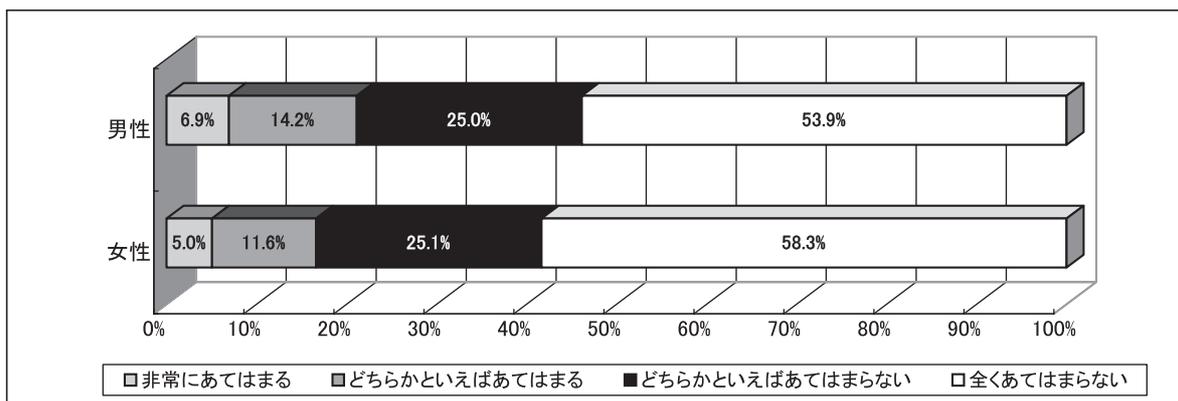
[2-2]教免・資格取得に必要なだから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	4986	36.9%	1628	12.0%	1855	13.7%	5055	37.4%	13524	100%
女性	7845	42.5%	2164	11.7%	2190	11.9%	6254	33.9%	18453	100%



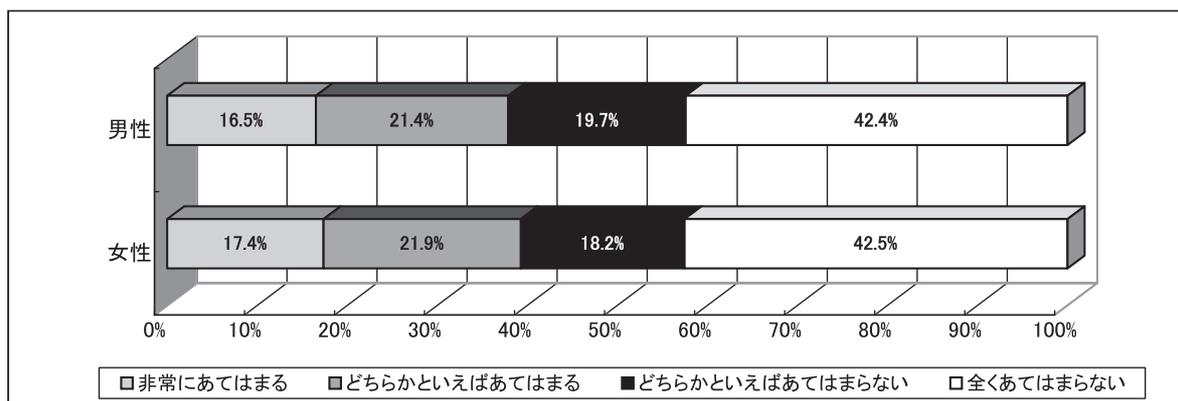
[2-3]卒論作成のために有意義だと思ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	928	6.9%	1900	14.2%	3350	25.0%	7211	53.9%	13389	100%
女性	914	5.0%	2094	11.6%	4538	25.1%	10564	58.3%	18110	100%



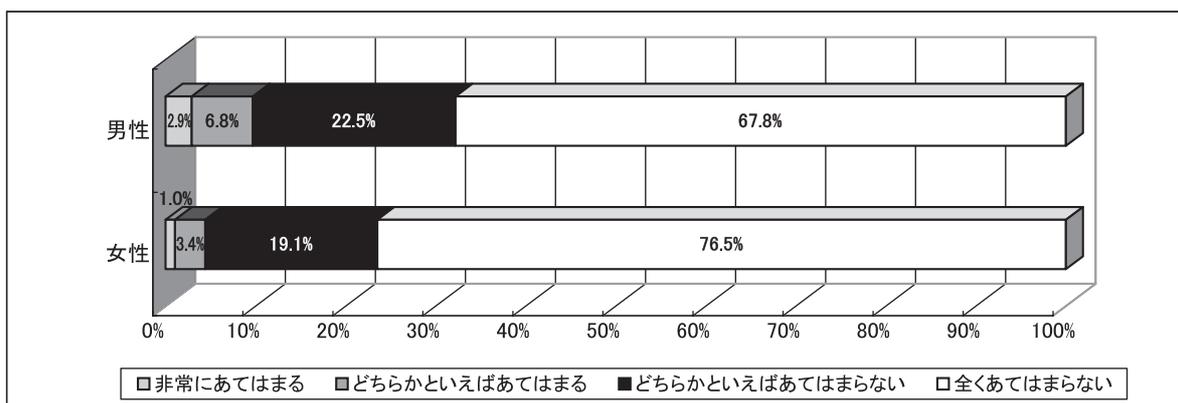
[2-4]卒業後の進路、就職に役立つと思ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	2216	16.5%	2864	21.4%	2645	19.7%	5687	42.4%	13412	100%
女性	3152	17.4%	3976	21.9%	3300	18.2%	7721	42.5%	18149	100%



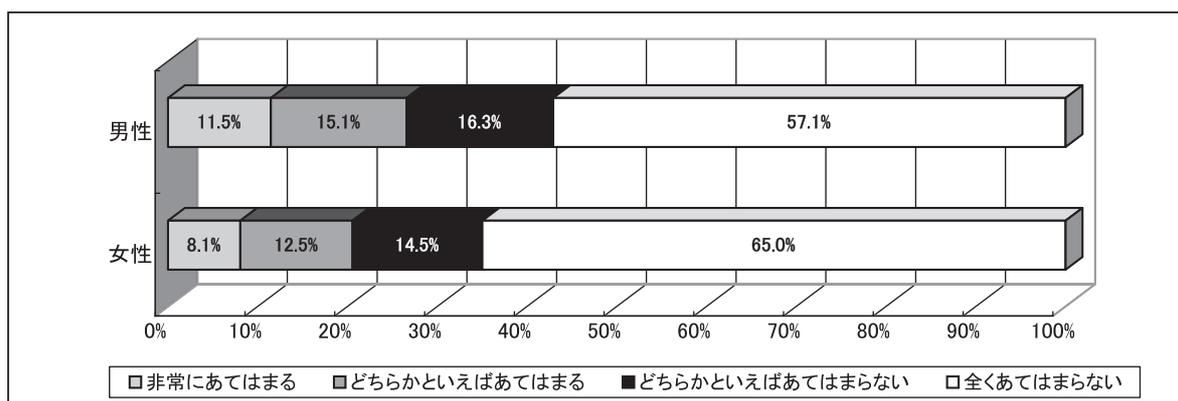
[2-5]単位が取りやすいと聞いたから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	387	2.9%	910	6.8%	3012	22.5%	9073	67.8%	13382	100%
女性	189	1.0%	608	3.4%	3459	19.1%	13844	76.5%	18100	100%



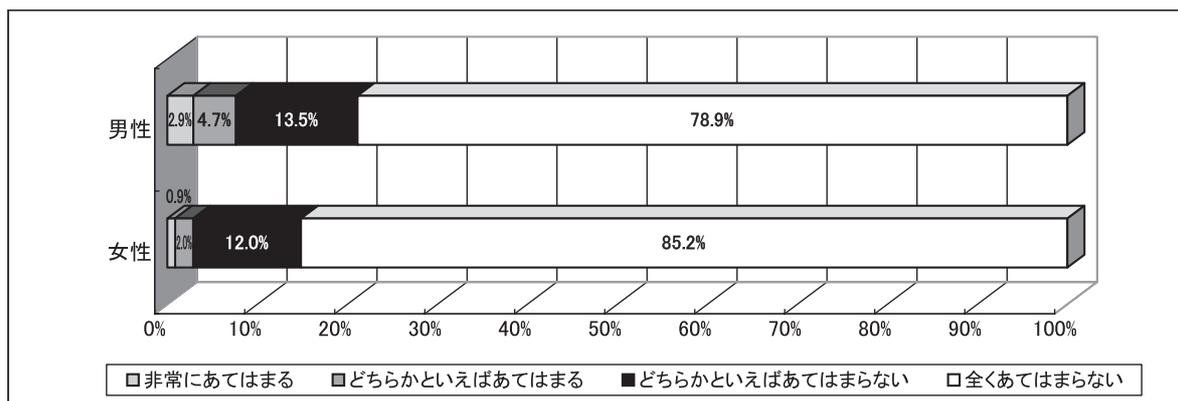
[2-6]空き時間だったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	1538	11.5%	2029	15.1%	2191	16.3%	7656	57.1%	13414	100%
女性	1464	8.1%	2269	12.5%	2630	14.5%	11801	65.0%	18164	100%



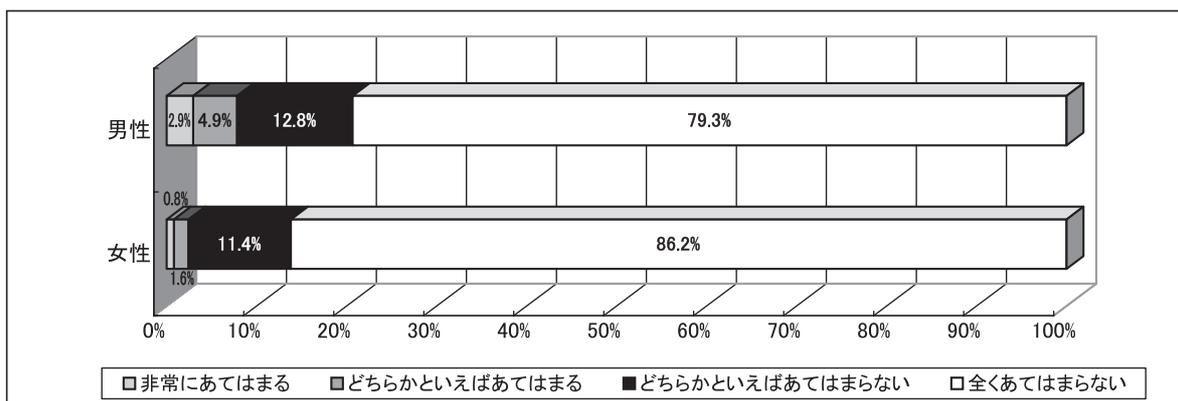
[2-7] アルバイトの時間を配慮したから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	386	2.9%	633	4.7%	1808	13.5%	10556	78.9%	13383	100%
女性	154	0.9%	363	2.0%	2170	12.0%	15413	85.2%	18100	100%



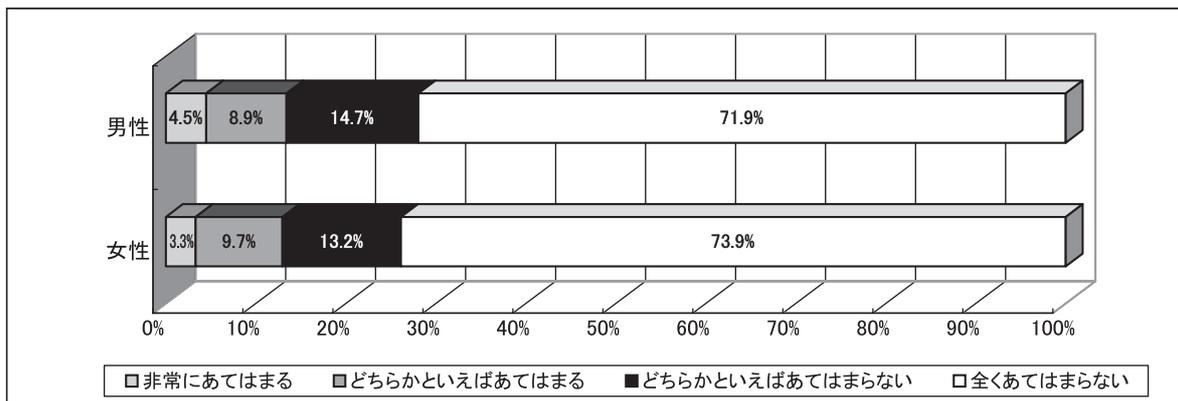
[2-8] 課外活動・サークルの時間を配慮したから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	394	2.9%	654	4.9%	1717	12.8%	10607	79.3%	13372	100%
女性	147	0.8%	294	1.6%	2059	11.4%	15596	86.2%	18096	100%



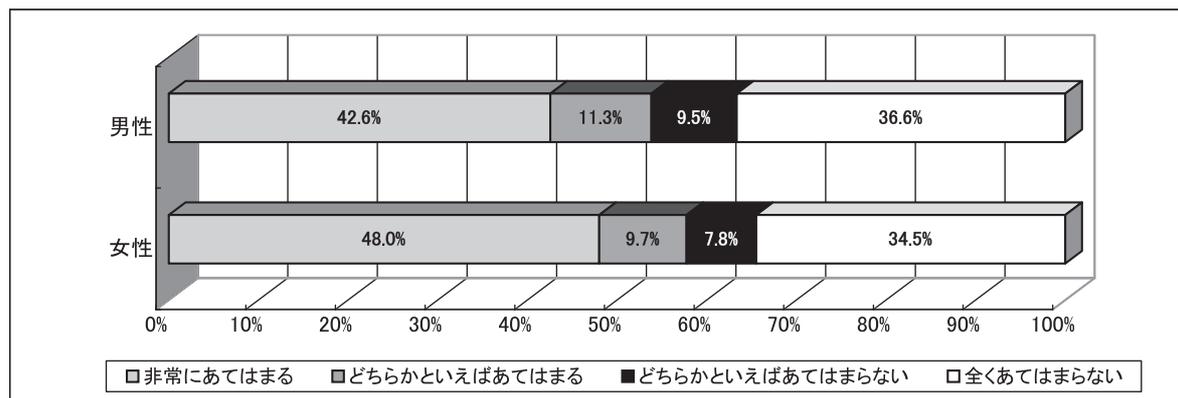
[2-9]友達が履修するから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	601	4.5%	1194	8.9%	1961	14.7%	9625	71.9%	13381	100%
女性	600	3.3%	1750	9.7%	2386	13.2%	13391	73.9%	18127	100%



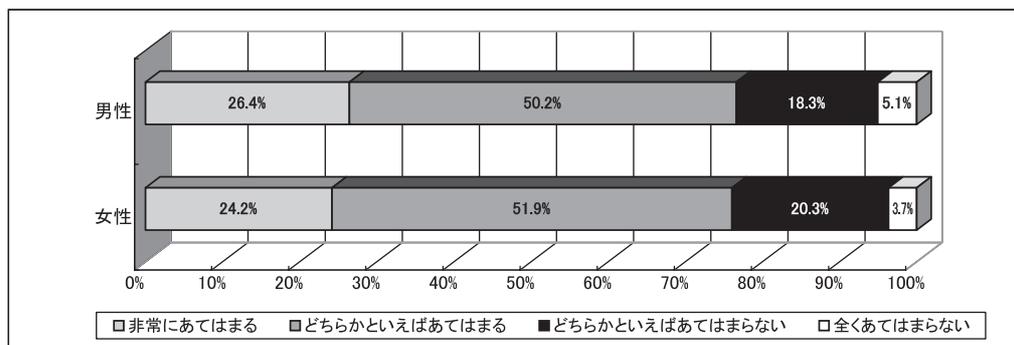
[2-10]必須科目だから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	5841	42.6%	1547	11.3%	1306	9.5%	5028	36.6%	13722	100%
女性	9023	48.0%	1831	9.7%	1461	7.8%	6477	34.5%	18792	100%



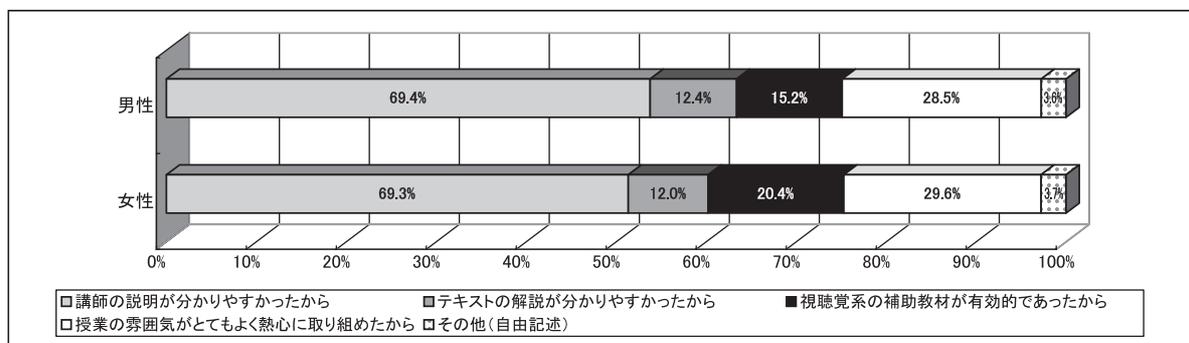
3. この授業の内容をよく理解できた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	3696	26.4%	7010	50.2%	2564	18.3%	706	5.1%	13976	100%
女性	4657	24.2%	9986	51.9%	3906	20.3%	703	3.7%	19252	100%



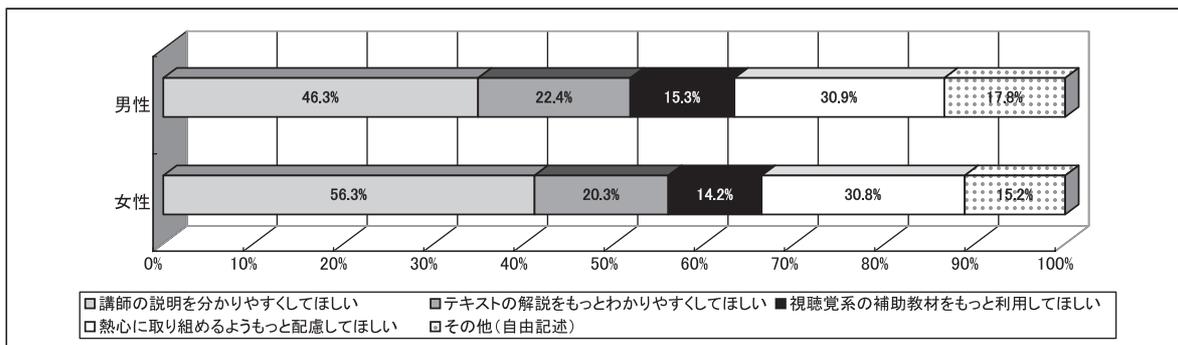
[3-1] 「非常にあてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	3-1-1		3-1-2		3-1-3		3-1-4		3-1-5		合計	
	講師の説明が分かりやすかったから		テキストの解説が分かりやすかったから		視聴覚系の補助教材が有効的であったから		授業の雰囲気がとてもよく熱心に取り組めたから		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
男性	7116	69.4%	1271	12.4%	1555	15.2%	2927	28.5%	365	3.6%	10255(人数)	129.0%
											13234(回答)	
女性	9715	69.3%	1679	12.0%	2855	20.4%	4149	29.6%	525	3.7%	14020(人数)	135.0%
											18923(回答)	



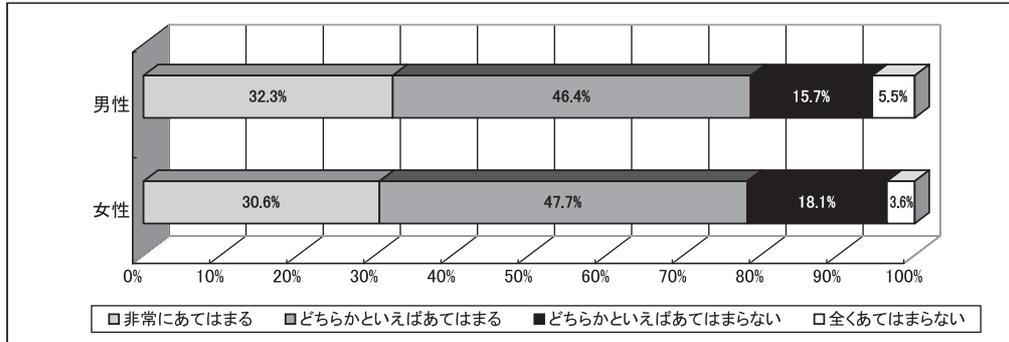
[3-2] 「どちらかといえばあてはまらない」・「全くあてはまらない」と答えた理由として今後改善を希望するもの全てにマークしてください

	3-2-1		3-2-2		3-2-3		3-2-4		3-2-5		合計	
	講師の説明を分かりやすくしてほしい		テキストの解説をもっとわかりやすくしてほしい		視聴覚系の補助教材をもっと利用してほしい		熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
男性	1367	46.3%	661	22.4%	452	15.3%	911	30.9%	525	17.8%	2951(人数)	132.7%
											3916(回答)	
女性	2371	56.3%	855	20.3%	596	14.2%	1297	30.8%	642	15.2%	4211(人数)	136.8%
											5761(回答)	



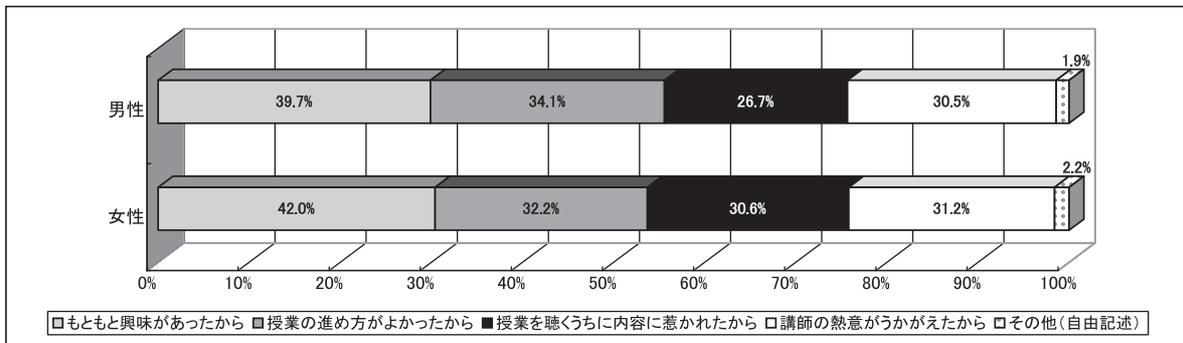
4. 授業内容に興味もてた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	4408	32.3%	6329	46.4%	2147	15.7%	750	5.5%	13634	100%
女性	5778	30.6%	9001	47.7%	3422	18.1%	680	3.6%	18881	100%



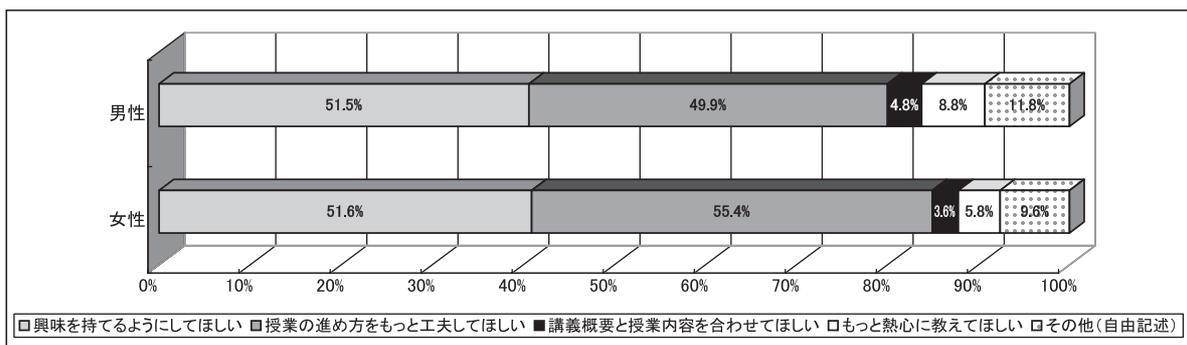
[4-1] 「非常にあてはまる」・「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	4-1-1		4-1-2		4-1-3		4-1-4		4-1-5		合計	
	もともと興味があったから		授業の進め方がよかったから		授業を聴くうちに内容に惹かれたから		講師の熱意がうかがえたから		その他(自由記述)		人数	割合
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合		
男性	4121	39.7%	3539	34.1%	2768	26.7%	3159	30.5%	195	1.9%	10368(人数)	132.9%
女性	6006	42.0%	4604	32.2%	4367	30.6%	4463	31.2%	317	2.2%	14288(人数)	
											19757(回答)	138.3%



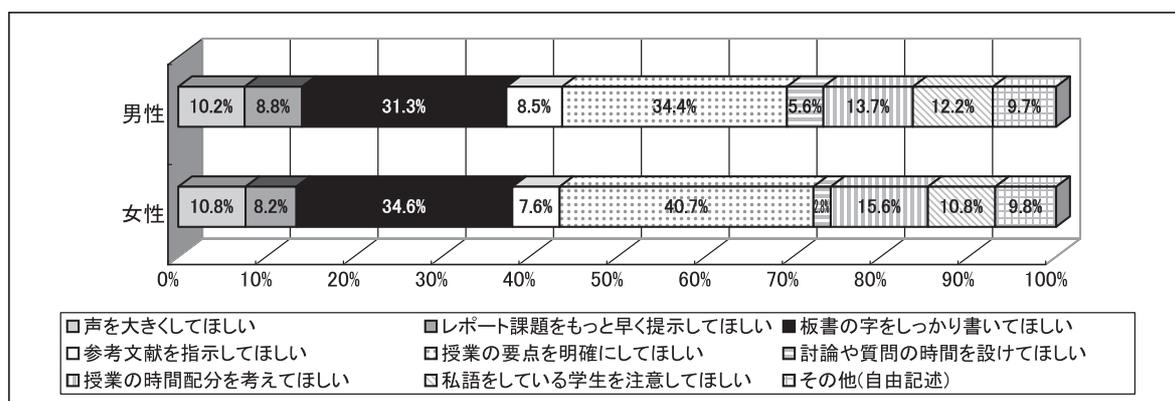
[4-2]「どちらかといえばあてはまらない」・「全くあてはまらない」と答えた理由として今後改善を希望するもの全てにマークしてください

	4-2-1		4-2-2		4-2-3		4-2-4		4-2-5		合計	
	興味を持てるようにしてほしい		授業の進め方をもっと工夫してほしい		講義概要と授業内容を合わせてほしい		もっと熱心に教えてほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
男性	1321	51.5%	1280	49.9%	122	4.8%	226	8.8%	302	11.8%	2567(人数)	126.6%
											3251(回答)	
女性	1864	51.6%	2003	55.4%	131	3.6%	209	5.8%	347	9.6%	3614(人数)	126.0%
											4554(回答)	



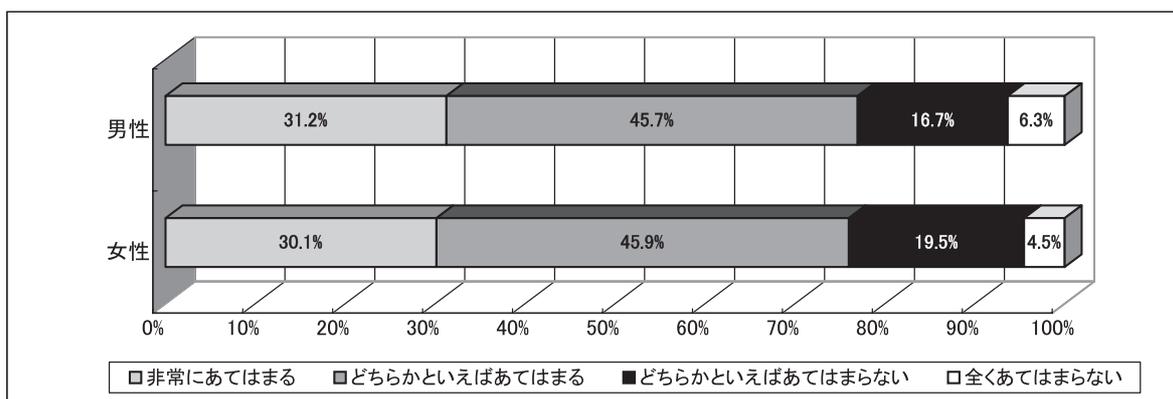
5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

	5-1		5-2		5-3		5-4		5-5	
	声を大きくしてほしい		レポート課題をもっと早く提示してほしい		板書の字をしっかりと書いてほしい		参考文献を指示してほしい		授業の要点を明確にしてほしい	
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数	
男性	727	10.2%	630	8.8%	2239	31.3%	611	8.5%	2464	34.4%
女性	1000	10.8%	757	8.2%	3212	34.6%	703	7.6%	3775	40.7%
	5-6		5-7		5-8		5-9		合計	
	討論や質問の時間を設けてほしい		授業の時間配分を考えてほしい		私語をしている学生を注意してほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数			
男性	399	5.6%	981	13.7%	875	12.2%	694	9.7%	7160(人数)	134.4%
									9620(回答)	
女性	258	2.8%	1445	15.6%	1002	10.8%	905	9.8%	9276(人数)	140.8%
									13057(回答)	



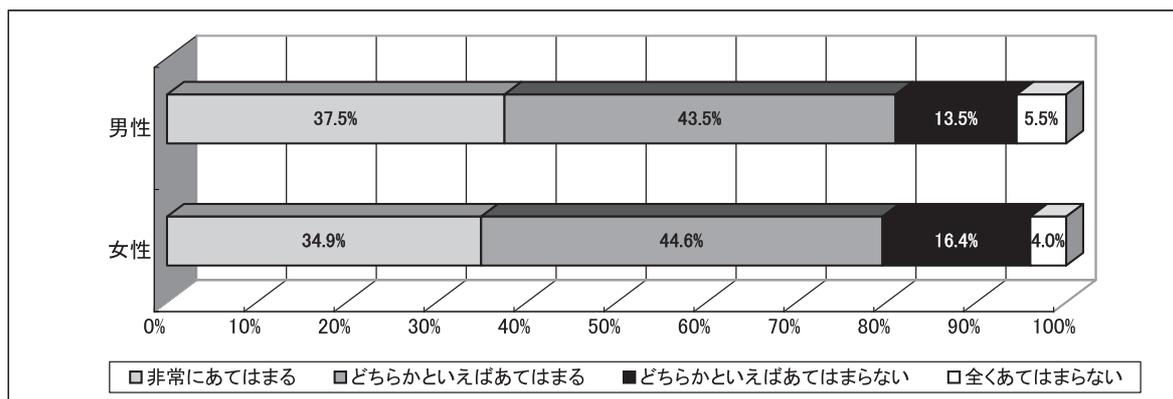
6. この授業を履修したことによって興味が増した

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	4137	31.2%	6054	45.7%	2211	16.7%	840	6.3%	13242	100%
女性	5546	30.1%	8444	45.9%	3591	19.5%	832	4.5%	18413	100%



7. この授業を履修して満足している

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)		人数(※延べ)	
男性	4777	37.5%	5538	43.5%	1713	13.5%	703	5.5%	12731	100%
女性	6193	34.9%	7912	44.6%	2915	16.4%	709	4.0%	17729	100%

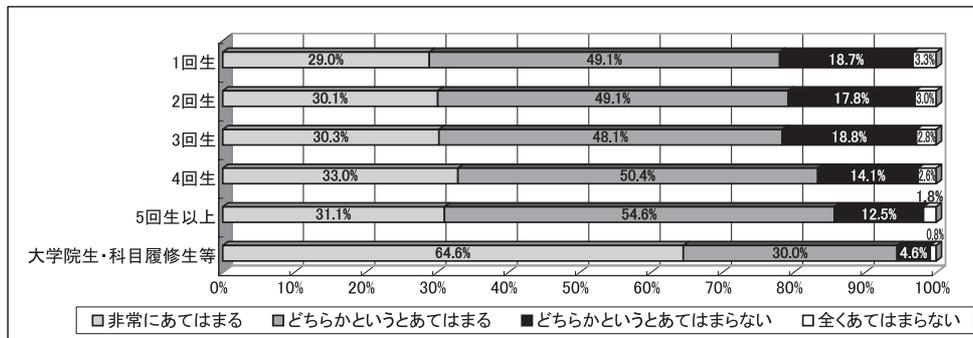


回生別集計

1. 受講態度

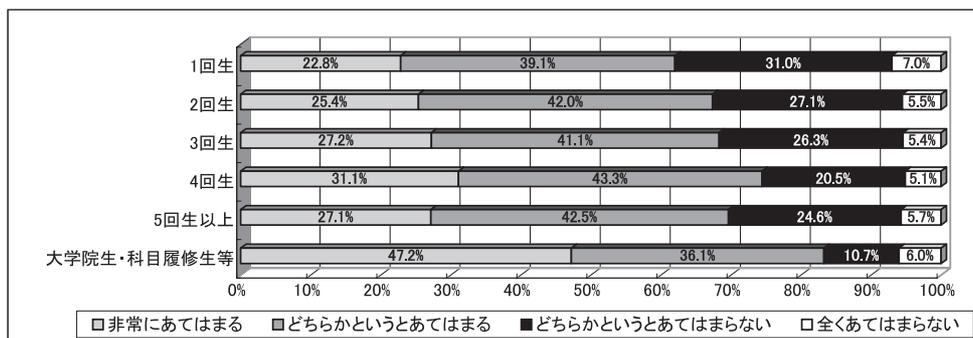
[1-1] 熱心に教員の話聞いた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	3,501	29.0%	5,939	49.1%	2,259	18.7%	393	3.3%	12,092	100%
2回生	3,932	30.1%	6,406	49.1%	2,320	17.8%	386	3.0%	13,044	100%
3回生	2,660	30.3%	4,222	48.1%	1,654	18.8%	242	2.8%	8,778	100%
4回生	969	33.0%	1,482	50.4%	413	14.1%	75	2.6%	2,939	100%
5回生以上	87	31.1%	153	54.6%	35	12.5%	5	1.8%	280	100%
大学院生 科目履修生等	153	64.6%	71	30.0%	11	4.6%	2	0.8%	237	100%



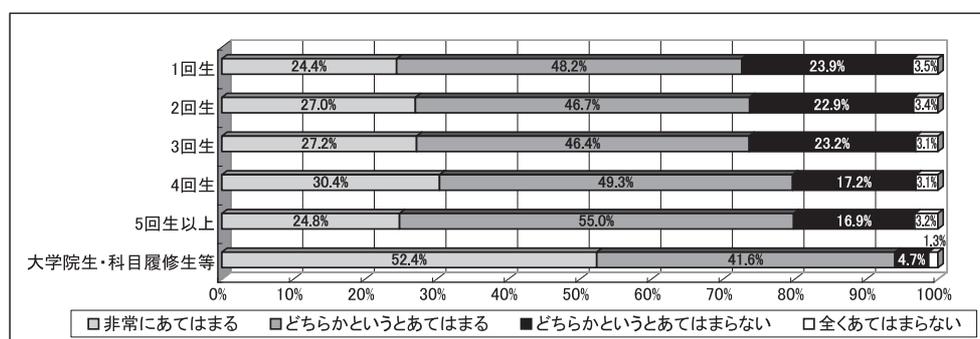
[1-2] ぼんやりしたり、居眠りしたりしなかった

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	2,756	22.8%	4,724	39.1%	3,739	31.0%	848	7.0%	12,067	100%
2回生	3,305	25.4%	5,465	42.0%	3,530	27.1%	721	5.5%	13,021	100%
3回生	2,391	27.2%	3,606	41.1%	2,307	26.3%	477	5.4%	8,781	100%
4回生	911	31.1%	1,269	43.3%	600	20.5%	150	5.1%	2,930	100%
5回生以上	76	27.1%	119	42.5%	69	24.6%	16	5.7%	280	100%
大学院生 科目履修生等	110	47.2%	84	36.1%	25	10.7%	14	6.0%	233	100%



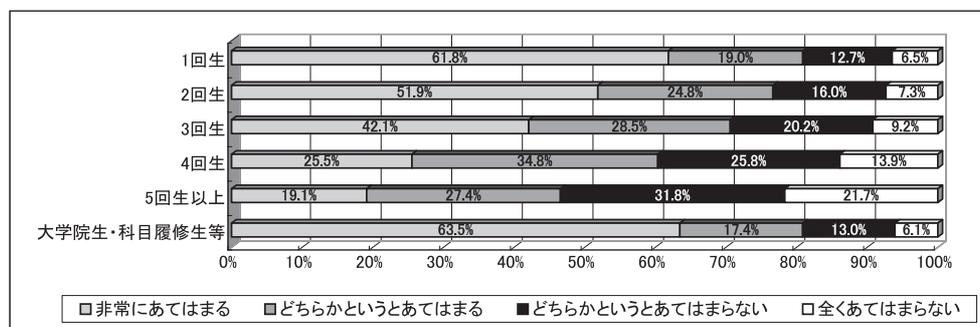
[1-3] 授業に集中していた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	2,942	24.4%	5,808	48.2%	2,877	23.9%	422	3.5%	12,049	100%
2回生	3,517	27.0%	6,071	46.7%	2,979	22.9%	441	3.4%	13,008	100%
3回生	2,385	27.2%	4,072	46.4%	2,038	23.2%	272	3.1%	8,767	100%
4回生	890	30.4%	1,443	49.3%	504	17.2%	90	3.1%	2,927	100%
5回生以上	69	24.8%	153	55.0%	47	16.9%	9	3.2%	278	100%
大学院生 科目履修生等	122	52.4%	97	41.6%	11	4.7%	3	1.3%	233	100%



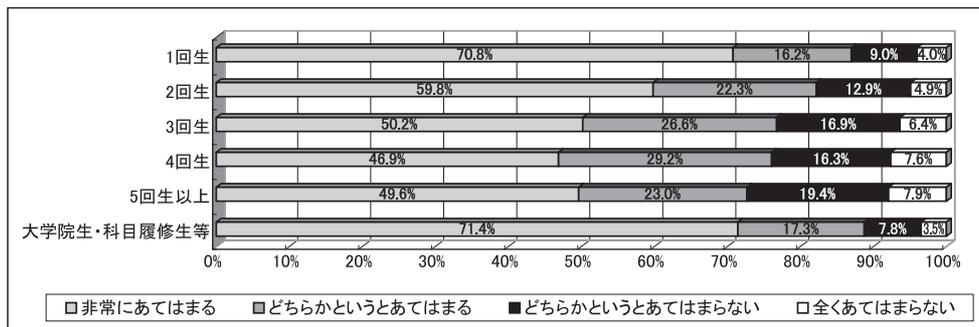
[1-4] 欠席をしなかった

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	7,461	61.8%	2,297	19.0%	1,528	12.7%	779	6.5%	12,065	100%
2回生	6,750	51.9%	3,223	24.8%	2,085	16.0%	955	7.3%	13,013	100%
3回生	3,690	42.1%	2,500	28.5%	1,769	20.2%	807	9.2%	8,766	100%
4回生	748	25.5%	1,019	34.8%	755	25.8%	406	13.9%	2,928	100%
5回生以上	53	19.1%	76	27.4%	88	31.8%	60	21.7%	277	100%
大学院生 科目履修生等	146	63.5%	40	17.4%	30	13.0%	14	6.1%	230	100%



[1-5] 遅刻や途中退会をしなかった

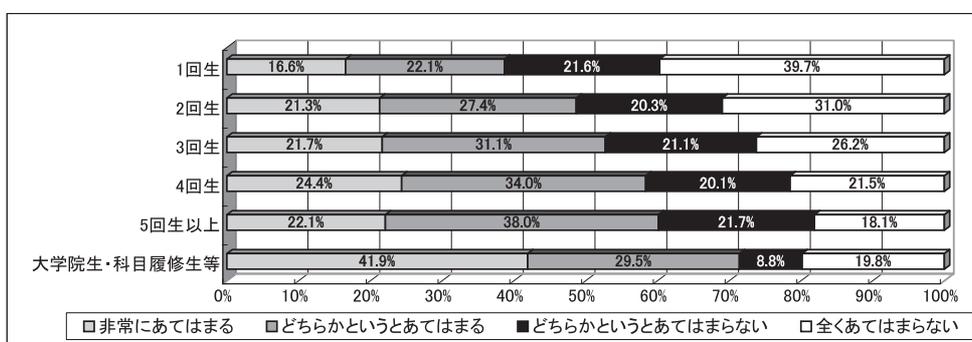
	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	8,542	70.8%	1,954	16.2%	1,089	9.0%	484	4.0%	12,069	100%
2回生	7,782	59.8%	2,907	22.3%	1,683	12.9%	636	4.9%	13,008	100%
3回生	4,401	50.2%	2,329	26.6%	1,480	16.9%	558	6.4%	8,768	100%
4回生	1,372	46.9%	854	29.2%	478	16.3%	223	7.6%	2,927	100%
5回生以上	138	49.6%	64	23.0%	54	19.4%	22	7.9%	278	100%
大学院生 科目履修生等	165	71.4%	40	17.3%	18	7.8%	8	3.5%	231	100%



2. 履修理由

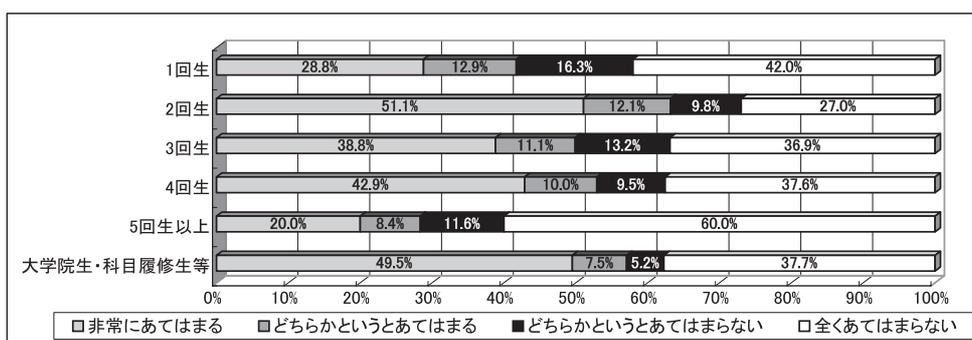
[2-1] 講義概要を読んで興味を持ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	1,881	16.6%	2,515	22.1%	2,460	21.6%	4,508	39.7%	11,364	100%
2回生	2,633	21.3%	3,388	27.4%	2,516	20.3%	3,827	31.0%	12,364	100%
3回生	1,845	21.7%	2,648	31.1%	1,796	21.1%	2,232	26.2%	8,521	100%
4回生	703	24.4%	981	34.0%	581	20.1%	620	21.5%	2,885	100%
5回生以上	61	22.1%	105	38.0%	60	21.7%	50	18.1%	276	100%
大学院生 科目履修生等	91	41.9%	64	29.5%	19	8.8%	43	19.8%	217	100%



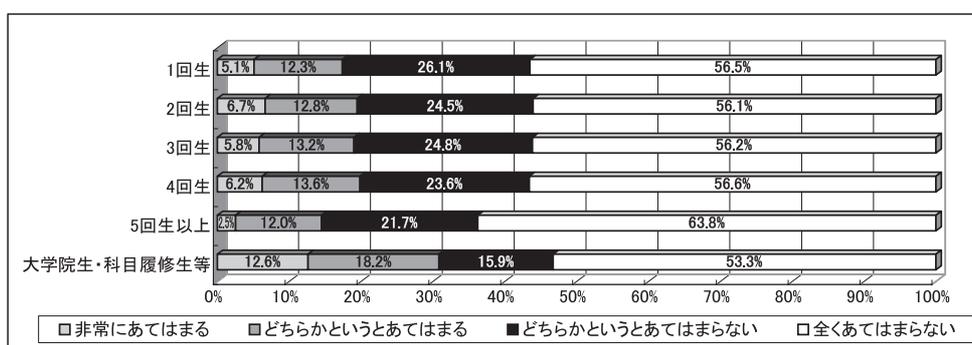
[2-2] 教免・諸資格取得に必要なから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	3,258	28.8%	1,459	12.9%	1,838	16.3%	4,753	42.0%	11,308	100%
2回生	6,421	51.1%	1,523	12.1%	1,235	9.8%	3,391	27.0%	12,570	100%
3回生	3,315	38.8%	947	11.1%	1,127	13.2%	3,149	36.9%	8,538	100%
4回生	1,239	42.9%	290	10.0%	275	9.5%	1,085	37.6%	2,889	100%
5回生以上	55	20.0%	23	8.4%	32	11.6%	165	60.0%	275	100%
大学院生 科目履修生等	105	49.5%	16	7.5%	11	5.2%	80	37.7%	212	100%



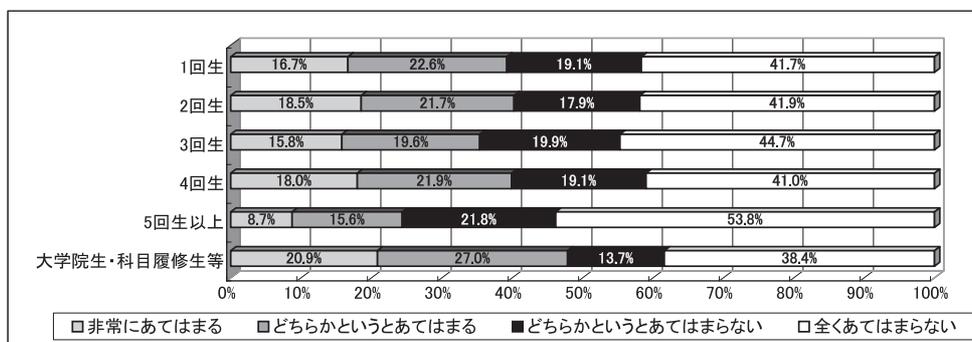
[2-3] 卒論作成のために有意義だと思ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	573	5.1%	1,380	12.3%	2,932	26.1%	6,348	56.5%	11,233	100%
2回生	812	6.7%	1,565	12.8%	2,987	24.5%	6,844	56.1%	12,208	100%
3回生	492	5.8%	1,118	13.2%	2,104	24.8%	4,757	56.2%	8,471	100%
4回生	179	6.2%	390	13.6%	675	23.6%	1,622	56.6%	2,866	100%
5回生以上	7	2.5%	33	12.0%	60	21.7%	176	63.8%	276	100%
大学院生 科目履修生等	27	12.6%	39	18.2%	34	15.9%	114	53.3%	214	100%



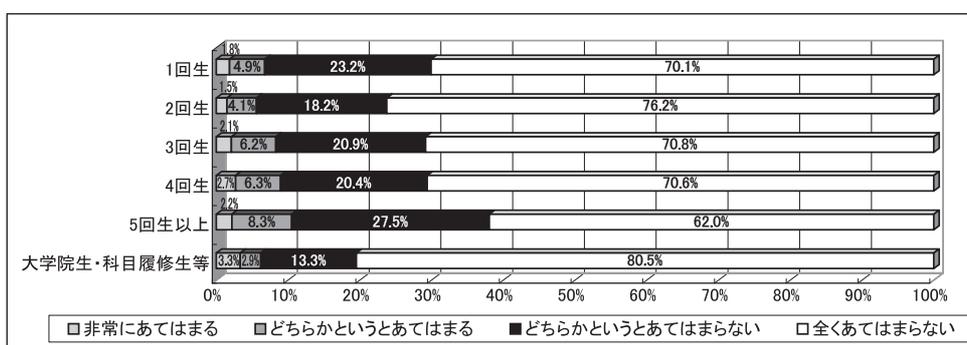
[2-4] 卒業後の進路、就職に役立つと思ったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	1,876	16.7%	2,540	22.6%	2,153	19.1%	4,689	41.7%	11,258	100%
2回生	2,270	18.5%	2,660	21.7%	2,190	17.9%	5,127	41.9%	12,247	100%
3回生	1,340	15.8%	1,660	19.6%	1,691	19.9%	3,789	44.7%	8,480	100%
4回生	516	18.0%	628	21.9%	548	19.1%	1,175	41.0%	2,867	100%
5回生以上	24	8.7%	43	15.6%	60	21.8%	148	53.8%	275	100%
大学院生 科目履修生等	44	20.9%	57	27.0%	29	13.7%	81	38.4%	211	100%



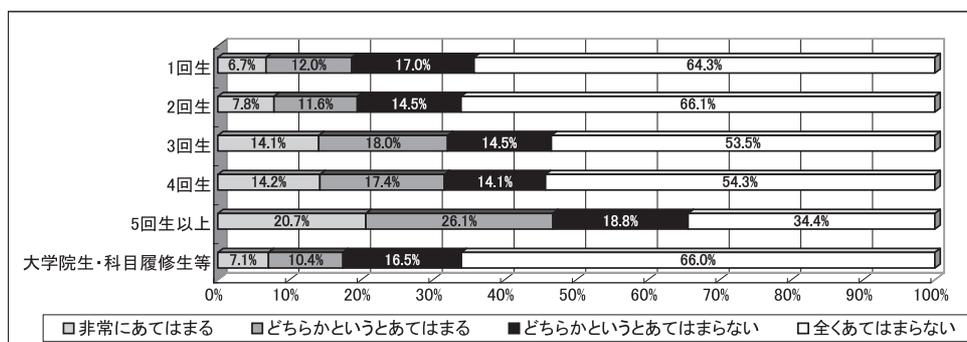
[2-5] 単位がとりやすい聞いたから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	207	1.8%	551	4.9%	2,603	23.2%	7,867	70.1%	11,228	100%
2回生	181	1.5%	501	4.1%	2,215	18.2%	9,295	76.2%	12,192	100%
3回生	178	2.1%	525	6.2%	1,768	20.9%	5,999	70.8%	8,470	100%
4回生	77	2.7%	180	6.3%	586	20.4%	2,025	70.6%	2,868	100%
5回生以上	6	2.2%	23	8.3%	76	27.5%	171	62.0%	276	100%
大学院生 科目履修生等	7	3.3%	6	2.9%	28	13.3%	169	80.5%	210	100%



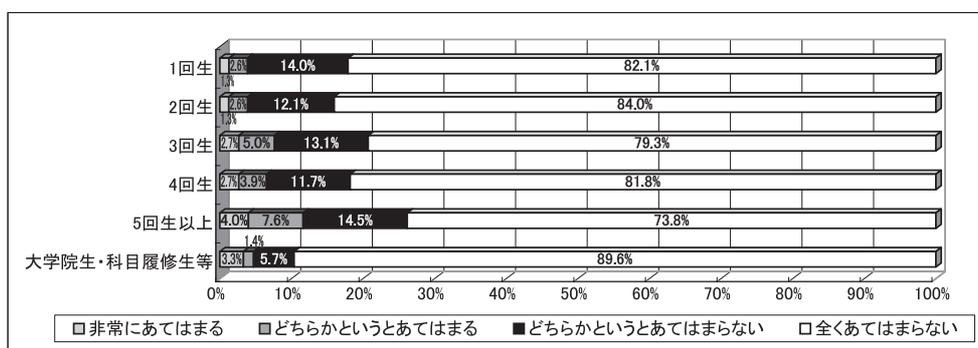
[2-6] 空き時間だったから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	757	6.7%	1,347	12.0%	1,918	17.0%	7,230	64.3%	11,252	100%
2回生	960	7.8%	1,423	11.6%	1,770	14.5%	8,088	66.1%	12,241	100%
3回生	1,196	14.1%	1,527	18.0%	1,230	14.5%	4,545	53.5%	8,498	100%
4回生	410	14.2%	500	17.4%	406	14.1%	1,564	54.3%	2,880	100%
5回生以上	57	20.7%	72	26.1%	52	18.8%	95	34.4%	276	100%
大学院生 科目履修生等	15	7.1%	22	10.4%	35	16.5%	140	66.0%	212	100%



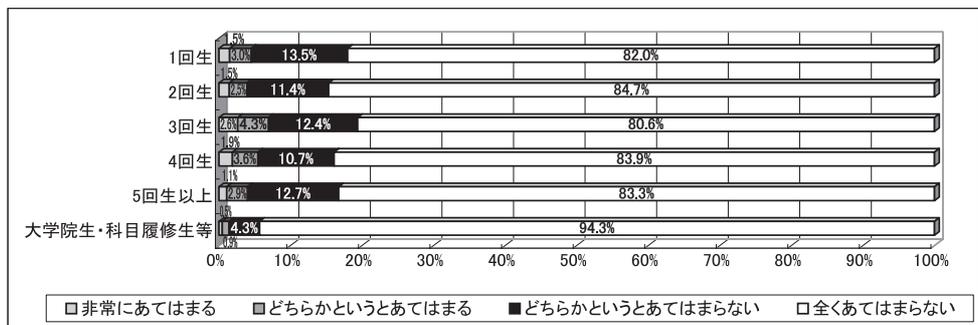
[2-7] アルバイトの時間を配慮したから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	145	1.3%	290	2.6%	1,576	14.0%	9,214	82.1%	11,225	100%
2回生	154	1.3%	321	2.6%	1,474	12.1%	10,248	84.0%	12,197	100%
3回生	225	2.7%	422	5.0%	1,110	13.1%	6,720	79.3%	8,477	100%
4回生	76	2.7%	111	3.9%	335	11.7%	2,344	81.8%	2,866	100%
5回生以上	11	4.0%	21	7.6%	40	14.5%	203	73.8%	275	100%
大学院生 科目履修生等	7	3.3%	3	1.4%	12	5.7%	190	89.6%	212	100%



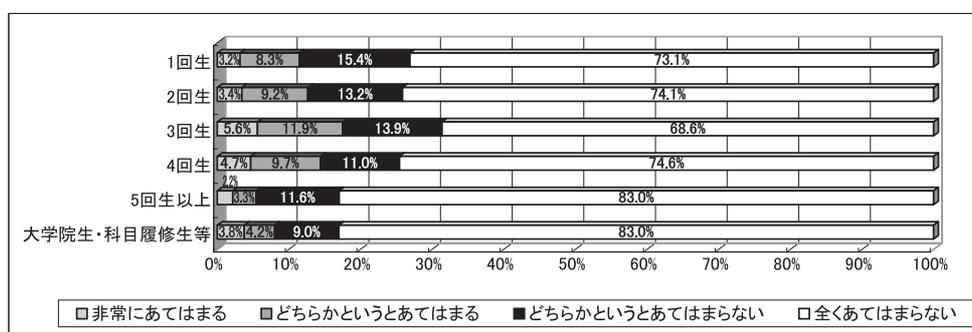
[2-8] 課外活動・サークルの時間を配慮したから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	167	1.5%	339	3.0%	1,511	13.5%	9,203	82.0%	11,220	100%
2回生	177	1.5%	301	2.5%	1,392	11.4%	10,324	84.7%	12,194	100%
3回生	222	2.6%	365	4.3%	1,054	12.4%	6,828	80.6%	8,469	100%
4回生	54	1.9%	102	3.6%	305	10.7%	2,402	83.9%	2,863	100%
5回生以上	3	1.1%	8	2.9%	35	12.7%	229	83.3%	275	100%
大学院生 科目履修生等	1	0.5%	2	0.9%	9	4.3%	199	94.3%	211	100%



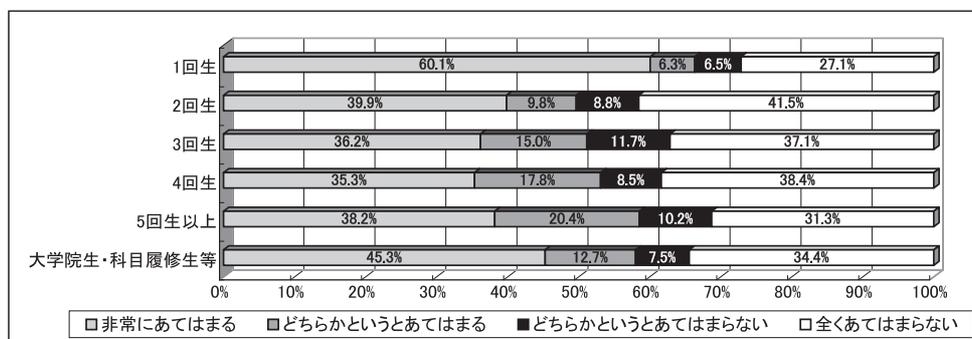
[2-9] 友達が履修するから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	357	3.2%	932	8.3%	1,732	15.4%	8,208	73.1%	11,229	100%
2回生	421	3.4%	1,125	9.2%	1,613	13.2%	9,059	74.1%	12,218	100%
3回生	477	5.6%	1,006	11.9%	1,178	13.9%	5,817	68.6%	8,478	100%
4回生	134	4.7%	279	9.7%	316	11.0%	2,136	74.6%	2,865	100%
5回生以上	6	2.2%	9	3.3%	32	11.6%	229	83.0%	276	100%
大学院生 科目履修生等	8	3.8%	9	4.2%	19	9.0%	176	83.0%	212	100%



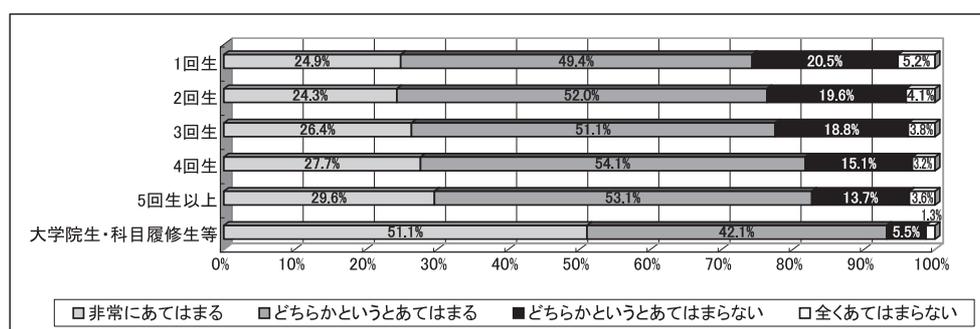
[2-10] 必須科目だから

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	7,084	60.1%	739	6.3%	769	6.5%	3,199	27.1%	11,791	100%
2回生	4,996	39.9%	1,229	9.8%	1,105	8.8%	5,206	41.5%	12,536	100%
3回生	3,128	36.2%	1,295	15.0%	1,013	11.7%	3,211	37.1%	8,647	100%
4回生	1,021	35.3%	513	17.8%	247	8.5%	1,108	38.4%	2,889	100%
5回生以上	105	38.2%	56	20.4%	28	10.2%	86	31.3%	275	100%
大学院生 科目履修生等	96	45.3%	27	12.7%	16	7.5%	73	34.4%	212	100%



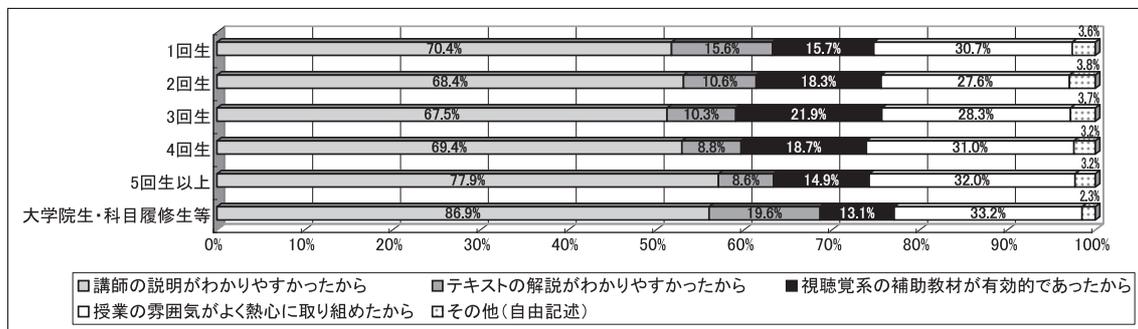
3. この授業の内容をよく理解できた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	2,978	24.9%	5,918	49.4%	2,456	20.5%	625	5.2%	11,977	100%
2回生	3,157	24.3%	6,755	52.0%	2,541	19.6%	527	4.1%	12,980	100%
3回生	2,309	26.4%	4,473	51.1%	1,641	18.8%	329	3.8%	8,752	100%
4回生	807	27.7%	1,578	54.1%	440	15.1%	93	3.2%	2,918	100%
5回生以上	82	29.6%	147	53.1%	38	13.7%	10	3.6%	277	100%
大学院生 科目履修生等	120	51.1%	99	42.1%	13	5.5%	3	1.3%	235	100%



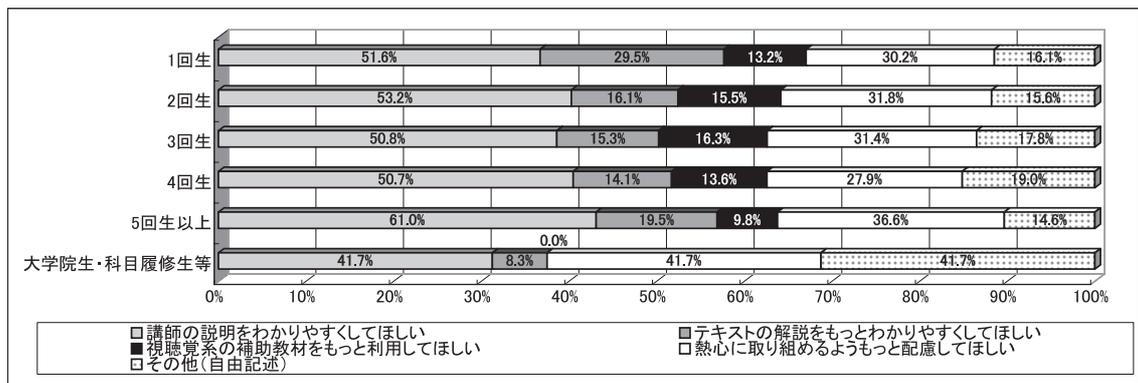
(3-1) 「非常にあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	3-1-1		3-1-2		3-1-3		3-1-4		3-1-5		合計	
	講師の説明がわかりやすかったから		テキストの解説がわかりやすかったから		視聴覚系の補助教材が有効的であったから		授業の雰囲気がよく熱心に取り組めたから		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
1回生	6,058	70.4%	1,346	15.6%	1,349	15.7%	2,644	30.7%	308	3.6%	8601(人数) 11705(回答)	136.1%
2回生	6,445	68.4%	1,003	10.6%	1,727	18.3%	2,601	27.6%	357	3.8%	9420(人数) 12133(回答)	128.8%
3回生	4,325	67.5%	661	10.3%	1,403	21.9%	1,813	28.3%	239	3.7%	6406(人数) 8441(回答)	131.8%
4回生	1,586	69.4%	202	8.8%	427	18.7%	708	31.0%	73	3.2%	2286(人数) 2996(回答)	131.1%
5回生以上	173	77.9%	19	8.6%	33	14.9%	71	32.0%	7	3.2%	222(人数) 303(回答)	136.5%
大学院生 科目履修生等	186	86.9%	42	19.6%	28	13.1%	71	33.2%	5	2.3%	214(人数) 332(回答)	155.1%



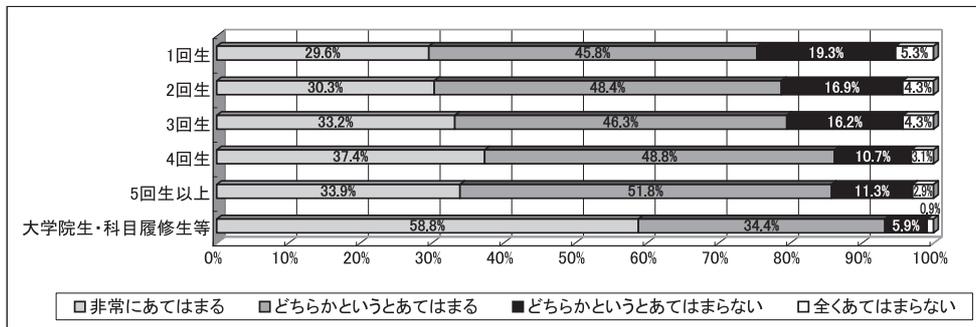
(3-2) 「どちらかといえばあてはまらない」「全くあてはまらない」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	3-2-1		3-2-2		3-2-3		3-2-4		3-2-5		合計	
	講師の説明をわかりやすくしてほしい		テキストの解説をもっとわかりやすくしてほしい		視聴覚系の補助教材をもっと利用してほしい		熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
1回生	1,472	51.6%	841	29.5%	376	13.2%	861	30.2%	460	16.1%	2852(人数) 4010(回答)	140.6%
2回生	1,483	53.2%	448	16.1%	432	15.5%	886	31.8%	434	15.6%	2785(人数) 3683(回答)	132.2%
3回生	889	50.8%	268	15.3%	285	16.3%	550	31.4%	311	17.8%	1750(人数) 2303(回答)	131.6%
4回生	238	50.7%	66	14.1%	64	13.6%	131	27.9%	89	19.0%	469(人数) 588(回答)	125.4%
5回生以上	25	61.0%	8	19.5%	4	9.8%	15	36.6%	6	14.6%	41(人数) 58(回答)	141.5%
大学院生 科目履修生等	5	41.7%	1	8.3%	0	0.0%	5	41.7%	5	41.7%	12(人数) 16(回答)	133.3%



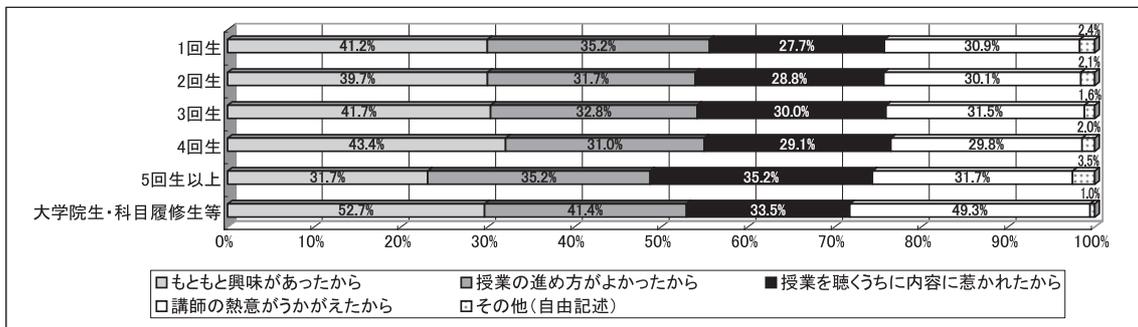
4. 授業内容に興味もてた

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	3,429	29.6%	5,302	45.8%	2,242	19.3%	614	5.3%	11,587	100%
2回生	3,863	30.3%	6,165	48.4%	2,156	16.9%	548	4.3%	12,732	100%
3回生	2,872	33.2%	4,005	46.3%	1,402	16.2%	369	4.3%	8,648	100%
4回生	1,068	37.4%	1,394	48.8%	306	10.7%	89	3.1%	2,857	100%
5回生以上	93	33.9%	142	51.8%	31	11.3%	8	2.9%	274	100%
大学院生 科目履修生等	130	58.8%	76	34.4%	13	5.9%	2	0.9%	221	100%



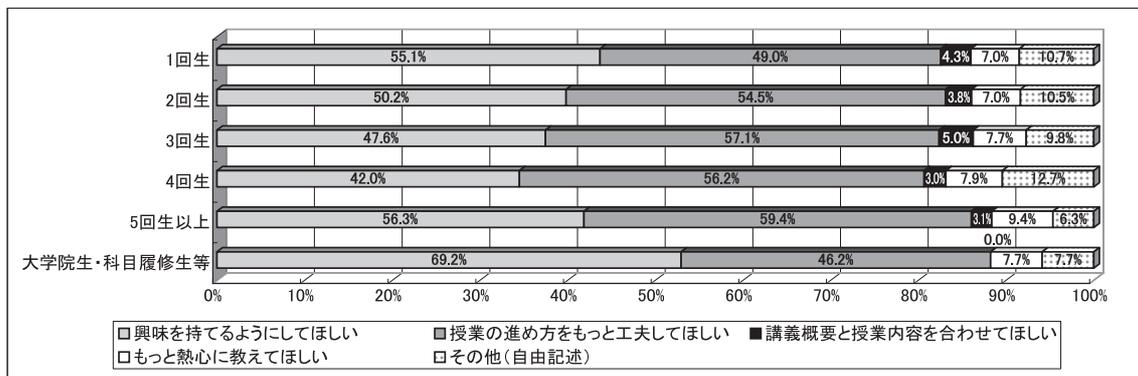
(4-1) 「非常にあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	4-1-1		4-1-2		4-1-3		4-1-4		4-1-5		合計	
	もともと興味があったから		授業の進め方がよかつたから		授業を聴くうちに内容に惹かれたから		講師の熱意がうかがえたから		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
1回生	3,494	41.2%	2,987	35.2%	2,352	27.7%	2,627	30.9%	203	2.4%	8489(人数) 11663(回答)	137.4%
2回生	3,834	39.7%	3,063	31.7%	2,782	28.8%	2,906	30.1%	206	2.1%	9652(人数) 12791(回答)	132.5%
3回生	2,746	41.7%	2,155	32.8%	1,973	30.0%	2,071	31.5%	108	1.6%	6578(人数) 9053(回答)	137.6%
4回生	1,028	43.4%	734	31.0%	690	29.1%	707	29.8%	47	2.0%	2370(人数) 3206(回答)	135.3%
5回生以上	72	31.7%	80	35.2%	80	35.2%	72	31.7%	8	3.5%	227(人数) 312(回答)	137.4%
大学院生 科目履修生等	107	52.7%	84	41.4%	68	33.5%	100	49.3%	2	1.0%	203(人数) 361(回答)	177.8%



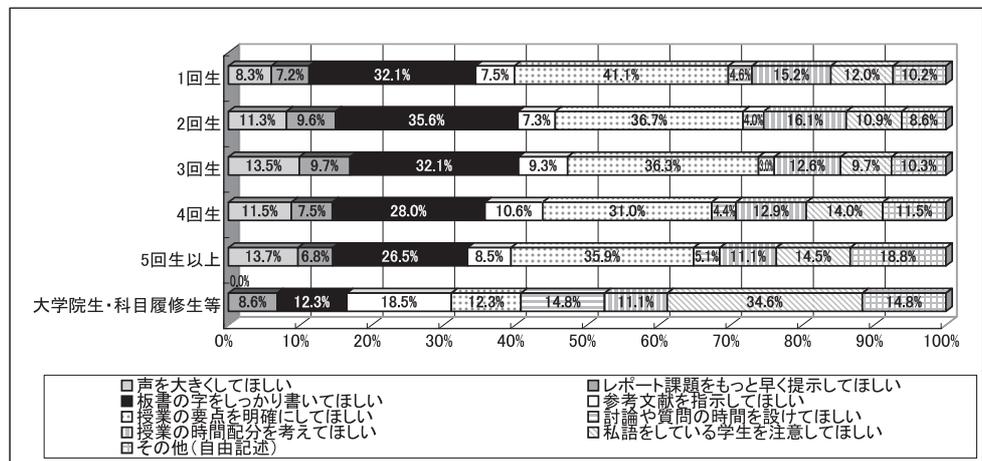
(4-2) 「どちらかといえばあてはまらない」「全くあてはまらない」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

	4-2-1		4-2-2		4-2-3		4-2-4		4-2-5		合計	
	興味を持てるようにしてほしい		授業の進め方をもっと工夫してほしい		講義概要と授業内容を合わせてほしい		もっと熱心に教えてほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数			
1回生	1,415	55.1%	1,259	49.0%	111	4.3%	179	7.0%	275	10.7%	2567(人数) 3239(回答)	126.2%
2回生	1,186	50.2%	1,289	54.5%	89	3.8%	166	7.0%	249	10.5%	2364(人数) 2979(回答)	126.0%
3回生	739	47.6%	885	57.1%	77	5.0%	119	7.7%	152	9.8%	1551(人数) 1972(回答)	127.1%
4回生	139	42.0%	186	56.2%	10	3.0%	26	7.9%	42	12.7%	331(人数) 403(回答)	121.8%
5回生以上	18	56.3%	19	59.4%	1	3.1%	3	9.4%	2	6.3%	32(人数) 43(回答)	134.4%
大学院生 科目履修生等	9	69.2%	6	46.2%	0	0.0%	1	7.7%	1	7.7%	13(人数) 17(回答)	130.8%



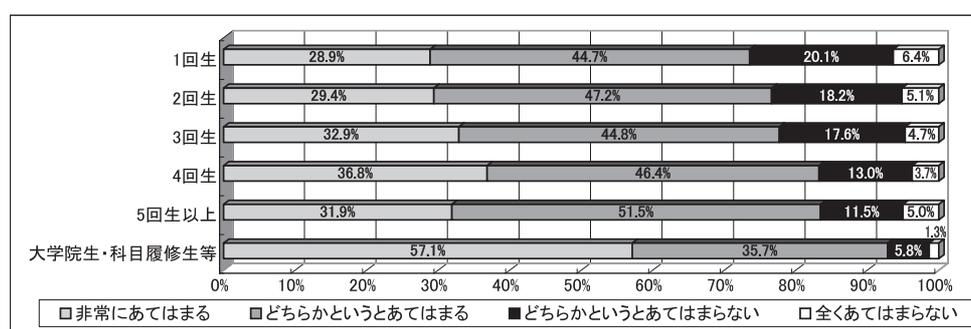
5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

	5-1		5-2		5-3		5-4		5-5	
	声を大きくしてほしい		レポート課題をもっと早く提示してほしい		板書の字をしっかりと書いてほしい		参考文献を指示してほしい		授業の要点を明確にしてほしい	
	回答数		回答数		回答数		回答数		回答数	
1回生	508	8.3%	446	7.2%	1,972	32.1%	459	7.5%	2,531	41.1%
2回生	732	11.3%	617	9.6%	2,301	35.6%	470	7.3%	2,368	36.7%
3回生	552	13.5%	395	9.7%	1,311	32.1%	382	9.3%	1,486	36.3%
4回生	154	11.5%	100	7.5%	373	28.0%	141	10.6%	413	31.0%
5回生以上	16	13.7%	8	6.8%	31	26.5%	10	8.5%	42	35.9%
大学院生 科目履修生等	0	0.0%	7	8.6%	10	12.3%	15	18.5%	10	12.3%
	5-6		5-7		5-8		5-9		合計	
	討論や質問の時間を設けてほしい		授業の時間配分を考えてほしい		私語をしている学生を注意してほしい		その他(自由記述)			
	回答数		回答数		回答数		回答数			
1回生	281	4.6%	933	15.2%	736	12.0%	625	10.2%	6152(人数) 8491(回答)	138.0%
2回生	260	4.0%	1,040	16.1%	701	10.9%	555	8.6%	6457(人数) 9044(回答)	140.1%
3回生	122	3.0%	516	12.6%	397	9.7%	423	10.3%	4089(人数) 5584(回答)	136.6%
4回生	59	4.4%	172	12.9%	187	14.0%	154	11.5%	1334(人数) 1753(回答)	131.4%
5回生以上	6	5.1%	13	11.1%	17	14.5%	22	18.8%	117(人数) 165(回答)	141.0%
大学院生 科目履修生等	12	14.8%	9	11.1%	28	34.6%	12	14.8%	81(人数) 103(回答)	127.2%



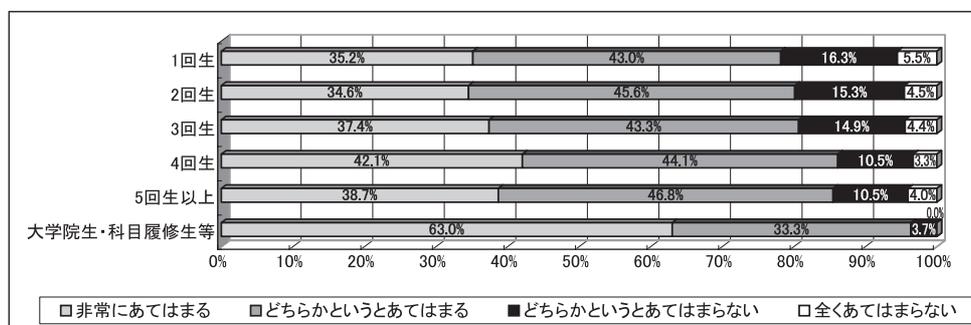
6. この授業を履修したことによって興味が増した

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	3,278	28.9%	5,072	44.7%	2,281	20.1%	721	6.4%	11,352	100%
2回生	3,622	29.4%	5,818	47.2%	2,247	18.2%	634	5.1%	12,321	100%
3回生	2,749	32.9%	3,742	44.8%	1,470	17.6%	393	4.7%	8,354	100%
4回生	1,021	36.8%	1,286	46.4%	361	13.0%	103	3.7%	2,771	100%
5回生以上	83	31.9%	134	51.5%	30	11.5%	13	5.0%	260	100%
大学院生 科目履修生等	128	57.1%	80	35.7%	13	5.8%	3	1.3%	224	100%



7. この授業を履修して満足している

	非常にあてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		全くあてはまらない		合計	
	人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)		人(※延べ)	
1回生	3,786	35.2%	4,631	43.0%	1,756	16.3%	594	5.5%	10,767	100%
2回生	4,119	34.6%	5,434	45.6%	1,827	15.3%	541	4.5%	11,921	100%
3回生	3,044	37.4%	3,519	43.3%	1,212	14.9%	360	4.4%	8,135	100%
4回生	1,121	42.1%	1,174	44.1%	281	10.5%	88	3.3%	2,664	100%
5回生以上	96	38.7%	116	46.8%	26	10.5%	10	4.0%	248	100%
大学院生 科目履修生等	138	63.0%	73	33.3%	8	3.7%	0	0.0%	219	100%



佛 教 大 学 授 業 評 価 ア ン ケ ー ト

科 目 名		曜 日	講 時
学 籍 番 号	-	氏 名	

※このアンケートで得られた情報は、授業評価アンケートのために使用しそれ以外の目的には利用しません。

学 科 ① 仏教 ② 史 ③ 日文 ④ 中文 ⑤ 英文 ⑥ 教育 ⑦ 生涯学習 ⑧ 臨床心理
 ⑨ 社会 ⑩ 応社 ⑪ 社福 ⑫ 健福 ⑬ その他

※ 2004年度以降の入学生は⑭～⑳で回答してください

⑭ 人文 ⑮ 中国 ⑯ 英米 ⑰ 教育 ⑱ 臨心 ⑲ 現社 ⑳ 公共 ㉑ 社福

回 生 ① 1 回 生 ② 2 回 生 ③ 3 回 生 ④ 4 回 生 ⑤ 5 回 生 以上 ⑥ 大 学 院 ・ 科 目 履 修 生 等
 性 別 ① 男 性 ② 女 性

設問について該当の番号をぬりつぶして回答してください。

① 非常にあてはまる ② どちらかといえばあてはまる ③ どちらかといえはあてはまらない ④ 全くあてはまらない

1. 受講態度

- [1-1] 熱心に教員の話を聞いた ① ② ③ ④
- [1-2] ぼんやりしたり、居眠りしたりしなかった ① ② ③ ④
- [1-3] 授業に集中していた ① ② ③ ④
- [1-4] 欠席をしなかった ① ② ③ ④
- [1-5] 遅刻や途中退出をしなかった ① ② ③ ④

2. 履修理由

- [2-1] 講義概要を読んで興味を持ったから ① ② ③ ④
- [2-2] 教免・諸資格取得に必要だから ① ② ③ ④
- [2-3] 卒論作成のために有意義だと思ったから ① ② ③ ④
- [2-4] 卒業後の進路、就職に役立つと思ったから ① ② ③ ④
- [2-5] 単位がとりやすいと聞いたから ① ② ③ ④
- [2-6] 空き時間だったから ① ② ③ ④
- [2-7] アルバイトの時間を配慮したから ① ② ③ ④
- [2-8] 課外活動・サークルの時間を配慮したから ① ② ③ ④
- [2-9] 友達が履修するから ① ② ③ ④
- [2-10] 必須科目だから ① ② ③ ④

3. この授業の内容をよく理解できた ① ② ③ ④

(3-1) 「①」「②」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

- ① 講師の説明がわかりやすかったから ② テキストの解説がわかりやすかったから
- ③ 視聴覚系の補助教材が有効的であったから
- ④ 授業の雰囲気がよく熱心に取り組めたから
- ⑤ その他 ()

(3-2) 「③」「④」と答えた理由として今後改善を希望するもの全てにマークしてください

- ① 講師の説明をわかりやすくしてほしい ② テキストの解説をもっとわかりやすくしてほしい
- ③ 視聴覚系の補助教材をもっと利用してほしい
- ④ 熱心に取り組めるようもっと配慮してほしい
- ⑤ その他 ()

4. 授業内容に興味をもてた ① ② ③ ④

(4-1) 「①」「②」と答えた理由としてあてはまるもの全てにマークしてください

- ① もともと興味があったから ② 授業の進め方がよかったから
- ③ 授業を聴くうちに内容に惹かれたから ④ 講師の熱意がうかがえたから
- ⑤ その他 ()

(4-2) 「③」「④」と答えた理由として今後改善を希望するもの全てにマークしてください

- ① 興味を持てるようにしてほしい ② 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- ③ 講義概要と授業内容を合わせてほしい ④ もっと熱心に教えてほしい
- ⑤ その他 ()

5. この授業に対する要望があればあてはまるもの全てにマークしてください

- ① 声を大きくしてほしい ② レポート課題をもっと早く提示してほしい
- ③ 板書の字をしっかりと書いてほしい ④ 参考文献を指示してほしい
- ⑤ 授業の要点を明確にほしい ⑥ 討論や質問の時間を設けてほしい
- ⑦ 授業の時間配分を考えたほしい ⑧ 私語をしている学生を注意してほしい
- ⑨ その他 ()

6. この授業を履修したことによって興味が増した ① ② ③ ④

7. この授業を履修して満足している ① ② ③ ④

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

ご協力ありがとうございました。

〔授 業 公 開〕

「環境学A」 内 藤 正 明 先生

If I wasn't hard, I wouldn't be alive. If I couldn't ever be gentle, I wouldn't deserve to be alive.

新年明けましておめでとうございます。本学のFD活動推進のために、本年も引き続き、教職員の皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、昨年12月には多くの先生方のご協力をいただき、全10回の授業公開を無事終えることができました。この場を借りて御礼申し上げます。授業公開の成果に関しましては、分析検討を加えた後に冊子の形でみなさまに還元する予定です。また素人撮影のビデオではありますが、授業のさわりをご覧いただくために、編集作業にとりかかることになっております。

さて、まことに勝手ながら、ご担当いただいた先生のうち、内藤正明先生の授業について、ごく私的な感想を述べさせていただきたいと思います。拝見させていただいた科目は「環境学A」でした。内藤先生の授業ですが、ポイントは2つあります。1つは「担当者自身はその道のプロフェッショナルである」ということであり、もう1つは「学生との対話を重要視されていた」ということです。

授業公開の趣旨は授業方法に重点を置くということなので、具体的な授業内容をご紹介しますが、1つの方法論または授業に対する姿勢としてこれだけは申し述べたいと思います。内藤先生曰く「環境学は科目の性質上テキストがないので、定説もなく、結局は担当者の個人的な意見を述べることになる」ということなのですが、内藤先生は自他共に認める環境学の第一人者であり、最先端の内容の講義をされているという点で、まさに学問の府である大学にふさわしい授業であることを実感しました。



2つ目のポイントに関してですが、内藤先生はご自分のお考えを教壇で淡々と話されるのではなく、100名弱の受講生を相手にしても、果敢に学生とのディスカッションに挑まれます。事前に受講生の提出した環境問題に関する小レポートを考えごとに分類し、それぞれの代表格的な意見を持つ学生と議論されます。もちろん内藤先生はご自身の観点から意見や質問をされます。プロ対アマの対決のようで、勝負は目に見えているのではないかと想像されるかもしれませんが、そうではありません。先生のお立場はあくまでも「内藤教の信者が増えてくれるのはうれしいけれど、だからと言って僕の考えに無理に従う必要はない」という謙虚な姿勢で議論に望まれます。中には、先生となかなかうまく意見交換することのできない学生もいますが、それでも内藤先生は粘り強くその学生と接しておられました。

今回授業公開に参加して、2つのことを学びました。知の最先端を教えることの意味と、一方通行ではない双方向の授業の重要性です。厳しいプロフェッショナルでありながら、やさしく学生に接する内藤先生のお姿を見て思いました。大学教師も「タフでなければ生きていけない、優しくなければ生きていく資格がない」(If I wasn't hard, I wouldn't be alive. If I couldn't ever be gentle, I wouldn't deserve to be alive.) と。

〈松本記〉

(『学内報』2006.1掲載)

〔授 業 公 開〕

「近・現代文学講読Kc」 坪 内 稔 典 先生
「アメリカの社会と福祉A」 中 田 智 恵 美 先生

『まちぶせ』

非常に厳しい寒さに見舞われた年末年始でありましたが、2005年度も残すところあと僅か2ヶ月となりました。教職員の皆様も、今年度の残務や新年度に向けての準備に日々忙しなされていることと思います。

さて、今回は前回に引き続き、昨年末に実施いたしました「授業公開」を拝見させていただいた中の、坪内稔典先生と中田智恵美先生の授業について、私的な感想を述べさせていただきます。

最初に、坪内稔典先生に公開いただいた授業は「近・現代文学講読Kc」でした。授業内容は夏目漱石の『我輩は猫である』を、漱石が描く表現法の中に隠れるおもしろさなどを中心に、授業に出席している全員で議論しながら読み解くというものでした。先生の授業を拝見して私なりのポイントを挙げてみますと、①「全員参加の授業」、②「学生の中に入り込む」、③「学生の意見は否定しない」でしょうか。とにかく先生は教室の中を前後左右目一杯に動かれます（映像収録をしている側からすると大変でしたが…）。学生を指名（名前を覚えておられる）して読ませているときや意見を求める場合、その学生の前で聞き話されます。学生の中に完全に入り込まれていることに驚きました。また学生が述べる考えに対して、文学という明確な解答がない領域だからでしょうか、否定されずに学生の意見を柔らかく受け止め、導かれているように感じました。受講生も比較的多い中、全員を授業に参加させる工夫を模索されている様子が十分に伺えました。



次に中田智恵美先生に公開いただいた授業ですが、「アメリカの社会と福祉A」でした。授業内容はアメリカの民間活動の社会福祉サービス、とりわけセルフヘルプグループの活動事情を紹介され、日本事情との比較考察を行うといったものでした。ここでも私なりのポイントを挙げてみますと、①「見る授業」、②「考え気づかせる授業」でしょうか。授業ではPCやビデオ、レジメを利用され、視覚的に教科内容を捉える工夫をされていました。特にPC画面をプロジェクターに接続し、受講している学生が一点を見ながら考えるといった工夫をされています。一方通行で画面を見せるだけでなく、学生を引き付けながら、次の展開を学生に考えさせる工夫がなされていたと感じました。授業終了後に先生と立ち話をしていたときの言葉が印象的です。授業中に短時間ですが居眠りをする学生が一人だけいました。先生はそのこともわかっておられる様子で、「この授業の目標は、今年度中にその学生が居眠りせず最後まで受ける授業をすること」と言われました。先生の授業改善・工夫に対する意識は高く、まだまだ続いていると感じました。

これらの授業を拝見して、授業で学生と共に考えることと、授業での教育目標を明確にしておくことが重要ではないでしょうか。両先生の授業に対する意識は高く、その意識は常に前進していることが強く感じられた授業でした。

“♪ もうすぐ私きっとあなたを振り向かせる～ ♪”

〈久保記〉

(『学内報』2006.2掲載)



第1回FD座談会 佛教大学における外国語教育について（前編）

出席者■文学部人文学科 太田 修（朝鮮語）／文学部中国学科 若杉邦子（中国語）
文学部英米学科 松本真治（英語）／教授法開発室 下野隆喜

第1回のFD座談会は、今年度より実施された新カリキュラムの特色の一つである外国語教育改革について、英語・中国語・朝鮮語を担当する若手教員にそれぞれの視点から忌憚なく語っていただいた。白熱した対談は優に4時間を超えるものとなった。

語学教師論

下野：新しい外国語教育といえば、本学でもCALLシステム導入が動き出しています。松本先生もこれに絡んでおられますが、CALLは英語だけなのでしょうか。

松本：他の外国語でもあるみたいですね。たとえば中国語の四声を波形で表示して、自分の発音とのズレを視覚的に表示できるものとかもあります。

若杉：中国語の場合、CALLに限らず教授法自体も英語と比べると、まだ熟していないように感じます。もちろん、中国語教育における具体的な方法論の模索も行われていますが。

松本：教授法のことですが、近頃は、英語教授法という狭い概念から、第2言語習得理論という大きな概念へと移行しているみたいですね。完全に解明されているわけではないですが、第2言語が習得されるそのプロセスを理解して教えなければならない。外国語の発音・語彙・文法の知識を教えるだけで、学習者がその言語を実際に使えるようにはならないでしょう。

太田：僕は11年間ソウルにいて、たまたま延世大学で日本語を教えることになったんですけど、最初はダメでしたね。日本語のネイティブ・スピーカーであることと、日本語教師であることは違うんです。教授法を学ばないと教えられない。それで、音韻論や教授法の理論をかじって、やっとなついていけるようになりましたね。

松本：英語のネイティブも同じですね。ある程度英語のできる学生を相手にするのはいいけれども。

若杉：言葉を「話せる」と「教えられる」は違いますよね。特に教える相手が初級になればなるほど。実は、中国語も昔は、ネイティブが教えればいいという意識があったんですよ。しかもテキストは、北京で出版されている留学生を対象としたものが多用され、種類もごく限られていたと聞いています。

太田：将来は、朝鮮語教育学を学んだ人が朝鮮語を教えるべきでしょうね。ただ、現状ではそうはいかない。まわりを見ても、日本へやってきた留学生か、僕のように向こうに行った人が朝鮮語を教えているんです。

松本：専任・非常勤をあわせても、佛大には英語教育専門の人はあまりいませんね。昔は「英文学専攻」⇒「英語教師」という発想がありましたから、その流れかもしれません。ただ、近頃の専任教員公募を見ると、専攻分野が「英語教育学」限定という

のが多くなっていますね。個人的には、全教員が英語教育プロパーでなくてもいいのではないかと思っています。中学校・高等学校の学習指導要領を見ても、外国語学習の目的は外国語によるコミュニケーション能力養成と異文化理解ですから。

太田：でもまあ、語学教育を専門とする教師が主流になるべきだとは思いますが。

若杉：わかります。教えるのにはスキルが必要ですね。

カリキュラム改革

松本：語学教育の専門家が少ないという現状で、どのように外国語教育を展開していくのか、これが佛大における課題でしょう。とりあえずは与えられた環境でやるしかないわけで。英語の新カリキュラムでは、学生に何を教え、何を身につけさせるのかを考えました。到達目標を設定し、必修科目を3種目に分け、統一テストを使って習熟度別クラス編成を導入しました。本当は英語力だけではなく、興味・関心、目的、学習意欲も考慮したクラス編成ができればいいんですけど、現実的には無理でしょう。全体的な底上げか、上位の学生を引き上げるのかという問題もあります。朝鮮語はどうですか。

太田：朝鮮語は今年から改革がはじまったばかりで、まだ、英語みたいのところまでは考えていません。ただ、これまでみたいに、どれでもいいから基礎クラスを4つ履修すればいいというのはやめました。受講生が固定しない上に、レベルもばらばら。教師もお互いに連絡を取らないので、授業内容が重なってしまうということもたびたびあったようです。

若杉：中国語もそうでしたよ。この点に関しては、非常勤の先生方からも苦情をいただいています。授業内容の重複に加えて、必須事項の欠落もあるようです。きっと他の先生が教えているんだろうという憶測をして、実は誰も大事な部分を言っていなかった、なんてことも稀にあるらしいんです（笑）。

太田：今年からは、各セメスターにおいて基礎2・会話1クラスの受講ですが、クラスは固定します。教師もお互いに頻繁に連絡を取り合うことになっていますから、同じ内容が意味もなく2度繰り返されることはありません。去年と比べて、ほんと、ものすごくよくなりましたよ。

学びやすい外国語は？

下野：英語・中国語・朝鮮語の3つのうちで、われわれが学ぶならどれでしょうか。

松本：英語は絶対的に国際語と言えますので、必ず身につけておきたい言語ですが、でも難しいですね。日本語と英語とでは根本的に文字・発音・文法・語彙が異なっています。ヨーロッパ人には学びやすい言語なんです。ドイツ人なんかすごく上手ですよ。中国語は漢字を使っていますし、朝鮮語は何となく日本語と似ているような気もするのですが、どうでしょうか。

太田：僕の独断ですが、日本語を母語とする人が一番勉強しやすいのは、朝鮮語です（笑）。語順が日本語とほぼ同じで、助詞もあります。だから、若干の違いはありますが、日本語のように書くこともできます。発音さえクリアできれば、あとは大丈夫だと思いますよ。

若杉：中国語は漢字を使用しますが、そのことが逆に会話能力の向上を妨げているように思います。頭の中で漢字をならべて、それを読み上げていくのでは、会話のスピードについていけません。そうではなく、音のかたまりとして覚えるようにすべきです。ですから、漢字依存の弊害を取り除くために、ローマ字表記だけの会話学習用テキストもあります。中国語の論文は読めても、話せないという方もたくさんいらっしゃいますからね。

太田：朝鮮史をやっている第一世代の先生方は朝鮮語が話せませんでしたね。最近の世代は、歴史専攻でも文学専攻でも朝鮮語が話せますが。

松本：英語の場合、今では話せて当然という感じですが、実状となるとノーコメント(笑)。昔は、話せる人はペラペラだけど、話せない人はさっぱりできないという感じですね。

—————こんな調子で夜はふけていくのであった〈次号に続く〉

〈文責：松本真治〉

(『教授法開発室だより』vol.12掲載)

第1回FD座談会 佛教大学における外国語教育について（後編）

出席者■文学部人文学科 太田 修（朝鮮語）／文学部中国学科 若杉邦子（中国語）
文学部英米学科 松本真治（英語）／教授法開発室 下野隆喜

前号掲載の前編では対談のうち「語学教師論」「カリキュラム改革」「学びやすい外国語は？」について報告した。今回はその続編である。

使える語学力とは？

松本：語学教師が、それぞれの外国語をペラペラ喋れるのかどうかはどうも個人差があるように思いますが、ではズバリお聞きしますが、ご自身の語学力は？

若杉：私、大したことはありません。まだまだです。

太田：そんなふうに聞かれたら「できない」と言うしかないじゃないですか（笑）。

松本：僕も「できない」と言うしかないですけど、それはネイティヴへの引け目であって、それでは話にならない。学生がよく言う「英語ができません」とは明らかにレベルが違うわけで。そこで〈使える外国語〉って何でしょうか。結構巷では使われる割には、これほど曖昧な表現はないと思いますが。さらに、そんな曖昧なものを教えることはできないだろうし。

若杉：自分の意思を明確に伝達できる、ということでしょうか。自分はこの言葉を使うんだ、という度胸も必要ですね。ただ、ある程度の水準に達しないと無理でしょうが。

下野：具体的には？

若杉：漢語水平考試8級ですね。大学院入試で求められるのが8級なんですが、中国語をある程度自由に使えると感じるためには、やはり8級は必要でしょう。

下野：松本先生はTOEFLとかTOEICは何点ですか。

松本：ケンブリッジ大学英語検定の一番上、CPE（Certificate of Proficiency in English）は持っています。試験時間はなんと9時から5時まで。TOEFLやTOEICですが、実は受験経験ないです、あんまり興味なくて。

太田：僕も同じで、そういった語学検定試験には基本的に興味なしです。

若杉：私も以前は興味ありませんでした。上海に留学した時、大学院の授業を受講するためには8級所持が条件だったので大学によるレベル確認（8級以上）のための試験を受けました。結果は合格とのことでしたが、でも合格証書を事務所に取りに行っていないんですよ（笑）。

松本：テスト結果と外国語ができる実感は違いますよね。TOEICのスコアと実際の語学力との間にはギャップがあります。

太田：でも、ある意味、テストは刺激になっていいですよ。

松本：学生にはどれだけのレベルを求めますか。

若杉：通用するようになるなら、最終的には8級は必要。

松本：学生にとっては相当高いレベルですよ。佛大での4年間の教育では難しいですよ。ごく一部の学生は可能かもしれないが、制度として「漢語水平考試8級」を掲げるわけにはいかないでしょう。

太田：むしろ、そういう資格は意識をしないほうがいいんじゃないですか。

若杉：中国語も朝鮮語も、社会的な立場が英語とは違う。英語みたいに〇〇級あればいいという感覚にはなっていないのではないのでしょうか、世間がね。普及度に大きな開きがありますから。

松本：確かに英語の場合、社会的要請は大きいですね。専攻分野に関係なく、4年生大学卒の場合、最低TOEIC500点前後でしょうか。ただし、昇進や海外派遣の条件によってどんどん高いスコアが求められる。また、公立中学校・高等学校の「英語科」教師の最低の英語レベルとして、文部科学省は英検準1級、TOEFL550点、TOEIC730点を明示するようになりました。実際のところは英検1級やTOEIC800点くらいが必要でしょう。ただ、英検1級やTOEIC800点があるからといって国際ビジネスの最前線で働けるわけではない。まあ、その第一歩でしょうか。「国際化＝英語」(?)という公式の流れで、上位レベルから下位レベルまでの日本人が英語を学習しているということは否めませんね。明治時代以降の日本における英語教育史を眺めても、英語教育に政策的な要素はたくさん見て取れる。今の時代ではそれが、英検何級やTOEIC何点という形で英語学習を反映させなければならないという形になっている。

太田：英語はどれだけできたかを点数で表さなければならないということが求められているようですが、朝鮮語は、そうではありません。

松本：TOEICで何百点あれば就職に有利だとはよく聞きますね。もちろん英語力だけでは就職できないですが、採用側としては他の点で同じであれば〈英語もできる〉学生を採用したいらしい。今の時代、中国語なんかもできたら就職に有利じゃないんですか。その意味では社会的要請もあるのでは？

若杉：今までの話しをうかがっていて、現在中国語の置かれている状況というのは英語と朝鮮語の中間だと言う気がしました。グレードも徐々に認知され、重要視されるようになってきましたし。

外国語教育のあり方

松本：〈使える外国語〉という概念は、語種・社会的要請・個人等によって異なり、ここで結論を出すわけにはいきませんが、それでも我々は何らかの形で語学を教えているかなければならないわけです。英語の場合、繰り返しになりますが、社会的要請を無視するわけにはいかないのです、TOEIC等の試験を意識せざるを得ない。そのため、本来は語学教育に必要なモチベーションの部分がどこかへ行ってしまうということも現実的にはある。楽しい授業を展開し、学生のモチベーションを上げることができればいいんですが、目に見えて効果が出てこないということもある。そうするとつい〈楽しんで学ばせる〉が〈教え込む〉という形になってしまう。中学校・高等学校学習指導要領でもコミュニケーション能力養成と国際理解という2つが「英語科」の柱となっています。ですから大学でも語学力養成と異文化教育の2つ

をうまくミックスできればいいんですが、何かが抜けてしまう。

太田：僕はその「何か」は抜けてもかまわないんじゃないかという気がします。我々ができることは限られていますし。問題は学生がやる気になるかどうかということで、やる気にならなければ身につかないと思うんですね。

松本：モチベーションが高まったらいいという考えもあるんですけど、モチベーションというものは測定できない。そして目に見えないものは評価されない。〈全国共通英語学習意欲度テスト〉なんてものがあればいいですが、ありえない。意欲があれば自ずと実力もともなっているだろうというのが世間の発想でしょう。語学は実技科目ですから、実績主義ですよ。そこが、一番語学を教えていて辛いところなんですよ。

太田：自分で体験するという学習が一番大事だと思うんですよ。ロサンゼルス分校やハワイ大学での英語研修や、中国・西北大学での漢語研修という短期講座が実施されていますが、いいですね。朝鮮語関係ではまだそのような制度はありません。朝鮮語を「体験する」という意味でも、語学研修のようなものをぜひ実施したいですね。

若杉：中国学科では専門課程の学生の力を伸ばそうと、長期研修制度も計画しています（注：2005年度より実施済み）。

松本：確かにその言語が話されている地域に行くことほど、モチベーションを高めてくれるものはないですからね。

若杉：ただ一つ現地研修に関して気になることは、参加した学生とそうでない学生の差が開くことです。英語・中国語・朝鮮語のどの履修生を考えても、すべての学生がその研修に参加することはありえないし、現実的に言って、費用も自己負担で、全学生が参加することは不可能です。ですから、研修に参加していない学生をどのようにケアするかも一つの大きな問題だと私は感じているんです。

松本：新カリキュラムでは1学年のうち1000人以上が英語を履修していますが、そのうちどれだけの学生が英語圏の地域に行っているのか、その実態はわかりませんが、その大半ということはあるでしょう。

下野：近頃は英会話学校に通う学生も多いでしょう。1回30分単位とかで学習するところがありますが、1日その程度の学習ではどうかとも思うんですが。

松本：基本的な発想としてはいいと思いますよ。1年間海外留学をすると、結構話せるようになって帰ってきますよね。ただ、海外に行かなくても、1日2、3時間、効果的な学習を1年続けたら、1年間留学したのと同じくらいの効果があるらしいのですが、ただ、効果的な学習というのが難しい。一つには、自分のレベルよりちょっと上のレベルのもの〈i+1〉を学習すればいいんですが、それが理屈で言うほど簡単ではない。ちょっと上のレベルというのが曖昧でしょう。自分自身についてもよくわからないのに、教室に多数の学生がいてね、当然個人差もあるなかで、個々の学生の〈i+1〉なんてわかりえないでないでしょう。実際〈i+2〉や〈i+3〉になっているかもしれない

若杉：そうですね。ちなみに、語学科目の一クラスの大きさは大体どれくらいですか。

松本：英語は今40人前後です。

若杉：それは、多すぎると思う。

太田：朝鮮語は、今年（注：2004年度）、すごく少ないです。15人くらいです。
若杉：教えやすいでしょう。
太田：教えやすいです。
松本：英語は共通試験の結果をもとにレベル分けされたクラスですが、やはり人数はね。
下野：私の時代は五十音順で、60人いました。
若杉：中国語の初級のクラスは、今30人位ですね。理想を言えばもっと少なくしてほしいんですが。
松本：英語教育の分野では、適正人数は15人と言われますね。だから、15人越えたらあんまり変わらない。
太田：そんなに多いと、どうしようもないですよ。
若杉：それは、言えますね。
太田：こっちが一方的に喋るという感じで・・・。
若杉：相手の発音を聞いて、時間をかけて直すなんてできないし、1対1のコミュニケーションが成立してはじめて初級って成立するんですが。
太田：グループや、ペアを組んでやりとりする作業もほとんどできないですね。
若杉：そういう根本的な問題は、環境をどう整えるか、という最初の段階からあるみたいですよ。
松本：本学の授業開講数と教室数という点から考えると、少人数クラスは編成できないという理屈は理解できるんですが、でも語学教師という立場からは少人数クラスを訴え続けるしかないというのが本音でしょうか。〈完〉

あとがき

第1回FD座談会として、語学教育を担当している若手教員3人が集まり、忌憚のない意見を交換し合うことができたことは、大きな成果である。何らかの会議で顔をあわせても、語学教育に関して議論する機会はめったにない。この座談会が行われた昨年度は太田先生も若杉先生も教授開発室のメンバーではなかったが、座談会を機に2005年度からは両先生には室員としてご活躍していただいている。たった一回きりの座談会だけで、本学における外国語教育のあり方を語りつくすことは到底不可能なことではあるが、本学における今後の外国語教育の方向性を見定めるための来るべき論争の礎になったということに疑う余地はなからう。

〈文責：松本真治〉
〔『教授法開発室だより』vol.13掲載〕

第2回FD座談会 国語教育について（前編）

出席者■文学部人文学科 坪内稔典／教育学部教育学科 達富洋二／教授法開発室 下野隆喜

今年度は国語教育について座談会を実施した。

学生気質について

司会：現状はどうですか？

坪内：人文学科1回生に半年間入門ゼミで議論します。学生は議論し自由に喋るのが面白いといいますね。

司会：高校は自由ではないのでしょうか。

坪内：高校は、意外と自由に喋れない、大学も一方的に聞く事が多く、議論は新鮮で面白がるのでしょうか。

達富：坪内先生も楽しまれているということですね。

司会：達富先生はいかがでしょう？

達富：入門ゼミで、真剣に喋るのが楽しいと言う学生は多いですね。学生になぜ真剣と聞くと、普段は、結論を喋ることの連続で過程がない。しかし、入門ゼミは議論が面白いらしいです。

司会：結論だけですか。

達富：印象だけかな。

司会：どういう会話ですか？

坪内：普段は、あたりさわりが無い会話をしているじゃないですか。

司会：社会の反映でしょうか。

坪内：お互いに傷つけない優しい社会で、ということですね。

達富：喋っても「〇〇みたいなのとか、〇〇ほい」と、いうことでまとめてしまっているようで、話し手も聞き手も、ものわかり良すぎます。全部言わないのに、わかりすぎる。

司会：議論はないのでしょうか。

坪内：ないでしょうね。

達富：寂しいですね。

坪内：寂しいけど、ケータイで済ませて直接行かず顔を見ないことが少なくないでしょう。

達富：距離がありますよね。

司会：顔を合せないのが良いですか？

坪内：楽でしょ。顔を合わすと心に入るのでケータイで距離をとるんでしょうね。

司会：それで、満足ですか？

坪内：いや違う、本当に仲良くなれば話します。

司会：恋愛は？

坪内：僕は講義で、句会や歌会をしている。毎回歌を五首作り皆で批評する。殆ど恋の歌です。

達富：願望ですが、本音というか、叫びというか。

坪内：あなたが私の背中を支えてくれて良かったとか、あなたの部屋に何時までいたという歌ばかりです。

達富：直接喋らないで、メールで完結してしまうようですね。

司会：会わないのでしょうか。

坪内：まずケータイで、それを超えたら親密で個人的になるでしょ。

達富：昔より、ひとつ手段が増えたんでしょうね。受話器に向かっては叫ばないんじゃないでしょうか。

坪内：ケータイが生活を変えたんでしょう。

達富：変えましたよね。

司会：ケータイを持たないとどうなるのでしょうか。

坪内：僕は、困らないが、学生はケータイが無いと生きられない。

達富：持っていない人も、持っているふりをするんじゃないでしょうか。ケータイで距離をおく現実と、入門ゼミで熱くなる現実。この二つが面白い。

司会：ケータイが良く、入門ゼミで熱いのはなぜ？

坪内：全体だと熱くなる人が多いのも本当でしょう。ケータイでは難しいですよ。

達富：そうですね。

坪内：4回生でも、顔は知っている程度です。学科で仲良くなならない。

司会：クラブはどうですか。

坪内：クラブは昔風で一緒に酒を飲み、つきあいもする。けど、学科はそうはいかない。

達富：僕が学生時代に熱くなれたのは、語り合ったからでしょうね。教育学部だったから教育に対して本気という共通があったからです。

坪内：教育学部はなりやすい。教師という目標意識がはっきりある。文学部は、必ずしも決まっていなから。

達富：作家論で熱くなるとか？作品論とか？

坪内：それはない、偏差値でたまたまということです。国文と関係なく就職し、学問に熱くなりにくい。

達富：その辺は、教育学部は違いますね。

坪内：多分、そうでしょう。

達富：熱い教師像がありますから。もちろん全員かどうかは分かりませんが。

司会：活字離れとか、語彙が減ったとかありますが。

坪内：本を読まないのは、日本全体です。学生は本代に月で500円くらいですよ。

司会：文庫は？

坪内：買わない。

司会：勉強机がない？

坪内：ないです。本箱もない。

司会：何がありますか？

坪内：テレビとオーディオ。

達富：少し裕福なら、コンピュータがどんと置いてある。
坪内：勉強机は、コタツです。
達富：僕もそういう下宿に、行ったことがありますよ。
司会：インターネットは？
達富：調べる方法が、本じゃないですよ。
坪内：パソコンが圧倒的です。
達富：機械が教えてくれますから。最近は。
坪内：それはしかし、間違っていないです。
司会：学力は下がってないですか？
達富：僕は学力に、悲観的じゃない。元気な学生はいます。
司会：分数ができないとか聞きますが。
坪内：固定観念で今を見て言うから、環境が変化しても本質は変わらないです。
司会：今も昔も本質は、変わらないのですが。
坪内：多分。
達富：そう、多分。
司会：勉強しているのでしょうか。
達富：大学で鍛えるところがあります。1回生に作文を書かせると小学校以来で、中学高校は受験の小論文ばかり。が、書かせると妙に妥協しない。一週間締切り延長しろと言う。何かが夢中にさせているんですね。大学生にとって作文は面白いのでしょうか。
坪内：国語の教師が言葉を面白いものだと学校で教えていない。言葉はつまらないと思わせている。あれが間違いですね。
達富：そうですね。
坪内：言葉はいつも話すが、言葉がなければ考えない、言葉を楽しみと思えるのと嫌とでは全然違う。言葉は楽しいものだと、大学の教育で分かるようにしないといけない。
達富：大学の授業を受ければ受けるほど、現場の先生になるのが不安になる学生がいますよ。
司会：不安になるのですか。
達富：やっていける自信がないから、なるのを辞める学生もいる。
司会：自分が教えられないと決めるのでしょうか。
達富：たとえば、子供の作文の良さがわからない。分からないならわかるようになるまで教えない方がいいと考えてしまう。もっと子どもの言葉の楽しさや弾む気持ちとか一杯あるのにね。
司会：結論のやりとりで、学生が変化しているのですか。
達富：学生の言葉は、変化しています。
坪内：そうです。
達富：僕の頃より、お洒落です。
司会：お洒落？
坪内：僕の時代は、恥ずかしくて人前で話せなかった。赤面症は今いない。僕の頃はいました。

司会：あがってしまう学生はいませんか。

坪内：あがる者は、殆どいない。

達富：堂々とやりますよね。

坪内：発表します。旨く活かしたら良いです。やはり授業で学生を満足させることですね。関西はサービス精神旺盛で、笑わせようとしますよね。桂文珍さんが関西大の先生になると、それは学生へのサービスだと言う人がいる。腹がたつのは芸の難しさの認識がない。我々は話しのプロですけれども落語家に及ばない。芸を馬鹿にするのは駄目です。ある意味ではサービス業でしょ大学の先生は。

達富：芸というと、若者に迎合するように見るのかもしれませんがね。

坪内：若者の心を捉えるのが、どれほど大変かわかってない。

達富：若者の心を捉えるのは、名人の技。それならば、名人から学びたいですよ。

—以下次号— <文責：達富洋二>

『教授法開発室だより』vol.13掲載

第2回FD座談会 国語教育について（後編）

出席者■文学部人文学科 坪内稔典／教育学部教育学科 達富洋二／教授法開発室 下野隆喜

前号に続いて、第2回FD座談会の後半を掲載する。

教育実践について

司会：学生の心を掴むにはどうすればいいのでしょうか。

坪内：単純には、第一人者になることです。

達富：第一人者。どういうことですか。

坪内：学生に尊敬させ、ノーベル賞級の学者になることです。

達富：それは、たいへんなことですよ。

坪内：でも、残念ながら我々はそうじゃない。世界的超一流ではない。

達富：でも、学生の要求に応えないといけませんよね。

坪内：僕もそう思います。

司会：学生を、本気にさせる技術は何でしょうか。

坪内：技術を磨き、つけないといけませんよね。

司会：時も忘れて講義が終わるような？

坪内：1時間が、すぐ終わる。先生、もう終わりですかみたいな授業をしないとイケない。

達富：それは授業を組み立てる力であったり、話す力であったり、学生を理解する力であったり、ということですよ。

司会：技術はどうするのですか。

達富：文珍さんなら、話術も長けていますよね。

坪内：我々も話術を磨かなければならないし、中身も当然です。

達富：話術も必要な技術ですね。そういうFDがあっても面白いですね。

司会：なるほど。

達富：どんな型の講義であっても、学生を魅了すればいいのです。必ずしも派手が良いわけではありません。

坪内：派手は一回通用するけど講義は1回ではありませんから。続けないと。それが大学の難しい所です。

司会：花火が一発では駄目？

坪内：1回なら、なんとかなる。面白いものを、全て出せばよい。持っているもので、講演をやればいいんですよ。大学の授業は、それではいけない。全然面白くないこともやらなければならないのが難しいです。

司会：面白くないけど面白いのは、難しい。

坪内：難しいです。面白くないけど、面白く理解させるのが難しいです。

達富：でも、そこがやりがいでしょ。

坪内：結局、学生と議論するしかない。

達富：僕もそう思います。

坪内：議論をして、一緒に考える姿勢があればやれます。だから、教える側の一方的講義はとても退屈になる。

司会：双方向ではない。

坪内：ないです。

司会：教室で共有するような感じですか？

達富：学生を知的に楽しませないといけませんよね。退屈はいけない。僕は「ことば」で学生をもっと楽しませたいですね。

司会：意見を言わないのは多いですか？

坪内：多いです。僕は俳句とか短歌とかやらせているから、初めて喋る者はいます。言葉は、何十年かの生き方がやっぱり瞬間的に出ます。わかった瞬間は宝の時間です。

達富：そういうときの言葉って忘れませんか。

坪内：忘れないと思います。

達富：それは、瞬時の努力であり長い時間の努力ですね。

司会：楽しめないと学べないということですか。

坪内：そうです。

達富：そこです。

司会：距離というか、話せない先生がいるかもしれません。

達富：いないこともないでしょう。

坪内：いますね。

司会：質問したら怒られるとか。

達富：それは、講義以前の問題です。学びたい学生の要求に応えたいですね。

司会：楽しくないのは、どうかと思います。

達富：学びたい学生が楽しまないのは、おかしな話。共有する時間と空間を作らないといけませんよね。坪内先生は、楽しませる努力をされていますか。

坪内：無理な努力は殆どないです。基本的に楽しむと思っている。だから、楽しくなければ言葉が死んでいる。特別になにかしているわけじゃない。

達富：学生が「分かる」「楽しむ」「目覚める」ということは、そこに何かの力があるということですよ。

坪内：短歌を作って、授業は楽しいと大学で唯一息抜きの時間だと書いている。

司会：息抜き？

坪内：息抜きとはね。

達富：そうとしか言えないんでしょうか。

坪内：それしか言い表せなかったわけです。

達富：楽しむ時間があるか無いかと言えば、無いになるのでしょうか。

坪内：だけど、生き生きとした時間を作れたら教師として一番良い。感想を書かすと初めて90分、前を向いていたと書いています。

達富：嬉しい話ですね。

坪内：それが当たり前ですよ。

国語教育の実際について

司会：日本語を楽しめないのは、なぜでしょうか？

坪内：日本語で我々が間違っているのは、日本語は皆がわかっているからこそ一番難しい。お互いにわからないところから出発したら、分かり合う関係が生まれます。最初からわかるという関係で始まるから、そこが間違っていると思う。

達富：もう少し具体的に教えてください。

司会：思いこみですか。

坪内：日本語を使っているのに、わかるということではない。

司会：そうですね。

坪内：思いこんでいるんです。

司会：わかった筈はない。

坪内：そんな筈はないでしょう。

司会：違ってないとおかしい？

坪内：そうです。だけど、わかるところもあります。だから、言葉で通じようとするとも誤解が大きくなる。

達富：それでも、言葉で表現しちゃうんですね。

坪内：それは、言葉で通じる以外にないでからですよ。

達富：でも、そこには通じない大前提があるわけですね。

坪内：ほんとうは、通じないかもしれないけれど言葉を使うしかない。そこで伝えあう工夫があって、我々の国語教師の存在価値がある。

司会：言葉の工夫ですね。

坪内：どれだけ伝える為の工夫があるか。学生達に自分の教えるを単に喋っても全然通じないです。

司会：一方通行は、面白くない？

坪内：面白くないです。

司会：先生は面白いけど、学生は満足しない。

達富：工夫をしないで、伝わると思っているのでしょうか。

坪内：言葉は通じると思っているから。それは大きな誤解ですよ。教師はこう思うから、おまえもこうと。そんなことはありえないです。

達富：先生は学生の言葉も、聞かれますよね。

坪内：できるだけ、そうします。

達富：学生との会話は、どうでしょう。

坪内：僕の方が勝っています、僕の方が自由です。

達富：僕も負けない自信はありますよね。

司会：先生が？

坪内：僕も、古いけど彼らの方が古い。つまり、既成の観念にとらわれている。

司会：それは、感じられますか？

坪内：感じます。会話のキャッチボールで、わかります。

司会：相手がわかるんですね。

坪内：うん、相手がどんなボールを投げるかすぐわかる。学生の言葉に、古さがある。そ

れを僕が壊せると思える間は、まだ教師ができます。

達富：我々にとって、学生の言葉を受けることは大きな力ですね。

坪内：大きいですね。知らない話題も多いです。卒論で、新しい作家を取り上げる学生がいます。慌てて帰りに本屋で見たら考えの道筋は、まだ僕の方が勝っている。だからこんな風を読む方が、面白いじゃないかと言えます。

達富：なるほど。

司会：そこまで、されるってなかなかないですよ。

坪内：だって、教師はそこまでしないと面白みがないもの。

達富：坪内先生がりポート添削は結構楽しいとおっしゃるのはそこですね。

坪内：教師は楽しくないと、してられないですよ。

達富：そうですね。僕ももっと楽しまなくっちゃいけませんね。

坪内：学生達の考えを、壊すのは面白いですね。

達富：それは、わかります。面白いです。

司会：学生は古いですか？

坪内：彼らは言葉を使ってまだ20年足らず、殆どの言葉は受身です。

達富：そうです。自分の言葉をもっていませんね。

坪内：自分で、能動的に表現していません。

達富：言葉の魅力も怖さも十分には知らないですね。

坪内：その点は僕の方が、マシです。

達富：勿論そうです。僕もマシでしょう。

坪内：大抵、勝っています。

達富：能動的な言葉の使い手になるようにしたいですよ。

坪内：そうです。

達富：僕たちは、そのようにしなければいけないわけです。何らかの手当てをしなければいけませんね。

坪内：そうです。そうすると、学生も言葉を面白いと思うわけです。

司会：小学生は保守的ですか？

坪内：そりゃ小学生なんか一番保守的です。親の言うことをそのまま覚えているだけ。言葉は、全く保守的でおもしろくない。

達富：概念的なことばの使い手というか。思いのほか「ありのまま」ではないというか。

坪内：美味しいとしか言わないし、花は綺麗としか言わない。

司会：言葉が少ないですか？

坪内：いや、言葉が少ないからではなく表現できない。語法を知らないのです。

達富：本当にそうです。言い表わせないんですね。そういう機会に追い込まれないのでしょうか。

坪内：小学校で綺麗を使わないで、綺麗な表現ということをする生き生きします。

授業公開について

司会：授業公開を、FDでは考えているのですが。

達富：小・中学校の先生は、工夫していますよね。

坪内：工夫していますね。

司会：大学の先生が一番工夫していない？

坪内：僕も、そう思いますね。極論は、小学校の先生が高い給料を貰うのが正しいと思う。大学の先生は専門を話せばよい、小学生を相手にすることがどれだけ大変か、僕も体験してわかった。

司会：学生は、どうすれば？

坪内：基本的に若者は、保守的です。与えられただけで、自分で作ったものはないです。

達富：後ろからの情報で、前からがないということでしょうか。

坪内：自分で独創したものがない。オリジナルは殆どない。既存を使っているだけで保守的です。だから、保守的をどう変えていくかだと言えます。

達富：変えようとしたいですね。

司会：変えることは、容易ではない？

坪内：容易ではないですが、面白いです。

司会：今は近づいて来ないですか？

坪内：いや、そうでもないです。

達富：そうそう。だから、大学教育は悲観的なものではないですよ。

司会：悲観的な話しが多いですが。

坪内：でも実際は、正確にわからない。学生がついてこないと、僕は思っていない。

達富：僕も悲観的に思っていないですよ。学生って案外おもしろいものをもっているし、素敵なこともできる。

坪内：結構、ついて来ます。

司会：反応は、良いですか？

達富：良し悪しは、尺度で変わります。だからこそ、創造する場を、提供したいです。磨くより、まず発揮させたいですね。

司会：そこから議論が始まる。

達富：関係性を持つことです。

司会：関係性？

達富：授業も関係性ですよ。場を提供し関係性を作る。講義で作るのです。

司会：友達とか、先生とか。

達富：マイク一本の授業だけど、聞くだけでは駄目という場を設定する。

司会：マイクを渡すとか？

達富：マイクだけでは、なかなか反応が返って来ないかもしれませんが、僕たちが学生の座席の中まで行くんですよ。ライブですから。

坪内：そうです。だから、多くの学生を相手にしなければいけない。

達富：坪内先生が授業を終えると一番疲れるのが、よくわかります。

坪内：真剣勝負ですから。

司会：学生もそれだけ真剣な授業は、良いと思いませんか？

坪内：思いますよ。きっと。

達富：きっとそうですね。

司会：本日は、ありがとうございました。

〈文責：達富洋二〉

座談会を終えて

坪内先生、達富先生とも学生の創作意欲を捉え、講義を言葉で埋めている。日常の国語について興味深い座談となった。(司会記)

(『教授法開発室だより』 vol.14掲載)

「e-learningの導入経過について」

教学部担当部長 樹 下 隆 興

●エル・サポートについて

エル・サポートとは、主に携帯電話（PCでも利用可）を利用しての講義支援であり、2002年5月から試験的に導入されたシステムです。このシステムは、その名称が示すとおり、「機械によって学ぶのではなく、機械は講義をサポートするものであるという姿勢を明確化するという意味で、l-support (learning support)」と名付けられた。機能的には、演習問題、小テスト、アンケート、掲示板、教材倉庫、メール相談室 (mail)、ニュース、レポート、時間割などがパッケージで用意されており、必要な機能を各教員がチョイスして講義に利用していくというものであった。インフラは、学外のHOSTサーバにホスティングして、学生側は携帯電話を主体にして、PCでの利用が可能になっていた。利用に関しては、施行当初は、新しい教授方法における試作で、教授法の事例の開発や携帯電話での授業、およびインフラが身近にあることなどの事由により、利用度も高く、教員ライセンス数30名、学生利用ユーザー数3,000名まで拡張された。

*エル・サポート利用状況表

時 期	利用教員数	科 目 数	利用学生数
2002年試行期	07名 (FD：7)	28科目	1,610名
2003年春学期	14名 (FD：8、FD外：6)	53科目	2,735名
〃 秋学期	17名 (FD：9、FD外：8)	52科目	2,594名
2004年春学期	13名 (FD：7、FD外：6)	42科目	2,362名
〃 秋学期	16名 (FD：7、FD外：6、非常勤：4名)	45科目	2,007名
2005年春学期	06名 (FD：5、FD外：1)	18科目	1,009名
〃 秋学期	06名 (FD：3、FD外：3)	13科目	613名

新しい教授法の実践事例においては、各教員が工夫して授業方法の改善に取り組まれたメリットはあったが、学問分野における機能の開発や技術サポートの不足、および携帯電話におけるインフラから来る限界の問題等々でエル・サポート利用状況表の通り、教員ユーザー数や学生ユーザー数、さらにアクセス数も減退した。

●B-U-e-learningへの参画について

B-U-e-learningは、情報システムセンターが中心になり平成17年10月から試行した学習システムであり、本学の通学課程のネットワークであるB-COM-Netを利用した本学におけるe-learningのことである。B-U-e-learningが目指すものは、バーチャルユニバーシティの構築であり、教育の方法としては、大学内のface to faceの面接授業が重要であるが、現代のようなネットワーク社会にあっては、デジタルツールを利用することによ

り、地域や時間に制限されないインフラを利用することが大切な要素になる。

本学は、通信教育課程を設置していることから、従来の「教える教員」と「学ぶ学生」に加え、学ぶ立場であるが「社会の現場」を熟知している通信学生が存在する。この利点を生かして、教育・研究の振興に役立つネットワークを構築する必要があると思う。

その一段階として、まず、通学課程内に学生ポータルを意識したe-learningシステムを構築することである。

e-learningの機能は、教育機能のパッケージに捉われない教員と学生とが授業に必要な「使う」、「使える」機能から用意して行くこと。大学における教員の教授法は、個性が尊重されることが重要であると感じる。したがって、1教員1カスタマイズが最も好ましいと思われる。しかしながら、学問分野や個別の教授法において一定の共通な機能を集約すれば、学ぶ学生にとっても学び易く、大学にとっても経費的な軽減にも繋がる側面を持つことにもなる。そこで、エル・サポートで培った機能がこのシステムで生かせること becoming ことを含めて、教員と学生が必要とする機能の開発から始めることとした。

機能の情報は、デジタルの3要素である映像、音声、テキストを組み入れるが、開発当初はテキスト情報のみでスタートさせ、平成18年度から映像と音声機能を拡張させた。

現状の機能は、次のとおり

通常機能（テキスト）	本学開発機能（テキスト）	映像・音声機能
①フォーラム	⑦デジタルえんま帖	⑨映像
②お知らせ	（レポート提出・評価、採点記録簿）	⑩音声（開発中）
③教材箱	⑧学習指導案閲覧	
④アンケート	（個人情報第三者提供・著作権の許諾欄付）	
⑤学生へのmail配信 （携帯、PC）		
⑥小テスト（記述試験）		

開発当初の平成17年10月での利用教員数は、教育学部を中心にした教員6名、科目数12科目、ユーザー登録学生数533名が、平成18年秋学期予定では、教員10名、科目数16科目、ユーザー登録学生数700名となっている。

なお、通信教育課程のネットワークのSST-Netのe-learningでは、教科「数学」の6科目の映像コンテンツを本学が独自で開発し、テキスト部分はNTTのパッケージシステムを使用している。本学における映像コンテンツ制作は、平成10年度から開始した文部科学省の「エル・ネットオープンキャンパス」の講座の遠隔講義に端を発することができ、現在に至るまで毎年10本近くのコンテンツの制作を行っている。

課題としては、語学系の音声コンテンツの開発と教学内容をサポートする要員の確保と技術的サポートのスタッフを増員することであり、さらに一番大きい問題は、本学トップの認識がどのようなものかということである。

2005年度 活動記録

2005年

- 4月4日 基礎学力調査実施（新入生）
英語基礎力調査実施（新入生）
- 4月6日 英語基礎力調査実施（3回生）
- 4月13日 第1回教授法開発室員会議
- 5月18日 第2回教授法開発室員会議
- 5月19日 NUA学術情報システム研究会参加（於早稲田大学、松本真治、久保明）
- 6月22日 第3回教授法開発室員会議
- 6月27日～7月16日 授業評価アンケート実施
- 7月6日 第4回教授法開発室員会議
- 7月11日～12日 教授法および事務機構関連視察（東海大学清水校舎・湘南校舎、久保明・教務課長水谷俊之）
- 9月16日 第5回教授法開発室員会議
- 9月26日 第6回大学電子著作物権利処理事業説明会参加（於関西大学、久保明）
- 10月11日 第6回教授法開発室員会議
- 10月27日～28日 京都高等教育研究センター公開研究会参加（於ぱるるプラザKYOTO、久保明）
- 11月1日 『教授法開発室だより』13号刊行
- 11月15日 第7回教授法開発室員会議
- 11月21日 衛星通信教育振興協会セミナー参加（於メディア教育開発センター、久保明）
- 11月28日～1月23日 授業評価アンケート実施
- 12月6日・7日・8日・12日・13日・15日 授業公開実施
- 12月9日 第3回高大連携教育フォーラム参加（於キャンパスプラザ京都、松本真治、久保明）
- 12月13日 第8回教授法開発室員会議

2006年

- 1月17日 第9回教授法開発室員会議
- 2月2日 英語基礎力調査実施（新入生）
- 2月21日 第10回教授法開発室員会議
- 3月11日 第11回FDフォーラム参加（於京都外国語大学、久保明）
- 3月12日 第11回FDフォーラム第1分科会参加（於キャンパスプラザ京都、山本理絵）
- 3月17日 第11回教授法開発室員会議
- 3月27日・28日 第12回大学教育研究フォーラム参加（於京都大学、山本理絵）

2005・2006年度教授法開発室

2005年度

室長 松本 真治 (英米学科)
室員 笹田 教彰 (人文学科)
八木 透 (人文学科)
太田 修 (人文学科)
齊藤 隆信 (人文学科)
若杉 邦子 (中国学科)
小林 隆 (教育学科)
達富 洋二 (教育学科)
近藤 敏夫 (現代社会学科)
関谷 龍子 (公共政策学科)
岡崎 祐司 (社会福祉学科)
藤松 素子 (社会福祉学科)

(事務局スタッフ)

榎本 福寿 (教学部長・人文学科)
寺内 章 (教学部担当部長)
水谷 俊之 (教務課長)
石田 忠司 (通信教育部学務課長)
久保 明 (教授法開発室課長)
下野 隆喜 (教授法開発室主任)
山本 理絵 (教授法開発室契約専門職員)

2006年度

室長 松本 真治 (英米学科)
室員 有田 和臣 (人文学科)
太田 修 (人文学科)
齊藤 隆信 (人文学科)
清水 稔 (人文学科)
若杉 邦子 (中国学科)
小林 隆 (教育学科)
達富 洋二 (教育学科)
近藤 敏夫 (現代社会学科)
関谷 龍子 (公共政策学科)
岡崎 祐司 (社会福祉学科)
藤松 素子 (社会福祉学科)

(事務局スタッフ)

榎本 福寿 (教学部長・人文学科)
樹下 隆興 (教学部担当部長)
高田 忠明 (教務課長)
石田 忠司 (通信教育部学務課長)
瀬澤 且博 (情報システムセンター課長)
山本 博子 (教授法開発室課長)
岸田 恩 (教授法開発室主任)
山本 理絵 (教授法開発室契約専門職員)

FD Review vol.1

発行日 2006年9月20日
発行者 佛教大学教授法開発室
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL (075) 491-2141 (代)

印刷者 株式会社 田中プリント
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入
TEL 075-343-0006 FAX 075-341-4476



BUKKYO UNIVERSITY